HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン：5.10

ケーブル

ドキュメントリリース日：16 September 2008
ソフトウェアリリース日：September 2008

法的制限事項

著作権

(c) Copyright 1994-2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア

所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任は負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

商標

- Adobe®, Adobe logo®, Acrobat® and Acrobat Logo® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Mobile® and Windows Vista® are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに 11

ケーブルモジュールの対象ユーザ 11
ケーブルモジュールの使用目的 12
本マニュアルの使用方法 12

1. 概要 17

ケーブルモジュールの適用範囲 17
使用される主要概念 18

2. 実用例の概要 21

3. ケーブルモジュールの実装 27

準備段階 27
ケーブルデバイスのタイプ 29
ケーブルのタイプ 30
ケーブルの役割 31
カラーコードで使用する色 32
カラーコード 34
ラベル付け規則 38
ペア/導線のタイプ 44
接続タイプ 46
ケーブルの用途 48

場所 50
ケーブルに関連したプロジェクトと作業指示 52
ケーブルとケーブルデバイスの属性 55
ケーブルとケーブルデバイスのモデルのブランド 58
ケーブルのモデル 59
スロットなしケーブルデバイスのモデル 63
スロットタイプ 67
スロット付ケーブルデバイスのモデル 69
トポロジ 73
トポロジグループ 79
成端場所設定 83

4. 成端場所 95

［**成端場所の作成**］ウィザード 96
［**成端場所の拡張**］ウィザード 102
［**ワイヤリングクローゼットの複製**］ウィザード 107

5. ケーブルデバイス、ケーブルと接続 - 手動作成 113

ケーブルデバイス - 手動作成 114
ケーブル - 手動作成 125
接続 - 手動作成 127

6. 接続 - ウィザードを使って作成する 139

［**ライザの設置**］ウィザード 139
［**水平ケーブルの設置**］ウィザード 152
［**バンドルのクロスコネクト**］ウィザード 159

7. トレースを表示する 169

［**ケーブルのクロスコネクション**］ウィザード 169
［**デバイスのクロスコネクション**］ウィザード 172
［**デバイスのトレースを表示**］ウィザード 174
［**ケーブルのトレースを表示**］ウィザード 176

8. 用語解説（ケーブル） 179

Asset Manager専門用語（ケーブル） 179
専門用語（ケーブル） 194

インデックス 207

図の一覧表

1.1. ケーブルモジュール - 適用範囲 18
2.1. 実用例 - 使用される場所 22
2.2. 実用例 - 管理されるケーブルネットワーク 23
3.1. カラーコード - データモデル 35
3.2. ラベル付け規則とラベル - データモデル 39
3.3. ケーブルのラベル - 例 40
3.4. ペア/導線のタイプ - データモデル 45
3.5. 用途 - データモデル 49
3.6. 実用例 - 使用される場所 51
3.7. ケーブルとケーブルデバイス - データモデル 56
3.8. スロット - データモデル 68
3.9. トポロジ - データモデル 74
3.10. トポロジグループ - データモデル 80
3.11. トポロジ - ケーブルネットワークの成端場所との対応 81
3.12. 成端場所設定 - データモデル 84
3.13. 成端場所設定の例 - Asset Managerデータベース内での表記方法 . . 85
3.14. 成端場所設定の例 - 成端場所における対応 86
3.15. 成端場所設定 - 開始位置を変更する場合の影響の例 86
3.16. 成端場所設定 - ケーブルの役割とデバイスの方向付けを変更する場合の影響の例 87
3.17. 成端場所設定 - フロースペックを変更する場合の影響の例 87
3.18. 成端場所設定 - 開始位置の意味 88
3.19. 成端場所設定 - フロースペックの意味 89
3.20. 実用例 - 作成する成端場所設定 91
5.1. ケーブルとケーブルデバイス - データモデル 114

5.2. 仮想ポートと仮想バンドル - 図解 116
5.3. ポート/ポート型の両面デバイス - 図解 118
5.4. ポート/ピン型の両面デバイス - 図解 119
5.5. ピン/ピン型の両面デバイス - 図解 120
5.6. ケーブルリンク - 関連するコンポーネント 129
5.7. ケーブルリンク - データモデル 130
5.8. ケーブルリンク - 表記されるコンポーネントとデータベース間の対応 131
5.9. ケーブルリンク - 詳細データモデル 132
7.1. ［**ケーブルのクロスコネクション**］ウィザード - 検索用ウィンドウ 171
7.2. ［**デバイスのクロスコネクション**］ウィザード - 検索用ウィンドウ 173
7.3. ［**デバイスのトレースを表示**］ウィザード - 検索用ウィンドウ . . 175
7.4. ［**ケーブルのトレースを表示**］ウィザード - 検索用ウィンドウ . . 177
8.1. ケーブル、ペア、ペアのワイヤ - 写真 180
8.2. カラーコード - ワイヤ、ピン、色の対応 181
8.3. ケーブルデバイスのスロット - 図解 184
8.4. ケーブルのラベル - 例 186
8.5. RJ-45コネクタ - 写真 193
8.6. アダプタ - 写真 195
8.7. ラック - 写真 196
8.8. パンチダウンブロック - 写真 197
8.9. ケーブルネットワークの垂直配線 - 図解 199
8.10. ケーブルネットワークの水平配線 - 図解 200
8.11. ハブ - 写真 201
8.12. パッチコード - 写真 202
8.13. パッチパネル - 写真 202
8.14. リピータ - 写真 203
8.15. ルータ - 写真 204
8.16. スイッチ - 写真 205

表の一覧表

2.1. 実用例 - 管理されるコンポーネントのリスト 24
3.1. カラーコード - 入力必須のフィールドとリンク 36
3.2. ラベル付け規則 - 入力必須のフィールドとリンク 41
3.3. ペア/導線のタイプ - 入力必須のフィールドとリンク 46
3.4. 接続タイプ - 入力必須のフィールドとリンク 47
3.5. ケーブルの用途 - 入力必須のフィールドとリンク 50
3.6. ケーブルに関連するプロジェクトと作業指示 - 入力必須のフィールドとリンク 53
3.7. ケーブルデバイスとケーブル用の属性 - 入力必須のフィールドとリンク 57
3.8. ケーブルデバイスとケーブルのモデルのブランド - 入力必須のフィールドとリンク 58
3.9. ケーブルのモデル - 入力必須のフィールドとリンク 60
3.10. ［**ペアの作成**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 61
3.11. ［**ペアの作成**］ウィザード - 作成または変更されるデータ 61
3.12. スロットなしケーブルデバイスのモデル - 入力必須のフィールドとリンク 64
3.13. ［**ポートの作成**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 65
3.14. ［**ポートの作成**］ウィザード - 作成または変更されるデータ . . . 66
3.15. スロットタイプ - 入力必須のフィールドとリンク 69
3.16. スロット付ケーブルデバイスのモデル - 入力必須のフィールドとリンク 71
3.17. ［**スロットの作成**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 . . . 72
3.18. ［**スロットの作成**］ウィザード - 作成または変更されるデータ . . 72

3.19. トポロジ - 入力必須のフィールドとリンク 75
3.20. トポロジグループ - 入力必須のフィールドとリンク 82
3.21. 成端場所設定 - 入力必須のフィールドとリンク 90
4.1. 成端場所 - 入力必須のフィールドとリンク 96
4.2. ［**成端場所の作成**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 97
4.3. ［**成端場所の作成**］ウィザード - 作成または変更されるデータ . . . 99
4.4. ［**成端場所の拡張**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 . . . 102
4.5. ［**成端場所の拡張**］ウィザード - 作成または変更されるデータ . . 104
4.6. ［**ワイヤリングクローゼットの複製**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 107
4.7. ［**ワイヤリングクローゼットの複製**］ウィザード - 作成または変更されるデータ 109
5.1. ケーブルデバイス - 入力必須のフィールドとリンク 121
5.2. ケーブル - 入力必須のフィールドとリンク 126
5.3. 接続 - 入力必須のフィールドとリンク 134
6.1. ［**ライザの設置**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 141
6.2. ［**ライザの設置**］ウィザード - 作成または変更されるデータ . . . 146
6.3. ［**水平ケーブルの設置**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 . 153
6.4. ［**水平ケーブルの設置**］ウィザード - 作成または変更されるデータ 154
6.5. ［**バンドルのクロスコネクト**］ウィザード - 入力するフィールドの説明 161
6.6. ［**バンドルのクロスコネクト**］ウィザード - 作成または変更されるデータ 164
8.1. カラーコード - コネクタ*RJ-45* 181

はじめに

警告:

ケーブルモジュールを使用するには、以下の分野の技術的な知識が必要になります。

- ケーブルシステムの構造
- ケーブル配線の技術
- ケーブル機材
- ケーブル配線の規格

本マニュアルでは、これらの内容ついては説明されていません。本書は、ユーザに上記分野の知識があるものと前提しています。

ケーブルモジュールの対象ユーザ

ケーブルモジュールは、複雑なネットワーク（LAN、WAN、テレフォニ、ビデオなど）を有する企業や団体を対象としています。

ケーブルモジュールは、一般的に以下の担当者により導入されます。

- ネットワーク管理者
- メンテナンス技術者

ケーブルモジュールの使用目的

ケーブルモジュールを使用すると、以下のタスクを実行できるようになります。

- ケーブルやケーブルデバイスに関する物理的な棚卸情報を、詳細に渡って収集する
  - 技術的な情報
  - 実際の設置場所
- ケーブルとケーブルデバイスの位置を記録する
  - ラベル付けのシステム
  - ケーブルデバイスとケーブル間のケーブルリンクの記述
  - ユーザからサーバまたはユーザからPABX（Private Automatic Branch eXchange、企業内で使われる電話交換機）へのケーブル接続の一貫性を確認する
  - ケーブルやケーブルデバイスの設置や取り外しを管理するために、プロジェクトや作業指示を作成する

以上のタスクを管理することにより、次の操作が可能になります。

- 各ケーブルとケーブルデバイスの位置を確認する
- 故障した場合、欠陥ケーブルやケーブルデバイスの修理を容易に実行する
- 接続を設置、変更、削除する
- ケーブルとケーブルデバイス間の接続モードを均一化する
- 導線やコネクタのピンに至るまで、ケーブル配線の規格を定義する

本マニュアルの使用方法

「概要」の章

この章では、ネットワークのケーブル配線の概要と、Asset Managerにおけるケーブルネットワークの表記方法が説明されています。

Asset Managerの一般的な機能に関する概要をつかむために、この章を通読してください。

「実用例の概要」の章

使用方法をより容易に習得できるようにするために、本マニュアルでは実用例が採用されています。実用例では、Asset Managerデータベースの典型的なネットワークの一部を例にとっています。この実用例では、ケーブルモジュールに関連したテーブルと、頻繁に実行するタスクを自動化するケーブルウィザードを多数使用します。

「実用例の概要 [献 21]」の章をよく読んで、実用例を用いてAsset Managerデータベース内で何を作成するのか、本マニュアルで実用例をどのように活用するかについて理解してください。

「ケーブルモジュールの実装」の章

ケーブルデバイス、ケーブルやケーブルリンクを作成する前に、準備作業を行い、一部の参照テーブルへデータを入力する必要があります。

この章を通読して、準備段階のタスクや参照テーブルが何であるかを把握し、参照テーブルへの最適な入力方法を理解してください。

この章で説明されている作業段階は、作業の手順通りになっています。説明の順番に従って作業を実行してください。

各段階では、以下の点に関する情報が提供されています。

注意:

以下の点は必要な場合にのみ詳しく記述します。

- **一般情報**
  - **定義**

    この節では、「用語解説（ケーブル） [献 179]」の章のどの定義を参照するべきかが説明されています。Asset Managerで、各用語は特定の意味を持っているため、定義を熟読しておくことは非常に大切です。
  - **テーブル名**

    値を入力する必要がある参照テーブルの名前
  - **アクセスメニュー**

    値を入力する必要があるテーブルへアクセスするためのメニュー
  - **簡略化されたデータモデル**

    このモデルは、管理者がデータベースの構造を理解するために役立ちます。この情報は、データを適切に作成し、必要に応じてAsset Managerの使用方法をカスタマイズする際に不可欠です。
- **レコードの作成手順**

  この節は、テーブルでレコードを作成する際に必要な情報をまとめています。
  - **必要条件**

    あるテーブルにレコードを入力する前に、他のテーブルに入力していなければならない場合もあります。この節では、この必要条件の一覧が記載されています。
  - **入力必須のフィールドとリンク**

    Asset Managerには多数のフィールドとリンクがあります。これらの一部は必須フィールドやリンクであり、残りは任意です。ここでは、ケーブルモジュール機能での必須フィールドとリンクの一覧が記載されます
- **実用例用レコードの作成**

ユーザが機能の理解を深められるように、ケーブルモジュールの実装は、各作業順に具体的な例を使って説明されています。この実用例を各ユーザの状況に合わせて変更すれば、実装を容易に実行できます。

情報を過多に提供しないために、本書ではデータベースのフィールドとリンクに関する詳細は省略されています。これらの情報については、フィールドやリンクの状況依存ヘルプを参照してください。

また、各テーブルでのレコードの作成方法は詳しく説明されていません。作成方法は、Asset Managerの一般的な操作方法と同様です。

「成端場所」の章

参照テーブルが作成された後、成端場所を作成できるようになります。ケーブルウィザードを利用しやすくするには、ライザケーブルと水平ケーブルを設置する前に、成端場所を作成しておく必要があります。

この章を通読して、成端場所を作成、拡張、複製する方法を理解してください。

注意:

成端場所は、ウィザードで成端場所設定を参照して作成されます。

「ケーブルデバイス、ケーブルと接続 - 手動作成」の章

ケーブルデバイス、ケーブルや接続を手動で作成することももちろん可能です。この章は手動作成方法を説明します。

しかしAsset Managerには、このタスクを自動化するケーブルウィザードが付属しています。

ウィザードがレコードを作成する方法を理解するためには、この章を通読してください。その他の場合は次の章にお進みください。

「接続 - ウィザードを使って作成する」の章

この章では、ケーブル配線管理の主要作業を自動化するウィザードが解説されています。

各ウィザードの説明には以下の情報が含まれています。

- ウィザードが果たす機能
- 必要条件
- ウィザードの使用
- ウィザードの実行時に有用な情報
- ウィザードが作成または変更するデータ
- 結果を表示する
- ウィザードの実行後
- 問題が起こった場合の解決方法

この章を読んで、ウィザードの機能を把握してください。

「トレースを表示する」の章

ケーブルネットワークは、莫大な数のケーブルと接続から構成されています。これらのケーブルや接続の位置を確認できるようにするために、Asset Managerではネットワークのトレースを表記しています。

この章を通読して、トレースの表記にアクセスし、表記を読み取って検索するための方法を理解してください。

「用語解説（ケーブル）」の章

ケーブルモジュールの用語は非常に専門的です。付属の用語集では、Asset Managerの主要用語と、ケーブル分野の一般用語が記載されています。

この用語集を熟読して、用語の意味を理解してください。

1 概要

ケーブルネットワークの管理は複雑です。これは、ネットワーク内のケーブルとデバイスが多数に上ることに起因しています。このため、ケーブルとケーブルデバイスの位置を正確にかつ簡単に見つけ出すことが、管理にあたって非常に重要になります。

Asset Managerではこの正確な位置確認が可能になっており、また紙上や汎用データベースで保存するのが困難な多数の情報を、適切に管理できるようになっています。

ケーブルモジュールの適用範囲

本節では、ケーブルネットワークの管理における幾つかの側面を説明し、Asset Managerデータベースでネットワークがどのように表記されているかを解説します。主要用語も本節で定義されています。

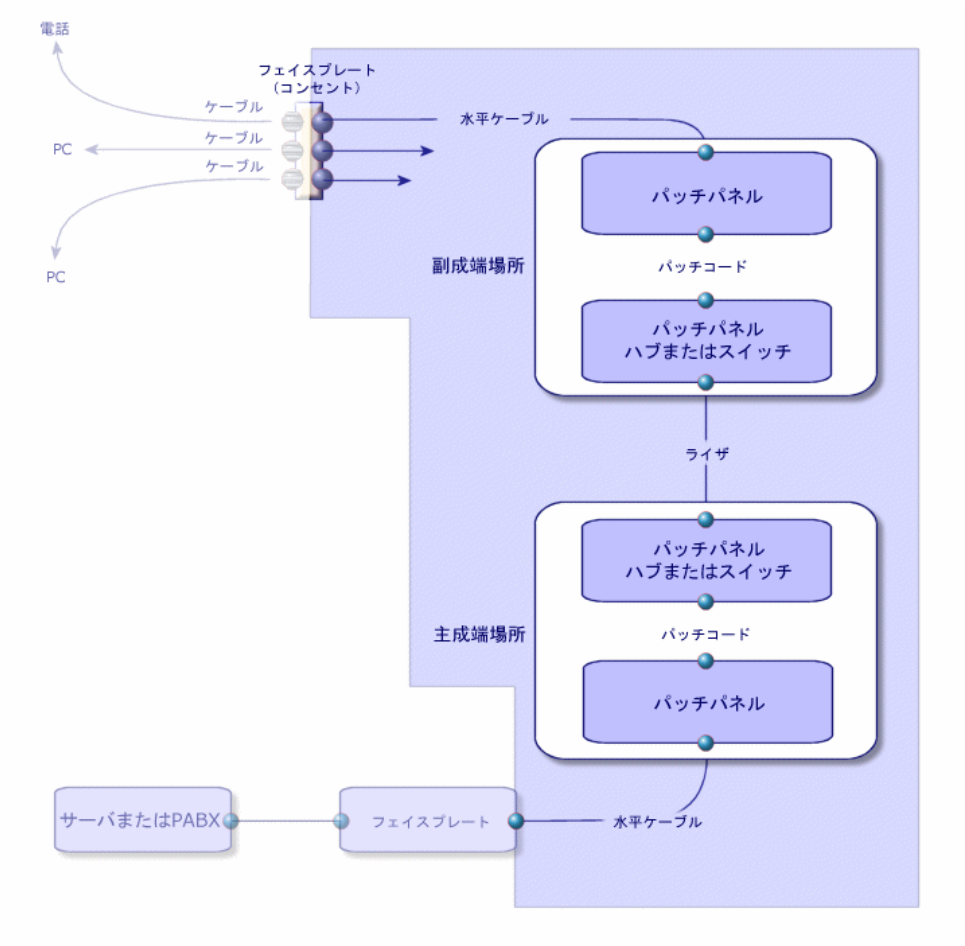
ケーブルモジュールは、フェイスプレート（コンセント部分）から成端位置に至る、ケーブルネットワークの「目に見えない」部分を取り扱います。

例

- フェイスプレートの目に見えない部分は管理の対象になります。フェイスプレートの目に見える部分と、フェイスプレートからコンピュータ、周辺機器、電話機への接続は、管理の対象にはなりません。
- 成端場所のデバイス、ライザや水平ケーブルは管理の対象になります。サーバ、PABXや、PABXからネットワークへの接続は管理の対象にはなりません。

ケーブルモジュールの管理対象部分は、次の図の通りです。

図 1.1. ケーブルモジュール - 適用範囲



使用される主要概念

ここではケーブルモジュールで使用する主な用語について説明します。

用語の定義の参照先：▶ 用語解説（ケーブル） [献 179]

ケーブル：ペア、導線、バンドル

▶ ペア/導線 [献 189]
▶ バンドル [献 186]

ケーブルデバイス：ピン、ターミナル、ポート

▶ ピン/ターミナル [献 179]
▶ ポート [献 189]

ケーブルとケーブルデバイス間の接続：接続タイプ

▶ 接続タイプ [献 192]

ケーブルデバイスとケーブルは以下の方法で接続されます。

- デバイスのピンから、デバイスのピンへ
- デバイスのピンから、ケーブルのワイヤや導線へ
- デバイスのポートから、デバイスのポートへ
- デバイスのポートから、ケーブルのバンドルへ

Asset Managerは2種類の接続タイプを区別します。

- ピンによる接続：各ピンが識別されます。
- ポートによる接続：個々のピンは識別されません。

接続：（ケーブル）リンク、ユーザ方向とホスト方向

▶ リンク [献 188]
▶ ホスト [献 188]
▶ ユーザ [献 194]

注意:

成端場所のデバイス間の接続に使用されるパッチコードは、データベースには記録されません。ポートと成端場所デバイス間のリンクのみが記録されます。

ワイヤとピンを識別する：カラーコード

▶ カラーコード [献 180]

2 実用例の概要

ケーブルモジュールの使用方法を簡単に習得できるように、本マニュアルの説明には実用例が採用されています。

実用例により、ケーブルモジュールが表記する内容と表記方法を、素早く理解できるようになります。

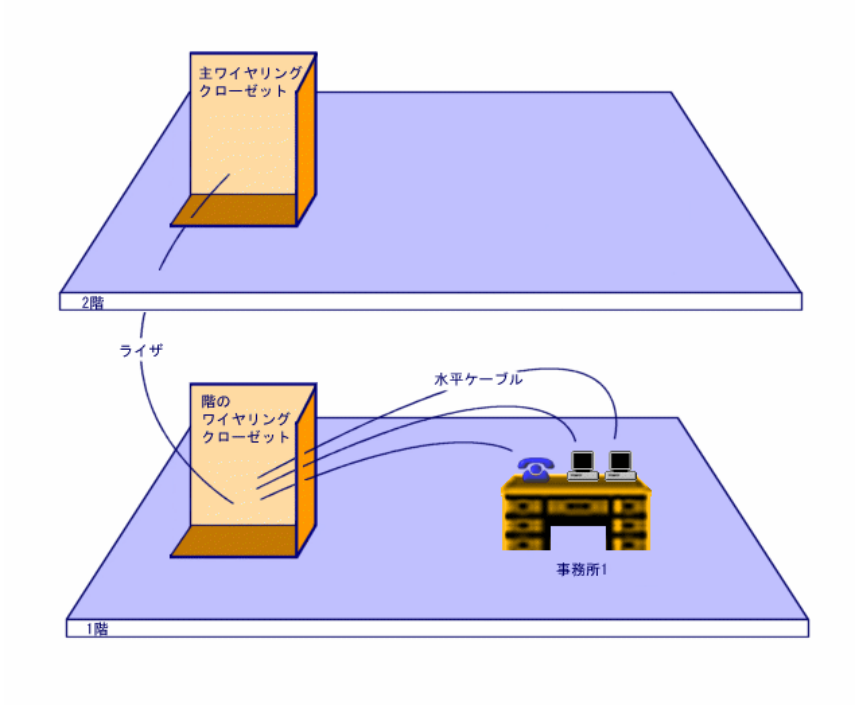
警告:

実用例を使用するためには、本マニュアルで説明されている順番に従って、各操作を実行する必要があります。必須フィールドと必須リンクのみが解説されているため、その他のフィールドとリンクは、各自の必要に応じて使用してください。

実用例の場所

実用例で使用するネットワークは、次の図が示す場所に配置されています。

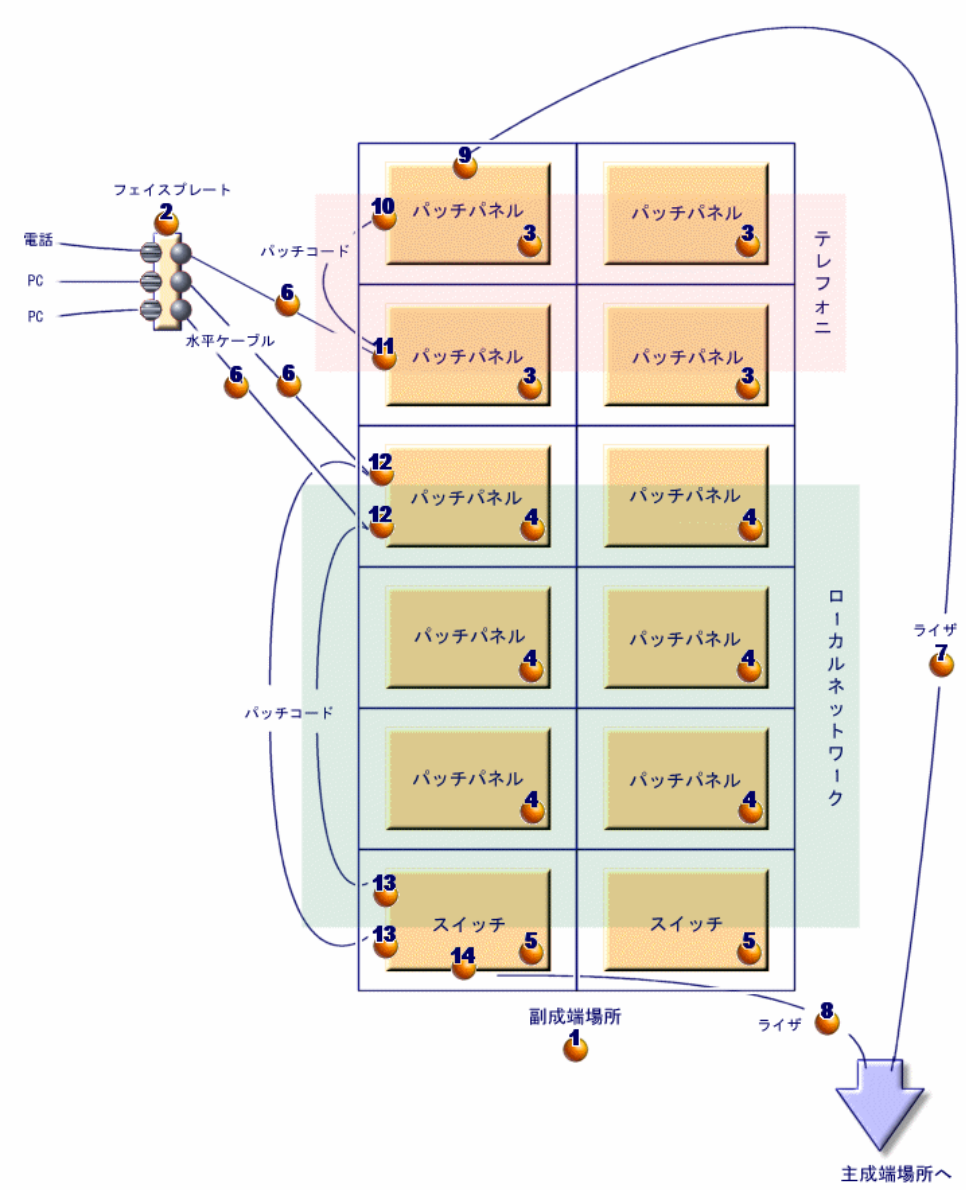
図 2.1. 実用例 - 使用される場所



実用例のネットワーク

実用例ネットワークの内、Asset Managerデータベースで管理される部分は以下の図の通りです。

図 2.2. 実用例 - 管理されるケーブルネットワーク



このネットワークには、ケーブルモジュールで管理されないコンポーネントも含まれています。

- 電話ケーブルでフェイスプレートに接続される電話1台
- LANケーブルでフェイスプレートに接続されるコンピュータ1台
- LANケーブルでフェイスプレートに接続されるノートパソコン1台

管理されるコンポーネントは以下の通りです。

表 2.1. 実用例 - 管理されるコンポーネントのリスト

図内の番号	数量	コンポーネント	明細	接続タイプ
1	1	成端場所	2列と6行	適用外
2	1	フェイスプレート	8ピン付きのポート3個	ピン型
3	4	パッチパネル	裏側：ケーブル付きの8ピンのポート24個	ポート型
			表側：RJ45ポート24個	ポート型（パッチ）
4	6	パッチパネル	裏側：ピン256個（32 x 8）	ピン型
			表側：RJ45ポート24個	ポート型（パッチ）
5	2	スイッチ	スロット10個	適用外
	1	モジュール（スイッチのスロット1つ用）	RJ45ポート8個	ポート型
6	3	水平ケーブル	2本の銅線ワイヤから成るツイストペアケーブル（より対線）4本	適用外
7	1	ライザケーブル	2本の銅線ワイヤから成るツイストペアケーブル（より対線）32本	適用外
8	1	ライザケーブル	2本の銅線ワイヤから成るツイストペアケーブル（より対線）4本	適用外
9	1	ポート	ピン2個（裏側）	ピン型
10	1	ポート	ピン8個（表側）	ポート型
11	1	ポート	ピン8個（表側）	ポート型
			ピン8個（裏側）	ピン型
12	2	ポート	ピン8個（2面）	ポート型

図内の番号	数量	コンポーネント	明細	接続タイプ
13	2	ポート	ピン8個（表側）	ポート型
14	1	ポート	ピン8個（裏側）	ポート型

3　ケーブルモジュールの実装

ケーブルモジュールを実装する前に、まず本章で説明されている準備作業を行う必要があります。

次に、ケーブル、ケーブルデバイスやリンクを作成/記述するために使用される参照情報を、定義する必要があります。これらの参照情報は最初に作成されなければなりませんが、後で補足したり更新したりすることも可能です。

準備段階

マニュアルを通読するには

本マニュアルを通読するためには、以下の操作が必要です。

1 Asset Managerをインストールします。
2 Asset Managerを実行します。
3 Asset Managerのデモ用データベースへ接続します。
4 ［**ファイル／モジュールの起動**］メニューで、ケーブルモジュールを有効にします。

ケーブルモジュールを使って本番用データベースで作業する

本番用データベースで作業するためには、以下の操作が必要です。

1 Asset Managerをインストールします。
2 Asset Manager Application Designerを実行します。

3 ケーブル専用の**専門分野データ**をインポートして、データベースを作成します（詳しい手順は以下を参照）。
4 ケーブルモジュールを含むライセンスを挿入します。
5 Asset Managerを実行します。
6 データベースへ接続します。
7 ［**ファイル／モジュールの起動**］メニューで、ケーブルモジュールを有効にします。

専門分野データをデータベースの作成時にインポートする

以下の手順に従います。

1 Asset Manager Application Designerを実行します。
2 ［**ファイル／開く**］メニューを選択します。
3 ［**データベース記述ファイルを開く(新規データベースの作成)**］オプションを選択します。
4 Asset Managerのインストール先フォルダの「config」サブフォルダ内にある「gbbase.xml」ファイルを選択します。
5 データベース作成ウィザードを起動します（［**アクション／データベースの作成**］メニュー）。
6 マニュアル『**管理**』の「*Asset Manager*データベースの作成、変更、削除」の章の手順にしたがってください。

   ［**インポートするデータ**］ページで**ケーブル - 専門分野データ**を選択します。

専門分野データを既存のデータベースにインポートする

以下の手順に従います。

1 Asset Manager Application Designerを実行します。
2 ［**ファイル／開く**］メニューを選択します。
3 ［**データベース記述ファイルを開く(新規データベースの作成)**］オプションを選択します。
4 Asset Managerのインストール先フォルダの「config」サブフォルダ内にある「gbbase.xml」ファイルを選択します。
5 データベース作成ウィザードを起動します（［**アクション／データベースの作成**］メニュー）。
6 次のようにウィザードのページを入力します（ウィザードページを移動するには、［**次へ**］または［**前へ**］ボタンを使用します）。

   ［**SQLスクリプトの生成／データベースの作成**］ページ：

フィールド	値
データベース	レポートをインポートする先のデータベースへの接続を選択します。

フィールド	値
作成	専門分野データをインポートします。
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しないでください。

［作成パラメータ］ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者パスワードを入力します。 **注意:** Asset Managerデータベース管理者は、［部署と従業員］ (amEmplDept) テーブルの［名前］ (Name) フィールドに*Admin*として記録されます。 データベース接続ログインは［ユーザ名］（UserLogin）フィールドに格納されます。管理名は*Admin*です。 パスワードは［パスワード］フィールド（LoginPassword）に格納されます。

［インポートするデータ］ページ：

フィールド	値
使用可能なデータ	［ケーブル - 専門分野データ］オプションを選択します。
エラー発生時にインポートを中止	インポートの途中で問題が発生したら、このオプションを選択してインポートを中止します。
ログファイル	エラーと警告を含む、すべてのインポート操作が記録されるファイルのフルネーム。

7 ウィザードを使用して定義したオプションを実行します（［実行］ボタン）。

Asset Managerのインストールの詳細について

マニュアル『インストールとアップグレード』を参照してください。

ケーブルデバイスのタイプ

定義

▶ ケーブルデバイスのタイプ [献 193]

テーブル名

ケーブルデバイスのタイプは、［**リストデータ**］（SQL名：amItemizedList）テーブルの［**amDeviceType**］リストデータに格納されています。

アクセス用メニュー

［管理／リストデータ］

ケーブルデバイスのタイプを作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［管理／リストデータ］）。
2 ［**amDeviceType**］リストデータを選択します。
3 必要な値を作成します。

必要条件

必要条件はありません。

［**amDeviceType**］リストデータは、［**リストデータ**］テーブル内に既存しています。

実用例用にケーブルデバイスのタイプを作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［管理／リストデータ］）。
2 ［**amDeviceType**］リストデータを選択します。
3 以下の値を作成します（リストデータにない場合）。
   - スイッチモジュール
   - パッチパネル
   - フェイスプレート
   - スイッチ

ケーブルのタイプ

定義

▶ ケーブルのタイプ [献 192]

テーブル名

ケーブルのタイプは、［**リストデータ**］（SQL名：amItemizedList）テーブルの［**amCableType**］リストデータに格納されています。

アクセス用メニュー

［管理／リストデータ］

ケーブルのタイプを作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［**管理／リストデータ**］）。
2 ［**amCableType**］リストデータを選択します。
3 必要な値を作成します。

必要条件

必要条件はありません。

［**amCableType**］リストデータは、［**リストデータ**］テーブル内に既存しています。

実用例用にケーブルのタイプを作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［**管理／リストデータ**］）。
2 ［**amCableType**］リストデータを選択します。
3 以下の値を作成します（リストデータにない場合）。
   - **ツイストペア**

ケーブルの役割

定義

▶ 役割 [献 190]

テーブル名

ケーブルの役割は、［**リストデータ**］（SQL名：amItemizedList）テーブルの［**amCableRole**］リストデータに格納されています。

アクセス用メニュー

［管理／リストデータ］

ケーブルの役割を作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［**管理／リストデータ**］）。

2 ［**amCableRole**］リストデータを選択します。
3 必要な値を作成します。

必要条件

必要条件はありません。

［**amCableRole**］リストデータは、［**リストデータ**］テーブル内に既存しています。

実用例用にケーブルの役割を作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［**管理／リストデータ**］）。
2 ［**amCableRole**］リストデータを選択します。
3 以下の値を作成します（リストデータにない場合）。
   - **ライザ**
   - **水平**

カラーコードで使用する色

テーブル名

色は、［**リストデータ**］（SQL名：amItemizedList）テーブルの以下のリストデータに格納されています。

- **amColor**
- **amTipColor**
- **amRingColor**

アクセス用メニュー

［管理／リストデータ］

［**amColor**］、［**amTipColor**］と［**amRingColor**］リストデータは、［**リストデータ**］テーブル内に既存しています。

色を作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［**管理／リストデータ**］）。
2 ［**amColor**］リストデータを選択します。
3 必要な値を作成します。
4 ［**amTipColor**］リストデータを選択します。

5 必要な値を作成します。
6 ［**amRingColor**］リストデータを選択します。
7 必要な値を作成します。

ヒント:

まず［**amColor**］リストデータで色を作成し、次に［**amTipColor**］と［**amRingColor**］リストデータにコピーすると、簡単に作成できます。

必要条件

必要条件はありません。

実用例用に色を作成する

実用例のカラーコードエントリで必要な色を作成します。

まず［**amColor**］リストデータで色を作成し、次に［**amTipColor**］と［**amRingColor**］リストデータにコピーします。

［amColor］リストデータの色を作成する

1 リストデータの一覧を表示します（［**管理／リストデータ**］）。
2 ［**amColor**］リストデータを選択します。
3 以下の値をリストデータに追加します。
   - **白/青**
   - **白/茶**
   - **白/オレンジ**
   - **白/緑**
   - **青**
   - **青/白**
   - **青/黄**
   - **青/黒**
   - **青/赤**
   - **青/紫**
   - **黄/青**
   - **黄/茶**
   - **黄/緑**
   - **茶**
   - **茶/白**

- 茶/黄
- 茶/黒
- 茶/赤
- 茶/紫
- 黒/青
- 黒/茶
- 黒/オレンジ
- 黒/緑
- オレンジ
- オレンジ/黒
- 赤/青
- 赤/茶
- 赤/緑
- 緑
- 緑/白
- 緑/黄
- 緑/黒
- 緑/赤
- 緑/紫
- 紫/青
- 紫/茶
- 紫/緑

［amTipColor］と［amRingColor］リストデータの色を作成する

［**amColor**］リストデータと同じ方法で作成します（同じ色を作成します）。

カラーコード

定義

- カラーコード [献 180]
- カラーコードエントリ [献 185]
- リング [献 188]
- チップ [献 189]

テーブル名

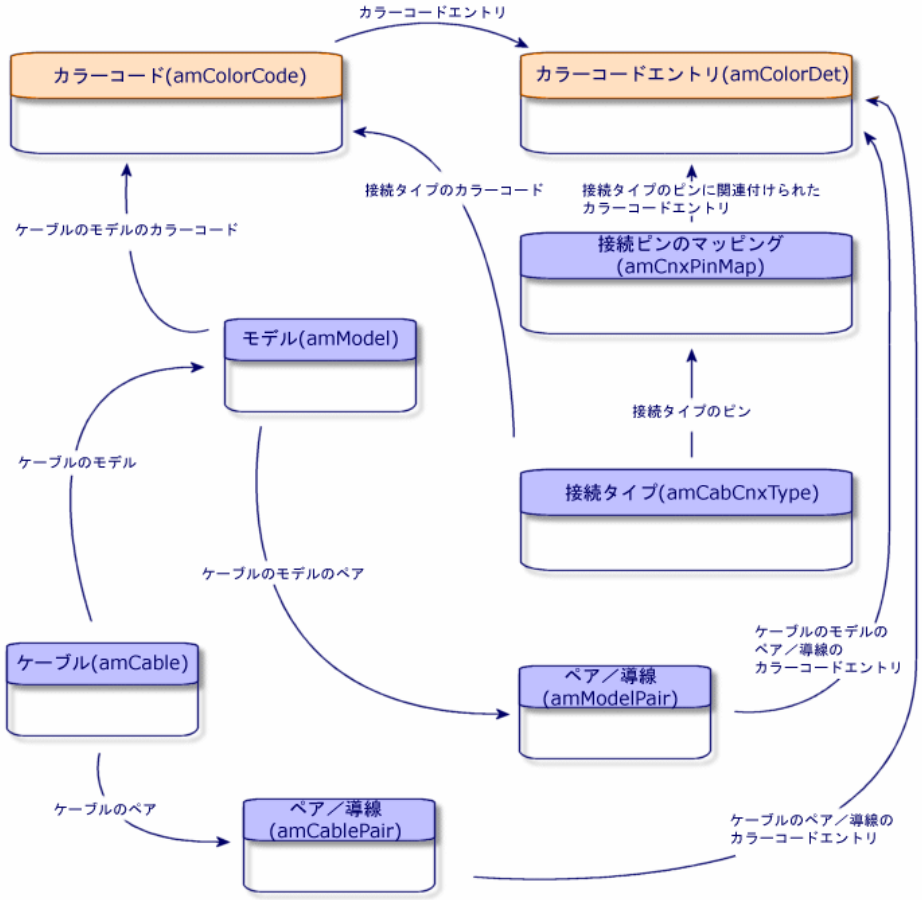
- ［カラーコード］（SQL名：amColorCode）
- ［カラーコードエントリ］（SQL名：amColorDet）

アクセス用メニュー

［ケーブル／カラーコード］

データモデルの概略図

図 3.1. カラーコード - データモデル



カラーコードを作成する

1 カラーコードのリストを表示します（［**ケーブル／カラーコード**］）。
2 作成するカラーコードごとに以下の操作を行います。
   1 ［**カラーコード**］テーブル内にレコードを作成します。
   2 ペアまたは導線ごとに、カラーコードエントリを追加します。

必要条件

［**リストデータ**］（SQL名：amItemizedList）テーブルの以下のリストデータに、先に色を作成しておくことが推奨されています。

- **amColor**
- **amTipColor**
- **amRingColor**

作成していない場合は、カラーコードの作成時に仮作成できます。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.1. カラーコード - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
［**カラーコード**］（SQL名：amColorCode）テーブル	
名前	Name
カラーコードエントリ	ColorDetail
［**カラーコードエントリ**］（SQL名：amColorDet）テーブル	
番号	sSequenceNumber
色	Color

実用例用にカラーコードを作成する

2つのカラーコードと、カラーコードのエントリを作成します。

カラーコードを作成する

1 カラーコードのリストを表示します（［**ケーブル／カラーコード**］）。
2 ［**カラーコード**］（SQL名：amColorCode）テーブルで各カラーコード用に新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

フィールドまたはリンクの値	レコード1	レコード2
名前（**Name**）	568B - 4ペア	568B - 32ペア

カラーコードエントリ「**568B - 4**ペア」を作成する

1 カラーコード「**568B - 4ペア**」を選択します。
2 以下のカラーコードエントリを作成します。

［番号］（SQL名：sSequenceNumber）フィールドの値	［色］（SQL名：Color）フィールドの値	［チップの色］（SQL名：TipColor）フィールドの値	［リングの色］（SQL名：RingColor）フィールドの値
1	青	白/青	青
2	オレンジ	白/オレンジ	オレンジ
3	緑	白/緑	緑
4	茶	白/茶	茶

カラーコードエントリ「**568B - 32**ペア」を作成する

1 カラーコード「**568B - 32ペア**」を選択します。
2 カラーコードを選択し、以下のカラーコードエントリを作成します。

［番号］（SQL名：sSequenceNumber）フィールドの値	［色］（SQL名：Color）フィールドの値	［チップの色］（SQL名：TipColor）フィールドの値	［リングの色］（SQL名：RingColor）フィールドの値
1	白/青	白/青	青/白
2	白/茶	白/茶	茶/白
3	白/緑	白/緑	緑/白
4	青/黄	青/黄	黄/青
5	青/黒	青/黒	黒/青
6	青/赤	青/赤	赤/青
7	青/紫	青/紫	紫/青
8	黄/茶	黄/茶	茶/黄
9	黄/緑	黄/緑	緑/黄
10	茶/黒	茶/黒	黒/茶
11	茶/赤	茶/赤	赤/茶
12	茶/紫	茶/紫	紫/茶
13	黒/オレンジ	黒/オレンジ	オレンジ/黒
14	黒/緑	黒/緑	緑/黒
15	赤/緑	赤/緑	緑/赤
16	緑/紫	緑/紫	紫/緑
17	白/青	白/青	青/白
18	白/茶	白/茶	茶/白
19	白/緑	白/緑	緑/白

［番号］（SQL名：sSequenceNumber）フィールドの値	［色］（SQL名：Color）フィールドの値	［チップの色］（SQL名：TipColor）フィールドの値	［リングの色］（SQL名：RingColor）フィールドの値
20	青/黄	青/黄	黄/青
21	青/黒	青/黒	黒/青
22	青/赤	青/赤	赤/青
23	青/紫	青/紫	紫/青
24	黄/茶	黄/茶	茶/黄
25	黄/緑	黄/緑	緑/黄
26	茶/黒	茶/黒	黒/茶
27	茶/赤	茶/赤	赤/茶
28	茶/紫	茶/紫	紫/茶
29	黒/オレンジ	黒/オレンジ	オレンジ/黒
30	黒/緑	黒/緑	緑/黒
31	赤/緑	赤/緑	緑/赤
32	緑/紫	緑/紫	紫/緑

ラベル付け規則

定義

- ラベル付け規則 [献 189]
- ラベル [献 185]

テーブル名

［ラベル付け規則］（SQL名：amLabelRule）

アクセス用メニュー

［ケーブル／ラベル付け規則］

図 3.2. ラベル付け規則とラベル - データモデル

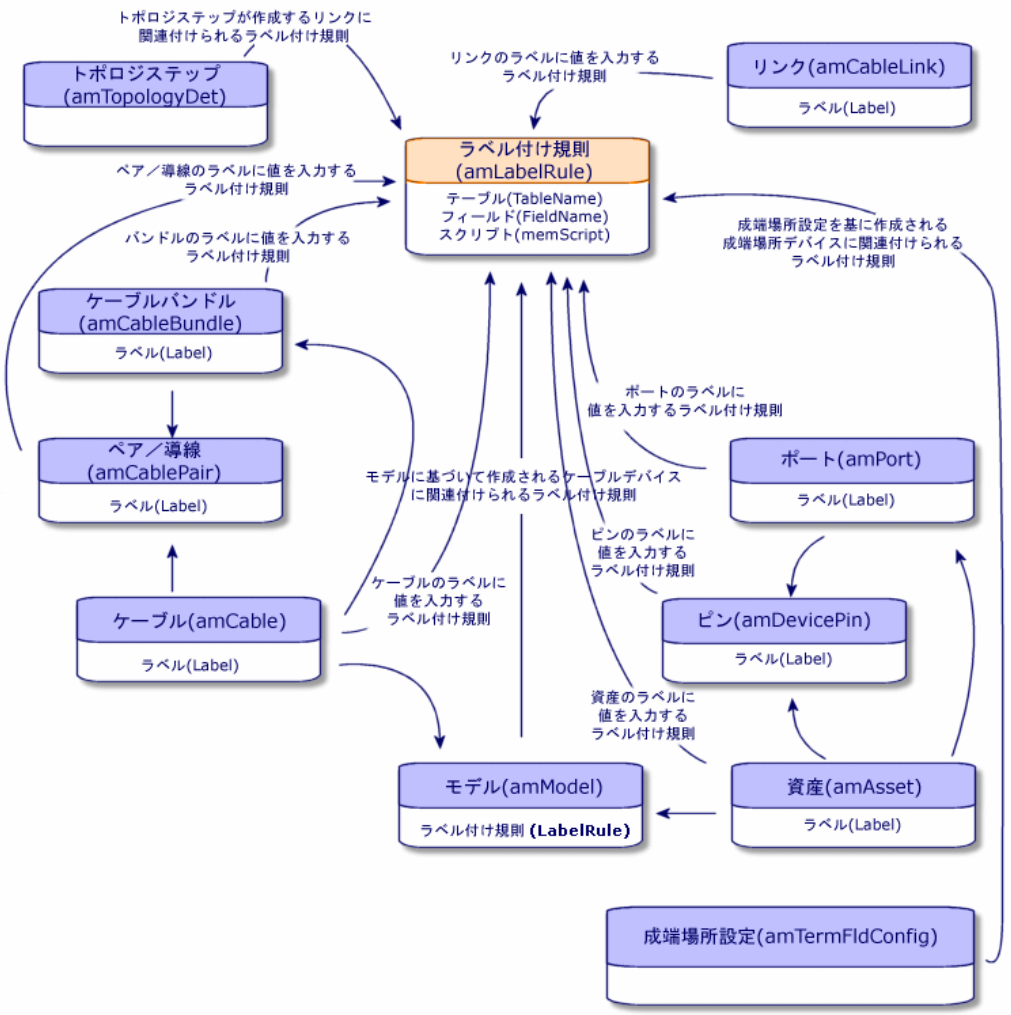
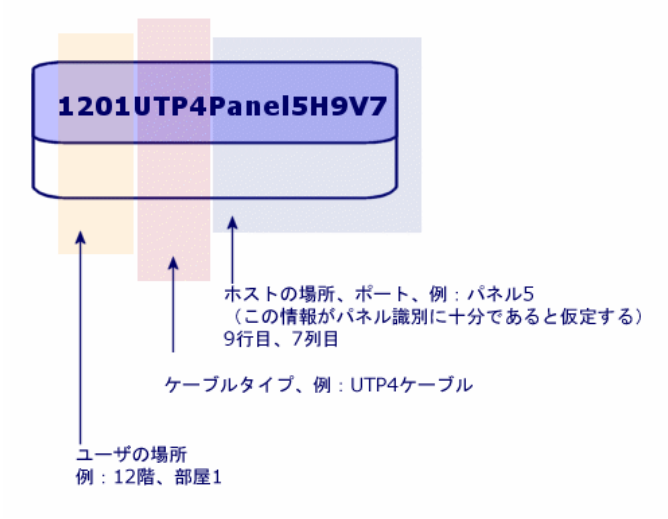


図 3.3. ケーブルのラベル - 例



ラベル付け規則を作成する

警告:

以下のコンポーネントを識別するためには、ラベル付け規則を必ず作成しなければなりません。作成しないと、ウィザードは正常に機能しません。

- ケーブルデバイス
- 成端場所デバイス
- ケーブル
- リンク

ヒント:

以下のような状況に応じて、リンクのラベルの作成方法は異なります。

- 接続はポートまたはピン経由である。
- ピンの連続番号の最初と最後の番号を使用する、または全連続番号を使用する。
- リンクの対象はケーブルである、またはケーブルデバイスである。

必要に応じて、以下のコンポーネント用にラベル付け規則を作成します。

- バンドル
- ピン/ターミナル
- ポート
- ペア/導線

ラベル付け規則を作成するには、

1 ラベル付け規則のリストを表示します（［**ケーブル／ラベル付け規則**］）。
2 リストからレコードを作成します。

必要条件

どの情報を基にラベルを作成するかを厳密に決定してください。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.2. ラベル付け規則 - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
フィールド	FieldName
名前	Name
SQL名	SQLName
スクリプト	memScript
テーブル	TableName

実用例用にラベル付け規則を作成する

ここでは、実用例を以下の目的のために実行する際に必要なラベル付け規則を作成します。

- ケーブルのモデルとコードを基にケーブルを識別する
- リンクに名前を付ける
- ケーブルデバイスのラベルにデータを入力する

このためには、

1 ラベル付け規則のリストを表示します（［**ケーブル／ラベル付け規則**］）。
2 ［**ラベル付け規則**］（SQL名：amLabelRule）テーブルで新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

フィールド	レコード1	レコード2	レコード3	レコード4	レコード5
名前	実用例 - ケーブル	実用例 - リンク - ペアの連続番号ごと	実用例 - サブ成端場所の資産	実用例 - フェイスプレートのリンク	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク

フィールド	レコード1	レコード2	レコード3	レコード4	レコード5
テーブル	ケーブル（amCable）	リンク（amCableLink）	資産（amAsset）	リンク（amCableLink）	リンク（amCableLink）
フィールド	Label	Label	Label	Label	Label
スクリプト	以下参照	以下参照	以下参照	以下参照	以下参照

ヒント:

以下のスクリプトを手動で入力する手間を省くには、オンラインヘルプをコピーしてAsset Managerへ貼り付けます。

［スクリプト］フィールドの値

- レコード1

```
RetVal = [Model.Name] + " - " + [Code]
```

- レコード2

```
Dim lErr      As Long
Dim hqPair    As Long
Dim strResult As String
Dim strVal    As String

hqPair = AmQueryCreate()
lErr = AmQueryExec(hqPair, "SELECT Name FROM amCablePair WHE
RE lBundleId = " & [lBundleId] & " ORDER BY sSequenceNumber")

Do While ( lErr = 0 )
strVal = AmGetFieldStrValue(hqPair, 0)

If ( strResult = "" ) Then
strResult = strVal
Else
strResult = strResult & " " & strVal
End If

lErr = AmQueryNext(hqPair)
Loop

AmReleaseHandle(hqPair)

RetVal = [Cable.Model.Name] & " (" & [Cable.Label] & ") - (" & strResult &
")"
```

- レコード3

```
Dim lErr      As Long
Dim hqTFDev   As Long
Dim strTFName As String
Dim lCol      As Long
Dim lRow      As Long

hqTFDev = AmQueryCreate()
lErr = AmQueryExec(hqTFDev, "SELECT DeviceTermFieldDev.Terminat
ionField.Name, DeviceTermFieldDev.sHoriz, DeviceTermFieldDev.sVert F
ROM amAsset WHERE lAstId = " & [lAstId])

If ( lErr = 0 ) Then
strTFName = AmGetFieldStrValue(hqTFDev, 0)
lCol      = AmGetFieldLongValue(hqTFDev, 1)
lRow      = AmGetFieldLongValue(hqTFDev, 2)
End If

AmReleaseHandle(hqTFDev)

RetVal = FormatResString("$1 Co: $2 Li: $3", strTFName, lCol, lRow)
```

- レコード4

```
RetVal = FormatResString("$1:$2", [Device.Label], [Port.PortNo])
```

- レコード5

```
RetVal = FormatResString("$1 Port: $2", [Device.Label], [Port.PortNo])
```

あるケーブル用に［**実用例 - ケーブル**］ラベル付け規則を選択すると、以下の内容がラベルに表示されます。

- ケーブルのモデル
- ケーブルのコード

これは以下の形式で表示されます。

```
<ケーブルのモデル名> - <ケーブルのコード>
```

例

FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア - 000001

ペア/導線のタイプ

定義

▶ ペア/導線のタイプ [献 193]

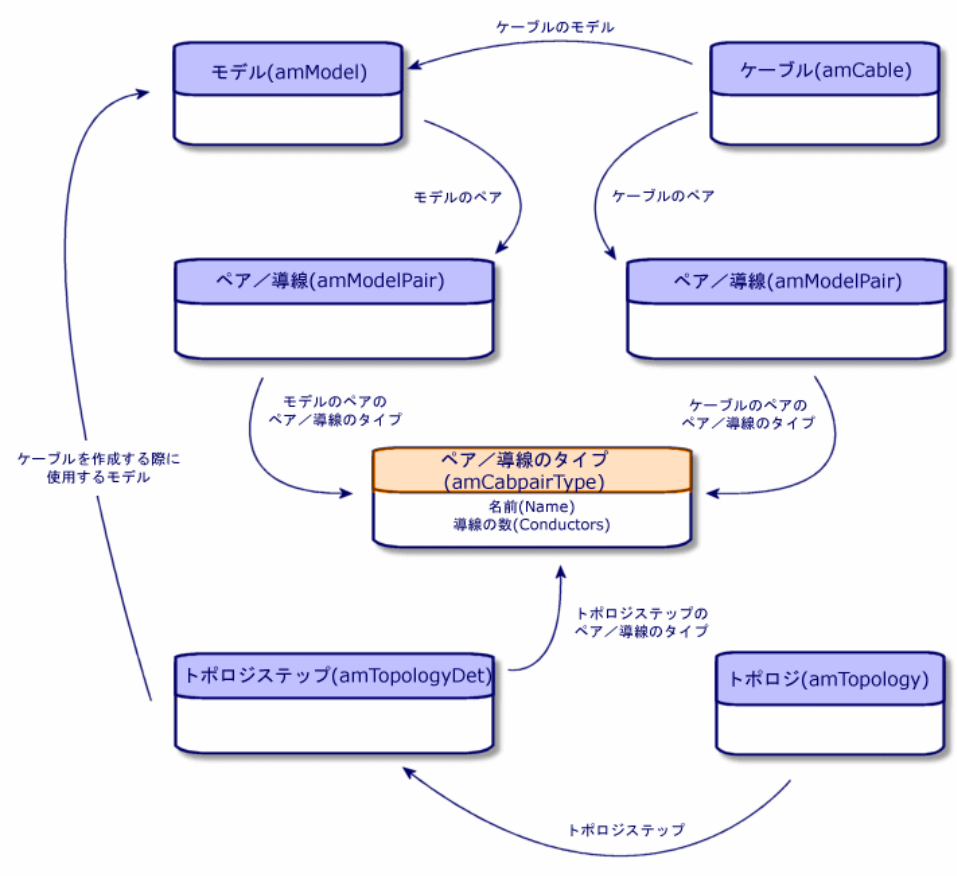
テーブル名

［ペア/導線のタイプ］（SQL名：amCabPairType）

アクセス用メニュー

［ケーブル］／［ケーブルのペア/導線のタイプ］

図 3.4. ペア/導線のタイプ - データモデル



ペア/導線のタイプを作成する

1 ペア/導線のタイプのリストを表示します（［**ケーブル**］／［**ケーブルのペア/導線のタイプ**］）。
2 使用するペア/導線のタイプの数だけレコードを作成します。

必要条件

なし

入力必須のフィールドとリンク

表 3.3. ペア/導線のタイプ - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
名前	Name
導線数	sConductors

実用例用にペア/導線のタイプを作成する

2本の銅線ワイヤから成るペアのタイプを作成します。

1 ペア/導線のタイプのリストを表示します（［**ケーブル**］／［**ケーブルのペア/導線のタイプ**］）。
2 ［**ペア/導線のタイプ**］（SQL名：amCabPairType）テーブルで新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
名前（**Name**）	銅線
導線数（**sConductors**）	2

接続タイプ

定義

▶ 接続タイプ [献 192]

テーブル名

［ケーブルの接続タイプ］（**amCabCnxType**）
［接続ピンのマッピング］（SQL名：amCnxPinMap）

アクセス用メニュー

［ケーブル／ケーブルの接続タイプ］

接続タイプを作成する

1 ネットワークで使用する接続タイプを確認します。
2 接続タイプのリストを表示します（［**ケーブル／ケーブルの接続タイプ**］）。

3 使用する接続タイプごとにレコードを作成します。
4 この接続タイプの各ピンを、1カラーコードエントリに関連付ける必要がある場合は、［**接続ピンのマッピング**］リンクに値を入力します。接続タイプに含まれるピン/ターミナルの数の分だけリンクを作成します。

必要条件

まずカラーコードを作成する必要があります。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.4. 接続タイプ - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［**ケーブル接続タイプ**］テーブル (**amCabCnxType**)		
名前	Name	
ポート型またはピン型	seMode	
ピン/ターミナルの数	sPinCount	
カラーコード	ColorCode	
接続ピンのマッピング	CnxPinMaps	■ ［**ポート型またはピン型**］フィールドが［**ピン**］である場合は、このリンクに必ず値を入力する必要があります。 ■ ［**ポート型またはピン型**］フィールドが［**ポート**］である場合は、このリンクに値を入力する必要はありません。
［**接続ピンのマッピング**］（*SQL名：amCnxPinMap*）テーブル		
番号	sPinSeq	
カラーコードエントリ	ColorCodeDet	

実用例用に接続タイプを作成する

以下の接続タイプを作成します。

- RJ45 - 568B - ポート
- RJ45 - 568B - ピン

接続タイプを作成する

1 接続タイプのリストを表示します（［**ケーブル／ケーブルの接続タイプ**］）。
2 ［**ケーブル接続タイプ**］テーブル(**amCabCnxType**) で新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
名前（**Name**）	RJ45 - 568B - ポート	RJ45 - 568B - ピン
ポート型またはピン型（**seMode**）	ポート	ピン
ピン/ターミナルの数（**sPinCount**）	0	8
カラーコード（**ColorCode**）		568B - 4ペア

「**RJ45 - 568B -** ピン」接続タイプ用の［接続ピンのマッピング］リンクに値を入力する

1 ［**RJ45 - 568B -** ピン］接続タイプを選択します。
2 以下のフィールドに値を入力して、接続ピンのマッピングを作成します。

［番号］（SQL名：sPinSeq）フィールドの値	［カラーコードエントリ］（SQL名：ColorCodeDet）
1	2 オレンジ（白/オレンジ、オレンジ）
2	2 オレンジ（白/オレンジ、オレンジ）
3	3 緑（白/緑、緑）
4	1 青（白/青、青）
5	1 青（白/青、青）
6	3 緑（白/緑、緑）
7	4 茶（白/茶、茶）
8	4 茶（白/茶、茶）

ケーブルの用途

定義

▶ 用途 [献 187]

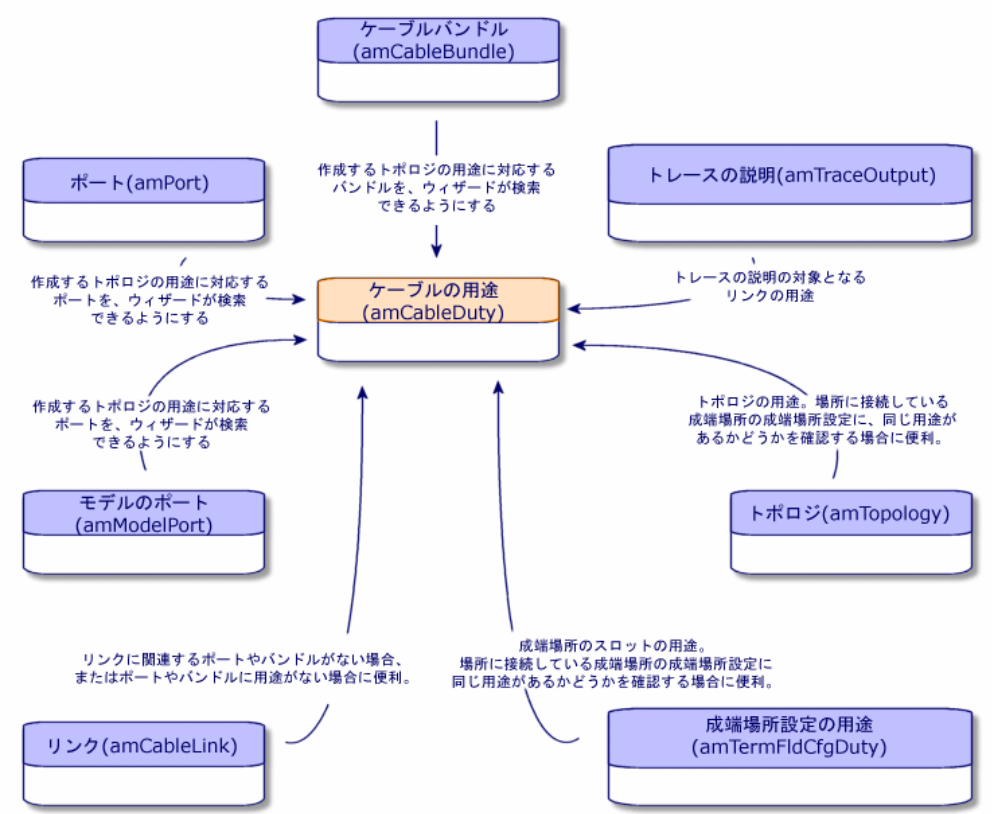
テーブル名

［ケーブルの用途］（**amCableDuty**）

アクセス用メニュー

［ケーブル／ケーブルの用途］

図 3.5. 用途 - データモデル



ケーブルの用途を作成する

1 ケーブルの用途のリストを表示します（［ケーブル／ケーブルの用途］）。
2 ケーブルネットワークの各用途につき1レコードを作成します。

> **ヒント:**
>
> この段階で［トポロジ］（**Topology**）リンクに値を入力することは推奨されていません。これはトポロジがまだ作成されていないためです。トポロジを作成した後で、用途をトポロジに関連付ける方法をお勧めします。

必要条件

必要条件はありません。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.5. ケーブルの用途 - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
名前	Name

実用例用に用途を作成する

2つの用途を作成します。

1 ケーブル用途のリストを表示します（［**ケーブル／ケーブルの用途**］）。
2 新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
名前（**Name**）	データ	音声

場所

ここでは実用例で必要な［**場所**］テーブルについて説明します。

テーブル名

［**場所**］（**amLocation**）

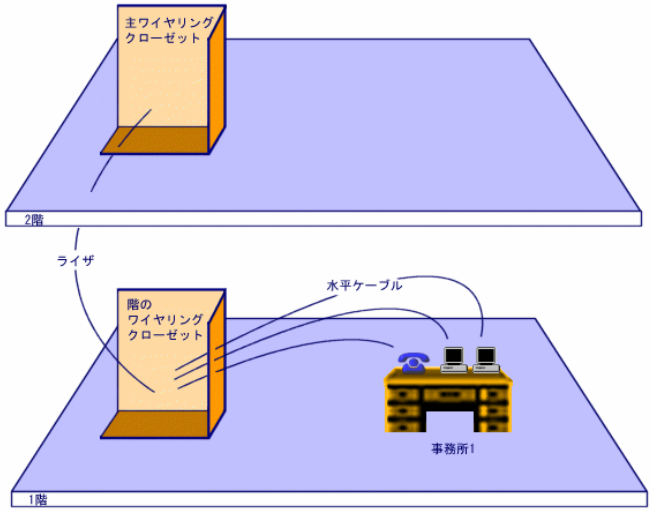
アクセス用メニュー

［**ポートフォリオ／場所**］

実用例用に場所を作成する

以下の図の場所に対応するレコードを作成します。

図 3.6. 実用例 - 使用される場所



1 場所のリストを表示します（［**ポートフォリオ／場所**］）。
2 場所ごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値	レコード3の値
名前（**Name**）	ケーブル配線された建物	1階	2階
親場所（**Parent**）	入力しない	ケーブル配線された建物	ケーブル配線された建物

入力するフィールドまたはリンク	レコード4の値	レコード5の値	レコード6の値
名前（**Name**）	階のワイヤリングクローゼット	主ワイヤリングクローゼット	事務所1

入力するフィールドまたはリンク	レコード4の値	レコード5の値	レコード6の値
親場所（**Parent**）	/ケーブル配線された建物/1階/	/ケーブル配線された建物/2階/	/ケーブル配線された建物/1階/

ケーブルに関連したプロジェクトと作業指示

プロジェクトや作業指示では、ネットワーク上で実行される以下のような操作をトラッキングできます。

- ケーブルの配置や除去
- バンドルとポート間の接続や切断
- ケーブルデバイスの設置

ケーブル用ウィザードを使用する前に、プロジェクトや作業指示を作成しておく必要があります。このため、最低1つの作業指示を含むプロジェクトを少なくとも1つ作成しなければなりません。

ウィザードの最終段階で、ユーザがプロジェクトと作業指示を選択する場合のみに、ウィザードは以下のテーブルに値を入力します。

- ［トレースの説明］（**amTraceOutput**）
- ［トレース履歴］（**amTraceHistory**）
- ［トレースの処理］（**amTraceOp**）

テーブル名

- ［プロジェクト］（**amProject**）
- ［作業指示］（**amWorkOrder**）

アクセス用メニュー

- ［ポートフォリオ／プロジェクト］
- ［ポートフォリオ／作業指示］

ケーブルに関連するプロジェクトと作業指示を作成する

1. プロジェクトのリストを表示します（［**ポートフォリオ／プロジェクト**］）。
2. 実行するケーブル配線の各操作ごとにプロジェクトを作成します。
3. 1つまたは複数の作業指示をプロジェクトに関連付けます。
4. 適切なプロジェクトと作業指示を参照してケーブルウィザードを実行します。ウィザードはプロジェクトの以下のリンクに自動的に値を入力します。
   - ［資産］（SQL名：AstProjDescs）

- ［ケーブル］（SQL名：ProjectCables）
- ［トレース］（SQL名：ProjectTraces）

ウィザードは作業指示の以下のリンクに自動的に値を入力します。

- ［タイトル］（SQL名：Title）
- ［作業指示のデバイス］（SQL名：ProjBien）
- ［プロジェクトのケーブル］（SQL名：ProjCable）
- ［プロジェクトのトレース］（SQL名：ProjTraceOut）

必要条件

必要条件はありません。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.6. ケーブルに関連するプロジェクトと作業指示 - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
［プロジェクト］（**amProject**）テーブル	
タイトル	Title
作業指示	WorkOrders
［作業指示］（*SQL名：amWorkOrder*）テーブル	
作業指示番号	WONo

実用例用にプロジェクトと作業指示を作成する

実用例で使用するウィザードごとに1プロジェクトを作成します。1つの作業指示を各プロジェクトに関連付けます。

これにより、これらのプロジェクトと作業指示を参照して、ウィザードが作成、変更または削除する内容を理解できるようになります。

プロジェクトを作成する

1. プロジェクトのリストを表示します（［ポートフォリオ／プロジェクト］）。
2. プロジェクトごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

	タイトル（**Title**）
レコード1の値	成端場所の作成
レコード2の値	バンドルの接続を切断する
レコード3の値	ポートの接続を切断する
レコード4の値	ワイヤリングクローゼットを複製する

	タイトル（**Title**）
レコード5の値	資産の取替え
レコード6の値	ケーブルの取り外し
レコード7の値	水平ケーブルを取り外す
レコード8の値	場所別にケーブルを取り外す
レコード9の値	成端場所の拡張
レコード10の値	汎用ハブをクロスコネクトする
レコード11の値	特定のハブをクロスコネクトする
レコード12の値	バンドルをクロスコネクトする
レコード13の値	ポートをクロスコネクトする
レコード14の値	ポートをクロスコネクトする（内部）
レコード15の値	サブ成端場所をクロスコネクトする
レコード16の値	水平ケーブルを設置する
レコード17の値	ライザを設置する
レコード18の値	ケーブルの再配置
レコード19の値	プロジェクトの資産を転送する
レコード20の値	プロジェクトの接続を再配置する
レコード21の値	プロジェクトのケーブルを再配置する

各プロジェクト用に［作業指示］リンクを作成する

1 プロジェクトを1つずつ選択します。

2 ［**作業指示**］タブを選択し、以下のフィールドに値を入力して新規の作業指示をプロジェクトに追加します。

プロジェクトのタイトル	［作業指示番号］（SQL名：WONo）フィールドの値
成端場所の作成	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
バンドルの接続を切断する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
ポートの接続を切断する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
ワイヤリングクローゼットを複製する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
資産の取替え	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
ケーブルの取り外し	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
水平ケーブルを取り外す	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
場所別にケーブルを取り外す	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
成端場所の拡張	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
汎用ハブをクロスコネクトする	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
特定のハブをクロスコネクトする	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
バンドルをクロスコネクトする	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
ポートをクロスコネクトする	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
ポートをクロスコネクトする（内部）	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
サブ成端場所をクロスコネクトする	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
水平ケーブルを設置する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
ライザケーブルを設置する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
ケーブルの再配置	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
プロジェクトの資産を転送する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。
プロジェクトの接続を再配置する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。

プロジェクトのタイトル	［作業指示番号］（SQL名：WONo）フィールドの値
プロジェクトのケーブルを再配置する	Asset Managerのデフォルト値を確定します。

ケーブルとケーブルデバイスの属性

属性は、一部の資産に共通する情報を定義します。ケーブルとケーブルデバイスにはそれぞれ特別な属性があり、これらの属性はケーブルのモデルとケーブルデバイスのモデルに関連付けられています。

属性で定義する情報に応じて、モデル、資産とケーブルの一部のフィールドやリンクが表示されるかどうかが決まります。

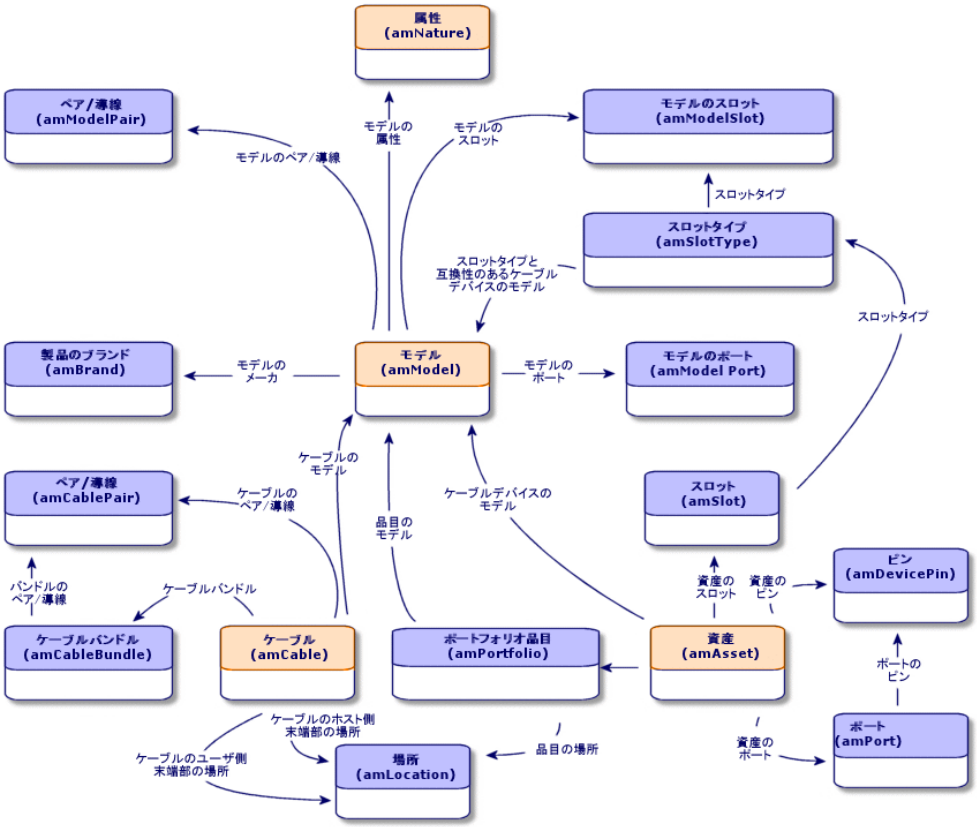
テーブル名

属性（SQL名：amNature）

アクセス用メニュー

［ポートフォリオ／属性］

図 3.7. ケーブルとケーブルデバイス - データモデル



ケーブルとケーブルデバイスの属性を作成する

1 属性のリストを表示します（［ポートフォリオ／属性］）。
2 ケーブルデバイスの属性とケーブルの属性を作成します。

必要条件

必要条件はありません。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.7. ケーブルデバイスとケーブル用の属性 - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
名前	Name	
作成	seBasis	ケーブルデバイスは［**ポートフォリオ品目**］、ケーブルは［**ケーブル**］でなければなりません。
管理条件	seMgtConstraint	ケーブルには無関連です。ケーブルデバイスの場合は、［**固有資産タグ**］を選択する必要があります。
オーバーフローテーブル	seOverflowTbl	ケーブルには無関連です。ケーブルデバイスの場合は、［**なし**］を選択する必要があります。
ケーブルデバイス	bDevice	ケーブルには無関連です。ケーブルデバイスの場合は、チェックボックスをオンにする必要があります。
接続可能	bIsCnxClient	ケーブルには無関連です。ケーブルデバイスの場合は、チェックボックスをオンにする必要があります。

実用例用に、ケーブルとケーブルデバイスの属性を作成する

ケーブルデバイスの属性とケーブルの属性を作成します。

1 属性のリストを表示します（［**ポートフォリオ／属性**］）。
2 属性ごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
名前（**Name**）	ケーブル	ケーブルデバイス
オーバーフローテーブル（**seBasis**）	ケーブル	ポートフォリオ品目
管理条件（**seMgtConstraint**）	入力しない	固有の資産タグ
オーバーフローテーブル（**seOverflowTbl**）	入力しない	なし
ケーブルデバイス（**bDevice**）	入力しない	オン

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
接続可能（**bIsCnxClient**）	入力しない	オン

ケーブルとケーブルデバイスのモデルのブランド

テーブル名

ブランド（SQL名：amBrand）

アクセス用メニュー

［ポートフォリオ／ブランド］

ケーブルとケーブルデバイスのモデルのブランドを作成する

1 ブランドのリストを表示します（［ポートフォリオ／ブランド］）。
2 ネットワークのケーブルとケーブルデバイスのブランドごとに、1レコードを作成します。

必要条件

必要条件はありません。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.8. ケーブルデバイスとケーブルのモデルのブランド - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
名前	Name

実用例用にケーブルとケーブルデバイスのモデルのブランドを作成する

実用例用に、ケーブルとケーブルデバイスのモデルのブランドを作成します。後で作成するモデルに、このブランドを関連付けられるようになります。

1 ブランドのリストを表示します（［ポートフォリオ／ブランド］）。
2 ブランドごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値	レコード3の値	レコード4の値
名前（**Name**）	Corel	Hewlett Packard	ITT	一般

ケーブルのモデル

ケーブルのモデルにより、［**ケーブル**］（SQL名：amCable）テーブルに、ネットワークのケーブルを作成できるようになります。

定義

▶ ケーブル [献 179]

テーブル名

- ［**モデル**］（SQL名：amModel）
- ［**ケーブル用モデルのペア/導線**］（SQL名：amModelPair）

アクセス用メニュー

［**ポートフォリオ／モデル**］

ケーブルのモデルを作成する

1. モデルのリストを表示します（［**ポートフォリオ／モデル**］）。
2. ネットワークのケーブルのモデルごとに、1レコードを作成します。
3. ペア/導線をケーブルのモデルに関連付けます。
   以下の作成方法があります。
   - ［**+**］をクリックして手動で各ペア/導線を追加する。
   - ［**ペアの作成**］ウィザードを実行する。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- ケーブルの属性
- ケーブルのブランド
- ラベル付け規則
- ケーブルのタイプ
- カラーコード
- ペア/導線のタイプ

入力必須のフィールドとリンク

表 3.9. ケーブルのモデル - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［モデル］（*SQL名：amModel*）テーブル		
名前	Name	
属性	Nature	ケーブルの属性でなければならない。
ラベル付け規則	LabelRule	
ケーブルのタイプ	CableType	
カラーコード	ColorCode	ペア/導線をカラーコードエントリで識別する必要がある場合。
モデルのペア/導線	Pairs	
［ケーブル用モデルのペア/導線］（*SQL名：amModelPair*）テーブル		
名前	Name	
番号	sSequenceNumber	
ペア/導線のタイプ	CabPairType	
カラーコードエントリ	ColorCodeDet	ケーブルのモデルでカラーコードを選択した場合。

［ペアの作成］ウィザード

ウィザードが果たす機能

このウィザードは同じタイプのペアを作成します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- ペア/導線のタイプ

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、［モデル］（SQL名：amModel）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1. モデルのリストを表示します（［ポートフォリオ／モデル］）。
2. リストからモデルを選択するか、または詳細画面で［モデル］テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3. ［ペアの作成］ウィザードを選択します。

ウィザードの実行時に有用な情報

表 3.10. ［ペアの作成］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
作成される各ペア/導線用のデフォルトのタイプ	選択された値は、作成される各ペア/導線の［**ペア/導線のタイプ**］（SQL名：CabPairType）リンクに値を入力します。
次の数から番号付けを始める	例えば、1から4までの番号が付いた4つのペアを作成する場合は、「1」を入力します。5から8までの番号が付いた4つのペアを作成する場合は、「5」を入力します。 この番号は、モデルのペアの［**番号**］（SQL名：sSequenceNumber）フィールドに入力されます。 このフィールドにデフォルトで表示される番号は、［**番号**］（SQL名：**sSequenceNumber**）フィールドの既存最大値に「1」を足した数に当たります（モデルに1から4までの番号が付いた4つのペアがある場合、この番号は「5」になります）。 カラーコードエントリをペア/導線に関連付けるために、ペアの番号はモデルのカラーコードエントリの番号と一致しています。

ウィザードが作成または変更するデータ

ウィザードは、［**ケーブル用モデルのペア/導線**］（SQL名：amModelPair）テーブルにレコードを作成します。

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 3.11. ［ペアの作成］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
名前	Name	［**番号**］（SQL名：**sSequenceNumber**）フィールドと同じ値
番号	sSequenceNumber	［**番号**］（SQL名：**sSequenceNumber**）フィールドの既存の最大値のすぐ後に開始する連続番号
ペア/導線のタイプ	CabPairType	ウィザードで選択したペア/導線のタイプ
カラーコードエントリ	ColorCodeDet	ケーブルに関連付けられたカラーコードエントリ。カラーコードエントリの番号（**sSequenceNumber**）は、ペア/導線の番号（**sSequenceNumber**）と一致する。

結果を表示する

ウィザードの結果を表示する最も簡単な方法は、モデルの［**ケーブル**］タブで内容を確認する方法です。

ウィザードの実行後

必要であれば、ペア/導線の情報を手動で変更します。

実用例用にケーブルのモデルを作成する

32ペアのケーブルのモデルを作成し（電話のライザケーブル用）、また4ペアのケーブルのモデルも作成します（一部の水平ケーブルとライザケーブル用）。

モデルを作成する

1 モデルのリストを表示します（［**ポートフォリオ／モデル**］）。
2 モデルごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
名前（**Name**）	L 120 - カテゴリ5 - 32ツイストペア	FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア
属性（**Nature**）	ケーブル	ケーブル
ブランド（**Brand**）	Corel	Corel
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - ケーブル	実用例 - ケーブル
ケーブルのタイプ（**CableType**）	ツイストペア	ツイストペア
カラーコード（**ColorCode**）	568B - 32ペア	568B - 4ペア

ケーブルのモデルごとにペア/導線を作成する

1 モデルを選択します。
2 各モデルごとに［**ペアの作成**］ウィザードを1回ずつ実行します。以下の値を指定します。

ウィザードに表示されるタイトル	「**L 120 -** カテゴリ**5 - 32**ツイストペア」ケーブル用の値	「**FTP -** カテゴリ**5 - 4**ツイストペア」ケーブル用の値
作成するペア/導線の数	32	4
作成される各ペア/導線用のデフォルトのタイプ	銅線	銅線

ウィザードに表示されるタイトル	「L 120 - カテゴリ5 - 32ツイストペア」ケーブル用の値	「FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア」ケーブル用の値
次の数から番号付けを始める	1	1

スロットなしケーブルデバイスのモデル

定義

▶ ケーブルデバイス [献 183]

テーブル名

- ［モデル］（SQL名：amModel）
- ［モデルのポート］（SQL名：amModelPort）

アクセス用メニュー

［ポートフォリオ／モデル］

スロットなしケーブルデバイスのモデルを作成する

1 モデルのリストを表示します（［ポートフォリオ／モデル］）。
2 ネットワークのケーブルデバイスのモデルごとに、1レコードを作成します。
3 ポートをモデルに関連付けます。
以下の作成方法があります。
- ［+］をクリックして手動で各ポートを追加する。
- ［ポートの作成］ウィザードを実行する。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。
- ケーブルデバイスの属性
- ケーブルデバイスのブランド
- ラベル付け規則
- ケーブルデバイスのタイプ
- 接続タイプ
- 用途

入力必須のフィールドとリンク

表 3.12. スロットなしケーブルデバイスのモデル - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［モデル］（*SQL名：amModel*）テーブル		
名前	Name	
属性	Nature	ケーブルデバイスの属性でなければならない。
ラベル付け規則	LabelRule	
デバイスのタイプ	DeviceType	
ピン/ターミナルの数	lPins	ケーブルデバイスの面のうち、最低でも1面がピン経由でネットワークに接続する場合。
面数	seDevSdType	
ポート	Ports	ケーブルデバイスの全面がポート経由でネットワークに接続する場合。
［モデルのポート］（*SQL名：amModelPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	ポートを作成する場合。
番号	sSequenceNumber	ポートを作成する場合。
接続タイプ	CabCnxType	ポートを作成する場合。
用途	Duty	ポートを作成する場合。

ポートまたはピン経由の接続

ケーブルデバイスには2つの接続モードがあります。

- ポート型
- ピン型

ケーブルデバイスの全面がポート経由で接続する場合、

- ［**ピン/ターミナルの数**］（SQL名：lPins）フィールドに「**0**」を入力します。
- ［**ポート**］（SQL名：Ports）リンクを作成します。これらのポートは、［**リンク**］（SQL名：amCableLink）テーブルによりケーブルのバンドルへ関連付けられます。

ケーブルデバイスの面のうち、最低でも1面がピン経由で接続する場合。

- ［**ピン/ターミナルの数**］（SQL名：lPins）フィールドに、ケーブルデバイスのピンの総数を入力します。
- デバイスのピンへのリンクを作成するためにウィザードを使用しない場合のみ、［**ポート**］（SQL名：Ports）リンクを作成してください。ウィザードは仮想ポートを作成して、自動的に既存の使用可能なピンに関連付けるためです。

［ポートの作成］ウィザード

ウィザードが果たす機能

このウィザードは、同じ用途と同じ接続タイプのポートを作成します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 接続タイプ
- 用途

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、［**モデル**］（SQL名：amModel）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1. モデルのリストを表示します（［**ポートフォリオ／モデル**］）。
2. リストからモデルを選択するか、または詳細画面で**モデル**テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3. ［**ポートの作成**］ウィザードを選択します。

ウィザードの実行時に有用な情報

表 3.13. ［ポートの作成］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
作成される各ポート用のデフォルトの接続タイプ	選択された値は、作成される各ポートの［**接続タイプ**］（SQL名：CabCnxType）リンクに値を入力します。
作成される各ポート用のデフォルトの用途タイプ	選択された値は、作成される各ポートの［**用途**］（SQL名：Duty）リンクに値を入力します。
次の数から番号付けを始める	例えば、1から4までの番号が付いた4つのポートを作成する場合は、「1」を入力します。5から8までの番号が付いた4つのポートを作成する場合は、「5」を入力します。 この番号は、モデルのポートの［**ポート番号**］（SQL名：PortNo）フィールドに入力されます。 このフィールドにデフォルトで表示される番号は、既存のポートの最大の番号に「1」を足した数に当たります（モデルに1から4までの番号が付いた4つのポートがある場合、この番号は「5」になります）。

ウィザードが作成または変更するデータ

ウィザードは、［モデルのポート］（SQL名：amModelPort）テーブルにレコードを作成します。

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 3.14.［ポートの作成］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
モデル内のポートの連続番号	sSequenceNumber	ウィザードで指定した開始番号で始まる連続番号
ポート番号	PortNo	ウィザードで指定した開始番号で始まる連続番号
接続タイプ	CabCnxType	ウィザードで選択した接続タイプ
用途	Duty	ウィザードで選択した用途

結果を表示する

ウィザードの結果を表示する最も簡単な方法は、モデルの［ポート］タブで内容を確認する方法です。

ウィザードの実行後

必要であれば、ポートの情報を手動で変更します。

実用例用にスロットなしケーブルデバイスのモデルを作成する

以下のスロットなしケーブルデバイスの作成に必要なモデルを作成します。

- 3ポートのフェイスプレート
- パッチパネル
- スイッチモジュール

モデルを作成する

1. モデルのリストを表示します（［ポートフォリオ／モデル］）。
2. モデルごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値	レコード3の値	レコード4の値
名前（**Name**）	Procurve 10/100 Base T - 8 ポート	ケーブル付き24ポートパッチパネル	32ポートパッチパネル（256ピン）	3ポートのフェイスプレート
属性（**Nature**）	ケーブルデバイス	ケーブルデバイス	ケーブルデバイス	ケーブルデバイス

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値	レコード3の値	レコード4の値
ブランド（**Brand**）	Hewlett Packard	一般	一般	ITT
デバイスのタイプ（**DeviceType**）	スイッチモジュール	パッチパネル	パッチパネル	フェイスプレート
ピン/ターミナルの数（**lPins**）	0	0	256	24
面数（**seDevSdType**）	片面	両面	両面	片面

ポート経由でネットワークに接続するデバイスの各モデルごとに、ポートを作成する

［**ピン/ターミナルの数**］（SQL名：lPins）フィールドがNULLである各モデルごとに、以下の操作を実行します。

1 「**Procurve 10/100 Base T - 8 ポート**」モデルを選択します。

2 ［**ポートの作成**］ウィザードを1回実行し、以下の値を指定します。

ウィザードに表示されるタイトル	値
作成するポートの数	8
作成される各ポート用のデフォルトの接続タイプ	RJ45 - 568B - ポート
作成される各ポート用のデフォルトの用途タイプ	データ
次の数から番号付けを始める	1

3 「**ケーブル付き24ポートパッチパネル**」モデルを選択します。

4 ［**ポートの作成**］ウィザードを1回実行し、以下の値を指定します。

ウィザードに表示されるタイトル	値
作成するポートの数	24
作成される各ポート用のデフォルトの接続タイプ	RJ45 - 568B - ポート
作成される各ポート用のデフォルトの用途タイプ	データ
次の数から番号付けを始める	1

スロットタイプ

定義

▶ スロットタイプ [献 194]

テーブル名

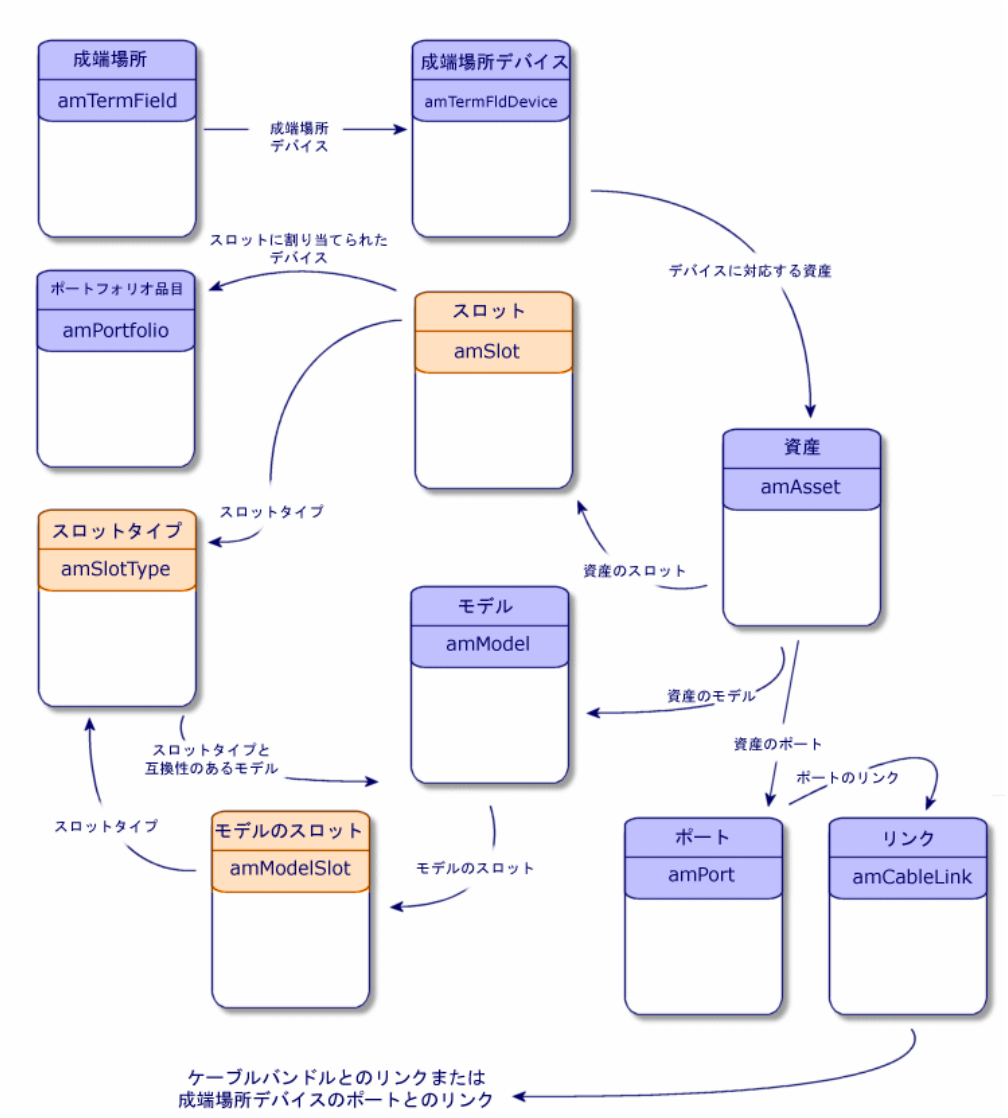
［**スロットタイプ**］（SQL名：amSlotType）

アクセス用メニュー

［ケーブル／スロットタイプ］

データモデルの概略図

図 3.8. スロット - データモデル



スロットタイプを作成する

1 スロットタイプのリストを表示します（［**ケーブル／スロットタイプ**］）。
2 成端場所デバイスのスロットタイプごとにレコードを作成します。

必要条件

スロットに挿入するモジュールや拡張部のモデルを作成しておく必要があります。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.15. スロットタイプ - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
名前	Name
互換モデル	SlotTypeModels

実用例用にスロットタイプを作成する

「**ProCurve 10/100 Base T - 8ポート**」モジュールを受け取る「**ProCurveSwitch 4000 M - 10スロット**」モデル用のスロットタイプを作成します。

注意:

後で「**ProCurve Switch 4000 M - 10スロット**」モデルを作成します。

1 スロットタイプのリストを表示します（［**ケーブル／スロットタイプ**］）。
2 ［**スロットタイプ**］（SQL名：amSlotType）テーブルで新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
名前（**Name**）	8ポートスイッチモジュール
互換モデル（**SlotTypeModels**）	Procurve 10/100 Base T - 8 ポート

スロット付ケーブルデバイスのモデル

定義

▶ ケーブルデバイス [献 183]

テーブル名

- ［モデル］（SQL名：amModel）
- ［モデルのスロット］（SQL名：amModelSlot）
- ［モデルのポート］（SQL名：amModelPort）

アクセス用メニュー

［ポートフォリオ／モデル］

スロット付ケーブルデバイスのモデルを作成する

1 モデルのリストを表示します（［ポートフォリオ／モデル］）。
2 ネットワークのケーブルデバイスのモデルごとに、1レコードを作成します。
3 ポートまたはスロットをモデルに関連付けます。
以下の作成方法があります。
   - ［+］をクリックして、手動で各ポートまたはスロットを追加する。
   - ［ポートの作成］または［スロットの作成］ウィザードを実行する。

ポートまたはピン経由の接続

▶ ポートまたはピン経由の接続 [献 64]

［ポートの作成］ウィザード

▶ ［ポートの作成］ウィザード [献 65]

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- ケーブルデバイスの属性
- ケーブルデバイスのブランド
- ラベル付け規則
- ケーブルデバイスのタイプ
- 接続タイプ
- 用途
- スロットタイプ

入力必須のフィールドとリンク

表 3.16. スロット付ケーブルデバイスのモデル - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［モデル］（*SQL名：amModel*）テーブル		
名前	Name	
属性	Nature	ケーブルデバイスの属性でなければならない。
ラベル付け規則	LabelRule	
デバイスのタイプ	DeviceType	
ピン/ターミナルの数	lPins	ケーブルデバイスの面のうち、最低でも1面がピン経由でネットワークに接続する場合。
面数	seDevSdType	
ポート	Ports	ケーブルデバイスの全面がポート経由でネットワークに接続する場合。
モデルのスロット	ModelSlots	デバイスがスロット内で接続モジュールを受け取らなければならない場合。
［ポート］（*SQL名：amPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	ポートを作成する場合。
番号	sSequenceNumber	ポートを作成する場合。
接続タイプ	CabCnxType	ポートを作成する場合。
用途	Duty	ポートを作成する場合。
［モデルのスロット］（*SQL名：amModelSlot*）テーブル		
名前	Name	スロットを作成する場合。
番号	sSequenceNumber	スロットを作成する場合。
スロットタイプ	SlotType	スロットを作成する場合。

［スロットの作成］ウィザード

ウィザードが果たす機能

このウィザードは同じタイプのスロットを作成します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- スロットタイプ

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、［モデル］（SQL名：amModel）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1 モデルのリストを表示します（［ポートフォリオ／モデル］）。
2 リストからモデルを選択するか、または詳細画面で［モデル］テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3 ［スロットの作成］ウィザードを選択します。

ウィザードの実行時に有用な情報

表 3.17.［スロットの作成］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
作成される各スロット用のデフォルトのタイプ	選択された値は、作成される各スロットの［スロットタイプ］（SQL名：SlotType）リンクに値を入力します。
次の数から番号付けを始める	例えば、1から4までの番号が付いた4つのスロットを作成する場合は、「1」を入力します。5から8までの番号が付いた4つのスロットを作成する場合は、「5」を入力します。 この番号は、モデルのスロットの［番号］（SQL名：sSequenceNumber）フィールドと、［名前］（SQL名：amModelSlot）フィールドに入力されます。 このフィールドにデフォルトで表示される番号は、既存のスロットの最大の番号に「1」を足した数に当たります（モデルに1から4までの番号が付いた4つのスロットがある場合、この番号は「5」になります）。

ウィザードが作成または変更するデータ

ウィザードは、［モデルのスロット］（SQL名：amModelSlot）テーブルにレコードを作成します。

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 3.18.［スロットの作成］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
名前	Name	ウィザードで指定した開始番号で始まる連続番号
番号	sSequenceNumber	ウィザードで指定した開始番号で始まる連続番号
スロットタイプ	SlotType	ウィザードで選択したスロットタイプ

結果を表示する

ウィザードの結果を表示する最も簡単な方法は、モデルの［**スロット**］タブで内容を確認する方法です。

ウィザードの実行後

必要であれば、スロットの情報を手動で変更します。

実用例用にスロット付ケーブルデバイスのモデルを作成する

10スロットのついたモジュラースイッチのモデルを作成します。

モデルを作成します。

1 モデルのリストを表示します（［**ポートフォリオ／モデル**］）。
2 新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
名前（**Name**）	ProCurve Switch 4000 M - 10スロット
属性（**Nature**）	ケーブルデバイス
ブランド（**Brand**）	Hewlett Packard
デバイスのタイプ（**DeviceType**）	スイッチ
ピン/ターミナルの数（**lPins**）	0
面数（**seDevSdType**）	片面

スロットを作成する

1 「**ProCurve Switch 4000 M - 10スロット**」モデルを選択します。
2 ［**スロットの作成**］ウィザードを1回実行し、以下の値を指定します。

ウィザードに表示されるタイトル	値
作成するポートの数	10
作成される各スロット用のデフォルトのタイプ	8ポートスイッチモジュール
次の数から番号付けを始める	1

トポロジ

定義

▶ トポロジ [献 191]

- トポロジステップ [献 185]
- ホスト [献 188]
- ユーザ [献 194]

テーブル名

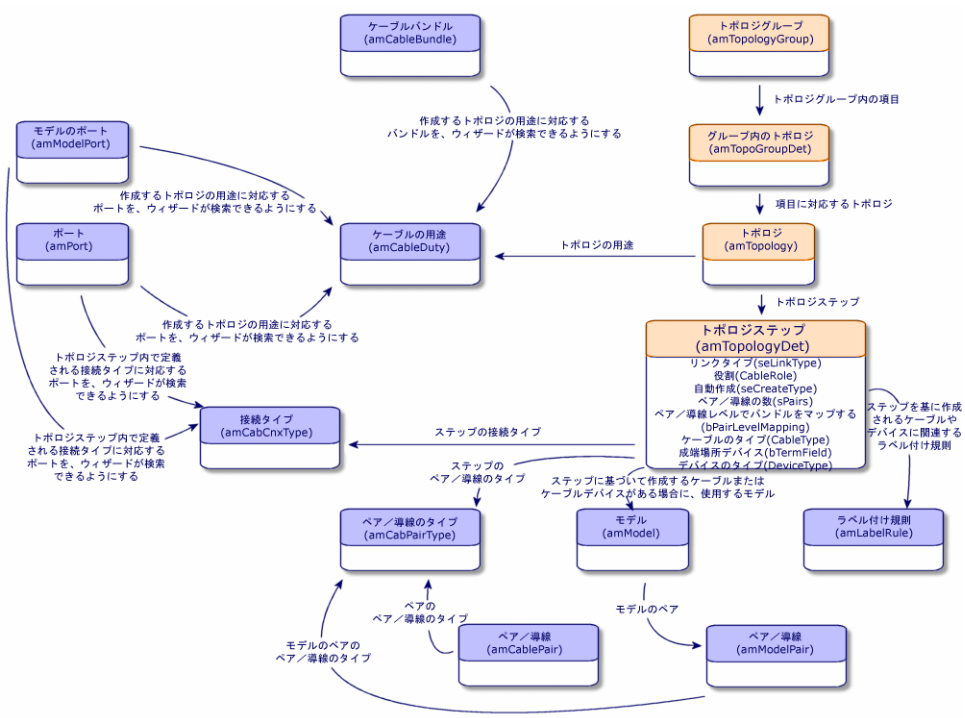
- ［トポロジ］（SQL名：amTopology）
- ［トポロジステップ］（SQL名：amTopologyDet）

アクセス用メニュー

［ケーブル／トポロジ］

データモデルの概略図

図 3.9. トポロジ - データモデル



トポロジを作成する

1 トポロジのリストを表示します（［**ケーブル／トポロジ**］）。
2 ネットワークの標準トレース（ケーブルリンクの論理的な連続）ごとに、トポロジとトポロジの各ステップを作成します。

トポロジの例

標準ユーザと階の成端場所間の電話接続。この種のトポロジは、以下のトポロジステップから構成されます。

1 フェイスプレートでのリンク
2 水平ケーブルでのリンク
3 成端場所デバイスでのリンク

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 用途
- ラベル付け規則
- ケーブルのタイプ
- ペア/導線のタイプ
- デバイスのタイプ
- 接続タイプ
- 役割
- トポロジステップから作成するケーブルとケーブルデバイスのモデル

入力必須のフィールドとリンク

表 3.19. トポロジ - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［**トポロジ**］（*SQL名：amTopology*）テーブル		
名前	Name	
方向	seTraceDir	
用途	Duty	
トポロジステップ	Detail	
［**トポロジステップ**］（SQL名：amTopologyDet ）テーブル		
番号	sSequenceNumber	
リンクタイプ	seLinkType	
ラベル付け規則	LabelRule	
ケーブルのタイプ	CableType	seLinkType = **ケーブル**である場合

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
デバイスのタイプ	DeviceType	seLinkType = **デバイス**である場合
ペア/導線のタイプ	CabPairType	seLinkType = **ケーブル**である場合
接続タイプ	CabCnxType	seLinkType = **デバイス**である場合
ペア/導線レベルでバンドルをマップする	bPairLevelMapping	seLinkType = **ケーブル**である場合
成端場所デバイス	bTermField	seLinkType = **デバイス**である場合
ペア/導線の数	sPairs	seLinkType = **ケーブル**である場合
自動作成	seCreateType	
モデル	Model	seCreateTypeが**「作成しない」**以外の場合
役割	CableRole	■ seLinkType = **ケーブル**である場合 ■ または、bTermField = **はい**である場合

実用例用にトポロジを作成する

2つのトポロジを作成します。

- フェイスプレート（コンセント部分）と、同じ階の成端場所間のデータ接続
- フェイスプレートと、同じ階の成端場所間の電話接続

これらのトポロジは3つのステップから構成されます。

1. フェイスプレートでのリンク
2. 水平ケーブルでのリンク
3. 成端場所デバイスでのリンク

これらのトポロジは、1つのトポロジグループ内にまとめられます。

トポロジを作成する

1. トポロジのリストを表示します（［**ケーブル／トポロジ**］）。
2. トポロジごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
名前（**Name**）	電話コンセントから成端場所	ローカルネットワークのコンセントから成端場所
方向（**seTraceDir**）	ユーザからホスト	ユーザからホスト

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
用途（**Duty**）	音声	データ

「電話コンセントから成端場所」トポロジ用にステップ（トポロジの構成部分）を作成する

1 トポロジを選択します。

2 以下のフィールドに値を入力してステップ1を作成します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	1
リンクタイプ（**seLinkType**）	デバイス
成端場所デバイス（**bTermField**）	このオプションをオフにする
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - フェイスプレートのリンク
接続タイプ（**CabCnxType**）	RJ45 - 568B - ピン
デバイスのタイプ（**DeviceType**）	フェイスプレート
自動作成（**seCreateType**）	使用不可能な場合に作成する
モデル（**Model**）	3ポートのフェイスプレート

3 以下のフィールドに値を入力してステップ2を作成します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	2
リンクタイプ（**seLinkType**）	ケーブル
役割（**CableRole**）	水平
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - リンク - ペアの連続番号ごと
ペア/導線のタイプ（**CabPairType**）	銅線（2）
ケーブルのタイプ（**CableType**）	ツイストペア
自動作成（**seCreateType**）	常に作成する
ペア/導線レベルでバンドルをマップする（**bPairLevelMapping**）	このオプションをオンにする
ペア/導線の数（**sPairs**）	2
モデル（**Model**）	FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア

4 以下のフィールドに値を入力してステップ3を作成します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	3
リンクタイプ（**seLinkType**）	デバイス
成端場所デバイス（**bTermField**）	このオプションをオンにする
役割（**CableRole**）	水平

入力するフィールドまたはリンク	値
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク
接続タイプ（**CabCnxType**）	RJ45 - 568B - ピン
デバイスのタイプ（**DeviceType**）	パッチパネル

「ローカルネットワークのコンセントから成端場所」トポロジ用にステップを作成する

1 トポロジを選択します。

2 以下のフィールドに値を入力してステップ1を作成します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	1
リンクタイプ（**seLinkType**）	デバイス
成端場所デバイス（**bTermField**）	チェックボックスをオフにする
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - フェイスプレートのリンク
接続タイプ（**CabCnxType**）	RJ45 - 568B - ピン
デバイスのタイプ（**DeviceType**）	フェイスプレート
自動作成（**seCreateType**）	使用不可能な場合に作成する
モデル（**Model**）	3ポートのフェイスプレート

3 以下のフィールドに値を入力してステップ2を作成します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	2
リンクタイプ（**seLinkType**）	ケーブル
役割（**CableRole**）	水平
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - リンク - ペアの連続番号ごと
ペア/導線のタイプ（**CabPairType**）	銅線（2）
ケーブルのタイプ（**CableType**）	ツイストペア
自動作成（**seCreateType**）	常に作成する
モデル（**Model**）	FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア
ペア/導線レベルでバンドルをマップする（**bPairLevelMapping**）	このオプションをオンにする
ペア/導線の数（**sPairs**）	4

4 以下のフィールドに値を入力してステップ3を作成します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	3

入力するフィールドまたはリンク	値
リンクタイプ（**seLinkType**）	デバイス
成端場所デバイス（**bTermField**）	このオプションをオンにする
役割（**CableRole**）	水平
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク
接続タイプ（**CabCnxType**）	RJ45 - 568B - ポート
デバイスのタイプ（**DeviceType**）	パッチパネル

トポロジグループ

定義

▶ トポロジグループ [献 187]

テーブル名

- ［トポロジグループ］（SQL名：amTopologyGroup）
- ［グループ内のトポロジ］（SQL名：amTopoGroupDet）

アクセス用メニュー

［ケーブル／トポロジグループ］

図 3.10. トポロジグループ - データモデル

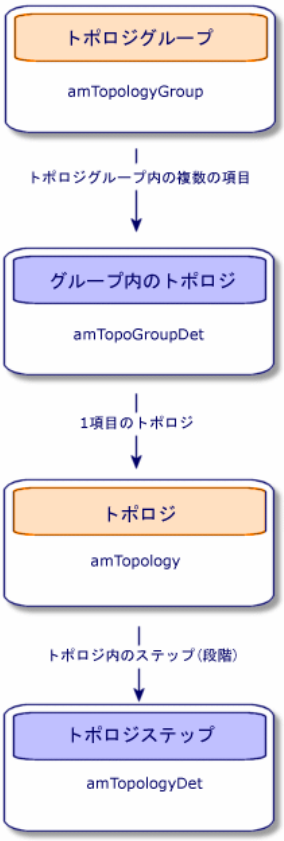
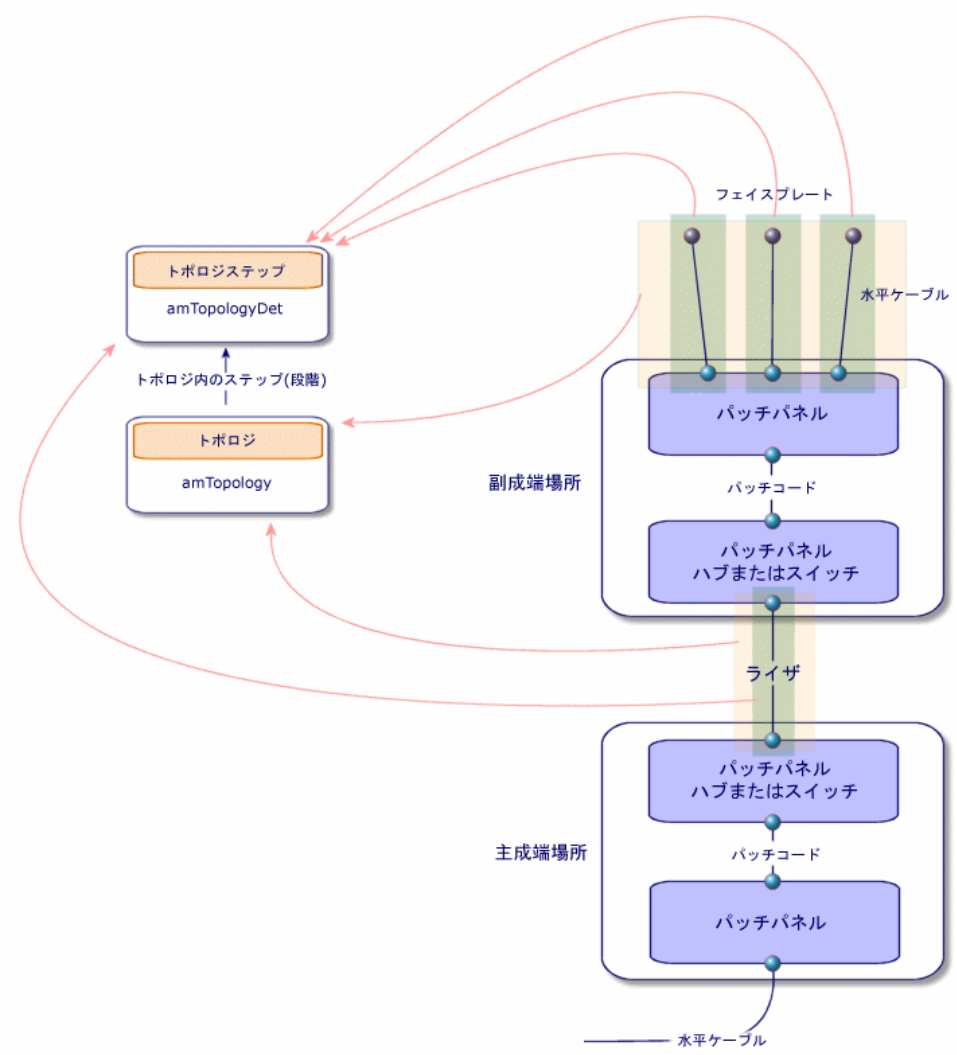


図 3.11. トポロジ - ケーブルネットワークの成端場所との対応



トポロジグループを作成する

1 トポロジグループのリストを表示します（［**ケーブル／トポロジグループ**］）。
2 ネットワークの典型的な設定ごとにレコードを作成します。

例 - 標準ワークステーションは以下の3つのトポロジから構成されています。

- 電話コンセントから成端場所
- ローカルネットワークのコンセントから成端場所
- ローカルネットワークのコンセントから成端場所

必要条件

まずトポロジを作成しておく必要があります。

入力必須のフィールドとリンク

表 3.20. トポロジグループ - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
［トポロジグループ］（*SQL名：amTopologyGroup*）テーブル	
名前	Name
トポロジグループ	TopoGrpDetail
［グループ内のトポロジ］（*SQL名：amTopoGroupDet*）テーブル	
番号	sSequenceNumber

実用例用にトポロジグループを作成する

以下のトポロジを統括するトポロジグループを作成します。

- 電話コンセントから成端場所 - 1つ
- ローカルネットワークのコンセントから成端場所 - 2つ

トポロジグループを作成します。

1. トポロジグループのリストを表示します（［**ケーブル／トポロジグループ**］）。
2. 新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
名前（**Name**）	標準ワークステーション

トポロジを「標準ワークステーション」グループへ追加する

1. 「**標準ワークステーション**」トポロジグループを選択します。
2. 以下のフィールドに値を入力してトポロジ1を追加します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	1

入力するフィールドまたはリンク	値
トポロジ（**Topology**）	電話コンセントから成端場所

3 以下のフィールドに値を入力してトポロジ2を追加します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	2
トポロジ（**Topology**）	ローカルネットワークのコンセントから成端場所

4 以下のフィールドに値を入力してトポロジ3を追加します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	3
トポロジ（**Topology**）	ローカルネットワークのコンセントから成端場所

成端場所設定

定義

▶ 成端場所設定 [献 182]

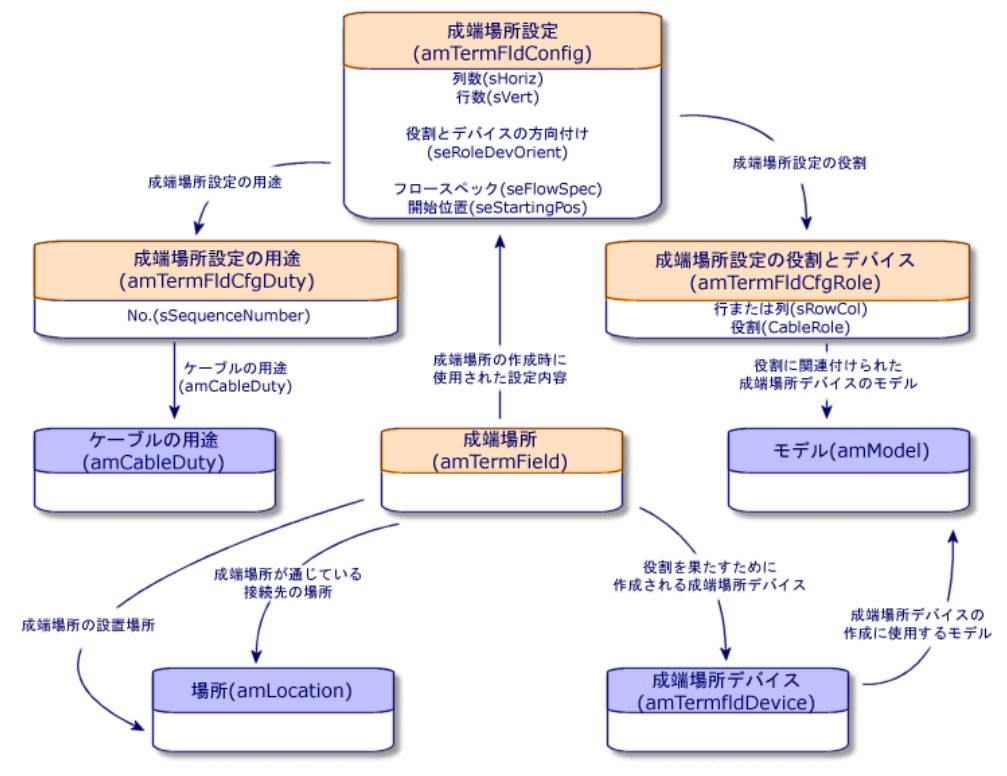
テーブル名

- ［成端場所設定］（SQL名：amTermFldConfig）
- ［成端場所設定の用途］（SQL名：amTermFldCfgDuty）
- ［成端場所設定の役割とデバイス］（SQL名：amTermFldCfgRole）

アクセス用メニュー

［ケーブル／成端場所の設定］

図 3.12. 成端場所設定 - データモデル



成端場所設定のパラメータ

成端場所設定は、成端場所を作成するためにケーブルウィザードが使用する多数のパラメータを定義します。

以下の図は、成端場所の作成時にパラメータが解釈される方法を図解しています。

図 3.13. 成端場所設定の例 - Asset Managerデータベース内での表記方法

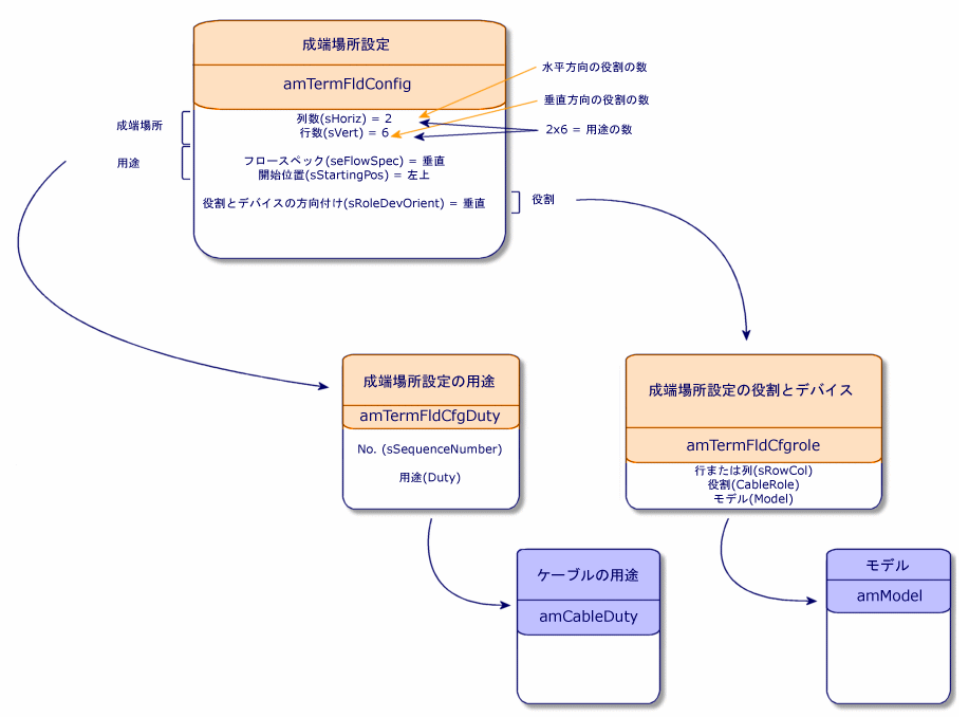


図 3.14. 成端場所設定の例 - 成端場所における対応

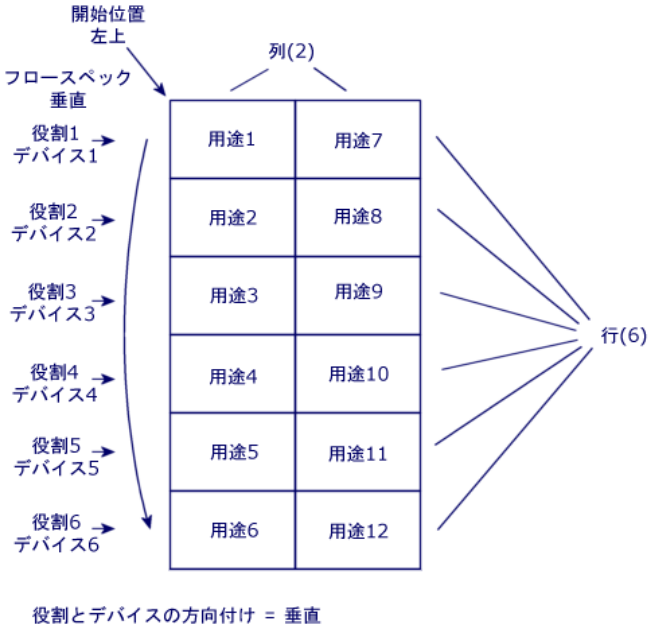


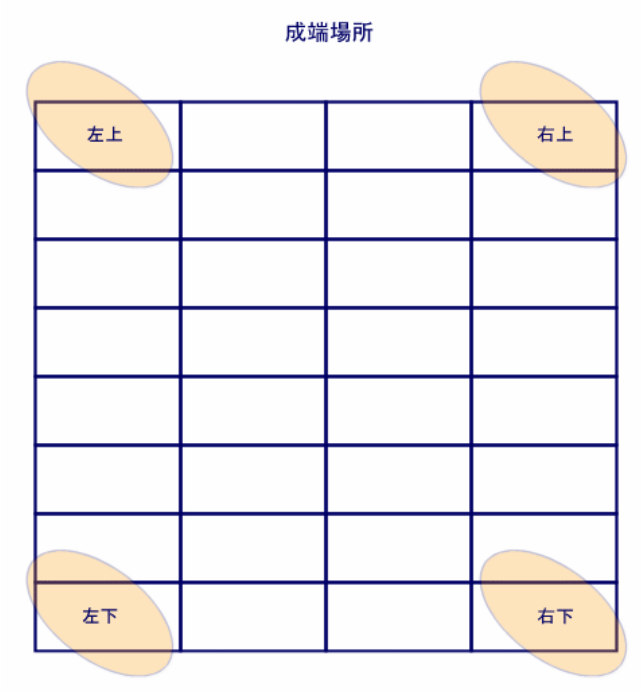
図 3.15. 成端場所設定 - 開始位置を変更する場合の影響の例

図 3.16. 成端場所設定 - ケーブルの役割とデバイスの方向付けを変更する場合の影響の例

図 3.17. 成端場所設定 - フロースペックを変更する場合の影響の例

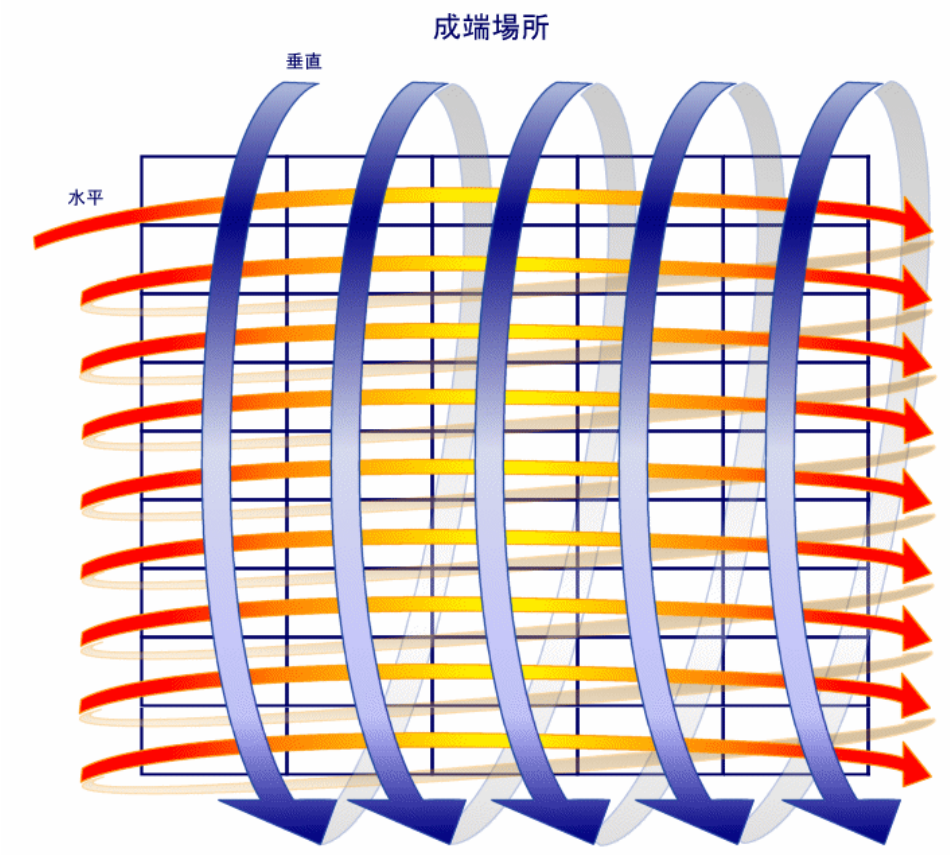
開始位置

図 3.18. 成端場所設定 - 開始位置の意味



フロースペック（成端場所を充填する方向）

図 3.19. 成端場所設定 - フロースペックの意味



成端場所設定を作成する

1 成端場所設定のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所の設定**］）。
2 ネットワークの典型的な成端場所ごとにレコードを作成します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 用途
- ラベル付け規則

- 役割
- 成端場所デバイスのモデル

入力必須のフィールドとリンク

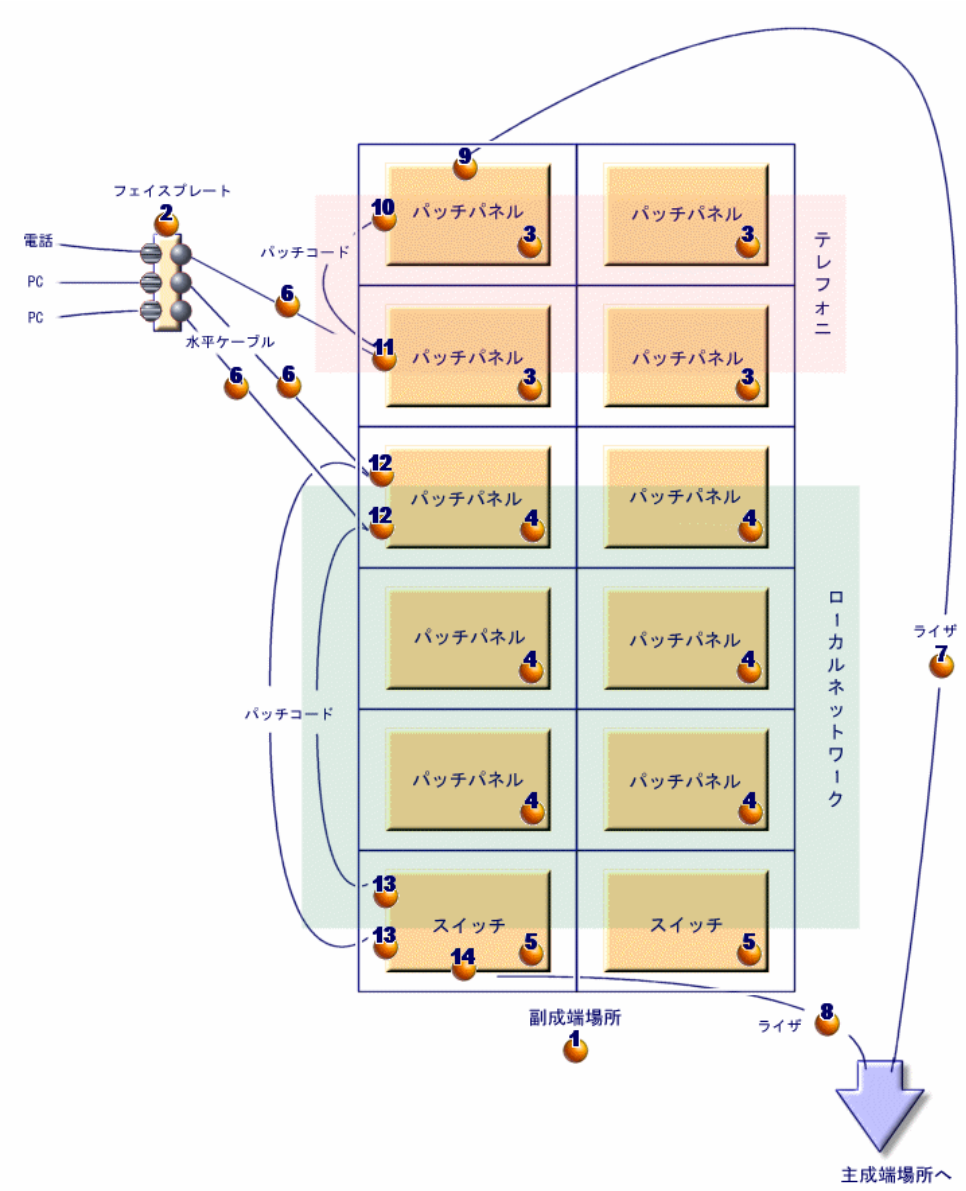
表 3.21. 成端場所設定 - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
［成端場所設定］（*SQL名：amTermFldConfig*）テーブル	
名前	Name
列数	sHoriz
行数	sVert
フロースペック	seFlowSpec
開始位置	seStartingPos
成端場所設定の用途	TermFldCfgDuty
役割とデバイスの方向付け	seRoleDevOrient
ラベル付け規則	LabelRule
成端場所設定の役割とデバイス	TermFldConfRoles
［成端場所設定の用途］（*SQL名：amTermFldCfgDuty*）テーブル	
番号	sSequenceNumber
用途	Duty
［成端場所設定の役割とデバイス］（*SQL名：amTermFldCfgRole*）テーブル	
行または列	sRowCol
役割	CableRole
モデル	Model

実用例用に成端場所設定を作成する

以下のモデルに基づいて、成端場所設定を作成します。

図 3.20. 実用例 - 作成する成端場所設定



成端場所設定を作成する

1 成端場所設定のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所の設定**］）。
2 新規レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
名前（**Name**）	標準の成端場所
列数（**sHoriz**）	2
行数（**sVert**）	6
フロースペック（**seFlowSpec**）	垂直
開始位置（**seStartingPos**）	左上
役割とデバイスの方向付け（**seRoleDevOrient**）	垂直
ラベル付け規則（**LabelRule**）	実用例 - サブ成端場所の資産

「標準の成端場所」設定の用途を作成する

1 成端場所設定を選択します。
2 ［**用途**］タブを選択し、以下のフィールドとリンクに値を入力して用途を追加します。

入力するフィールドまたはリンク	番号（**sSequenceNumber**）	用途（**Duty**）
用途1の値	1	音声
用途2の値	2	音声
用途3の値	3	データ
用途4の値	4	データ
用途5の値	5	データ
用途6の値	6	データ
用途7の値	7	音声
用途8の値	8	音声
用途9の値	9	データ
用途10の値	10	データ
用途11の値	11	データ
用途12の値	12	データ

「標準の成端場所」設定の役割を作成する

1 成端場所設定を選択します。
2 ［**役割とデバイス**］タブを選択し、以下のフィールドとリンクに値を入力して役割/デバイスを追加します。

	行または列（**sRowCol**）	役割（**CableRole**）	モデル（**Model**）
役割1の値	1	ライザ	32ポートパッチパネル（256ピン）
役割2の値	2	水平	32ポートパッチパネル（256ピン）
役割3の値	3	水平	ケーブル付き24ポートパッチパネル
役割4の値	4	水平	ケーブル付き24ポートパッチパネル
役割5の値	5	水平	ケーブル付き24ポートパッチパネル
役割6の値	6	ライザ	ProCurveSwitch 4000 M - 10スロット

4 成端場所

定義

▶ 成端場所 [献 190]

テーブル名

［成端場所］（SQL名：amTermField）

アクセス用メニュー

［ケーブル／成端場所］

成端場所を作成する

成端場所は手動で作成可能です。または、以下のウィザードの内1つを使って作成することもできます。

- **成端場所の作成**
- **成端場所の拡張**
- **ワイヤリングクローゼットの複製**

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 成端場所設定
- 成端場所が位置する場所と、成端場所に接続されるコンピュータ
- 用途

- ラベル付け規則
- 役割
- 成端場所デバイスのモデル

入力必須のフィールドとリンク

表 4.1. 成端場所 - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名
［成端場所］（*SQL名：amTermField*）テーブル	
名前	Name
場所	Location
成端場所デバイス	TermFieldDevices
ユーザの場所	UserLocs
［成端場所デバイス］（*SQL名：amTermFldDevice*）テーブル	
役割	CableRole
ラベル	Label
水平位置	sHoriz
番号	sSequenceNumber
垂直位置	sVert

成端場所を手動で作成する

ネットワークの各成端場所（主成端場所または各階の成端場所）ごとに、以下の操作を実行します。

1. 成端場所のリストを表示します（**［ケーブル／成端場所］**）。
2. レコードを作成します。
3. **［成端場所デバイス］**（SQL名：TermFieldDevices）リンクを使用して、成端場所のスロットを作成します。
4. **［ユーザの場所］**（SQL名：UserLocs）リンクを使用して、成端場所の接続先である場所を選択します。

［成端場所の作成］ウィザード

ウィザードが果たす機能

［成端場所の作成］ウィザードでは、成端場所設定を基に成端場所を作成できます。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 成端場所設定
- 成端場所の場所と、成端場所の接続先ワークステーション

ウィザードの使用

ウィザードを実行するために必要なコンテキストは特にありません。

ウィザードを実行するには、

1 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。

2 ［**成端場所の作成**］ウィザードを選択します。

> **注意:**
>
> **このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。**

ウィザードの実行時に有用な情報

表 4.2.［成端場所の作成］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［**成端場所を設定する**］ページ	
成端場所に自動的に名前をつけますか?	このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは特殊フィールド［**TermFieldName**］を使用して、成端場所の［**名前**］（SQL名：Name）フィールドに値を入力します。
成端場所名	［**成端場所に自動的に名前をつけますか?**］チェックボックスをオフにした場合、このフィールドで名前を指定すると、成端場所の［**名前**］（SQL名：Name）フィールドに値が入力されます。
成端場所の場所	成端場所の設置場所を選択します。
成端場所設定	成端場所を作成する際にテンプレートとなる成端場所設定を選択します。
［**オプションを指定する**］ページ	
列	作成する成端場所の列の数を指定します。 この数は、成端場所設定の［**列数**］（SQL名：sHoriz）フィールドの値以下でなければなりません。 デフォルトでは、成端場所設定の［列数］フィールドの値が入力されています。
行	作成する成端場所の行の数を指定します。 この数は、成端場所設定の［**行数**］（SQL名：sVert）フィールドの値以下でなければなりません。 デフォルトでは、成端場所設定の［行数］フィールドの値が入力されています。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
デバイスの自動生成	このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、成端場所のスロット用に成端場所デバイスを作成します。 ウィザードは、［**成端場所設定の役割とデバイス**］で定義した［**モデル**］（SQL名：Model）リンクを使ってデバイスを作成します。
新規デバイス用のラベル付け規則を選択する	ウィザードが作成する成端場所デバイスに関連付けられるラベル付け規則を選択します。 このラベル付け規則は、デバイスの［**ラベル付け規則**］（SQL名：LabelRule）リンクに値を入力します。ウィザードはまた、このラベル付け規則に基づいて［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールドにも値を入力します。 ウィザードでのデフォルトのラベル付け規則は、成端場所設定の［**ラベル付け規則**］（SQL名：LabelRule）リンクにより選択される規則です。
［**プロジェクトと作業指示を選択する**］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	以下の場合はこのオプションをオンにします。 ■ データベースで実行されたプロジェクトに関する操作の履歴を保存する場合 ■ 現場で実行する必要があるタスクを作業指示用に記述する場合
プロジェクト	ウィザードがデータベース内で実行する操作の内容を、どのプロジェクトに保存するかを指定します。
作業指示	作業指示用に現場で実行するタスクを、どの作業指示内に記録するかを指定します。
デバイスに関するコメント	［**プロジェクトに含まれる資産**］（SQL名：amAstProjDesc）テーブルの、［**説明**］（SQL名：Description）フィールド内に作成する値をここに入力します。 これは、ウィザードに作成される全デバイスに適用されます。

ウィザードが作成または変更するデータ

ウィザードは以下のデータを作成します。

- 成端場所1つ（**amTermField**）
- 成端場所デバイス（**amTermFldDevice**）
- 成端場所デバイスに対応する資産（**amAsset**）
- デバイス用のポート（**amPort**）
- デバイス用のスロット（**amSlot**）
- デバイス用のピン/ターミナル（**amDevicePin**）

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 4.3.［成端場所の作成］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
［成端場所］（*SQL名：amTermField*）テーブル		
名前	Name	ウィザードでユーザが選択した名前、または特殊フィールド［**TermFieldName**］が指定した名前
成端場所設定	TermFldConfig	ウィザードで選択した設定
場所	Location	ウィザードで選択した場所
成端場所デバイス	TermFieldDevices	ウィザードの［**デバイスの自動作成**］チェックボックスをオンにした場合、ウィザードは、作成される成端場所のスロットごとにデバイスを作成します。
ユーザの場所	UserLocs	ウィザードで選択した場所。
［成端場所デバイス］（*SQL名：amTermFldDevice*）テーブル		
番号	sSequenceNumber	成端場所設定のパラメータに基づいて定義されます。
水平位置	sHoriz	成端場所設定のパラメータに基づいて定義されます。
垂直位置	sVert	成端場所設定のパラメータに基づいて定義されます。
役割	CableRole	成端場所内のデバイスの位置に対応する、成端場所設定の役割の［**役割**］（SQL名：CableRole）フィールド
デバイス	Device	成端場所内のデバイスの位置に対応する、成端場所設定の役割の［**モデル**］（SQL名：Model）リンクを基に、ウィザードが作成するデバイス
［資産］（*SQL名：amAsset*）テーブル		
モデル	Model	成端場所内のデバイスの位置に対応する、成端場所設定の役割の［**モデル**］（SQL名：Model）
ラベル付け規則	LabelRule	ウィザードで選択したラベル付け規則
ラベル	Label	デバイスのラベル付け規則に基づいて、ウィザードが算出するラベル
スロット	AssetSlots	デバイスのモデルのスロット
デバイスのピン/ターミナル	Pins	Asset Managerは、モデルの［**ピン/ターミナルの数**］（SQL名：lPins）フィールドで定義された数と同数のピンを作成します。
ポート	Ports	デバイスのモデルのポート
［ポート］（*SQL名：amPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	モデルでの値と同様
番号	sSequenceNumber	モデルでの値と同様
接続タイプ	CabCnxType	モデルでの値と同様
ステータス	seCnxStatus	ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
用途	Duty	ポートを含むデバイスのスロット用に定義される成端場所設定の用途の、［**用途**］（SQL名：Duty）リンク
［スロット］（*SQL名：amSlot*）テーブル		
名前	Name	モデルでの値と同様
番号	sSequenceNumber	モデルでの値と同様
スロットタイプ	SlotType	モデルでの値と同様
［ピン］（*SQL名：amDevicePin*）テーブル		
名前	Name	自動連続番号

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
番号	sSequenceNumber	自動連続番号
ステータス	seCnxStatus	ウィザードは［**使用可能**］に指定します。

結果を表示する

作成された成端場所を表示するには、以下のいずれかの方法を選択します。

- オプション1
  1. 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
  2. ウィザードが作成した成端場所を選択します。
- オプション2
  1. 場所のリストを表示します（［**ポートフォリオ／場所**］）。
  2. ウィザードが作成した成端場所の設置場所を選択します。
  3. ［**成端場所**］タブを選択します。
  4. ウィザードが作成した成端場所を選択します。

ウィザードの実行後

ウィザードは成端場所のデバイススロットの［**デバイス**］リンク（［**資産**］）には入力しません。

以下の手順に従います。

1. 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
2. ウィザードが作成した成端場所を選択します。
3. ［**デバイス**］タブを選択します。
4. スロット付のデバイスを1つずつ選択し、各デバイスごとに以下の操作を行います。
   1. ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
   2. ［**デバイス**］（SQL名：Device）リンクの右側にある［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
   3. ［**スロット**］タブを選択します。
   4. 値を入力する必要があるスロットを1つずつ選択し、各スロットごとに以下の操作を行います。
      1. ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
      2. 詳細画面のフィールドとリンクに値を入力します。
   5. ［**変更**］をクリックします。
   6. ［**変更**］をクリックします。
   7. ［**閉じる**］をクリックします。
5. ［**変更**］をクリックします。

実用例用に［成端場所の作成］ウィザードを使用する

「標準の成端場所」成端場所設定に基づいて、成端場所の1列を作成します。2列目は、［**成端場所の拡張**］ウィザードを使って後で追加します。

1 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。

2 ［**成端場所の作成**］ウィザードを選択します。

> **注意:**
>
> **このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。**

3 以下の情報を入力します。

ウィザードに表示されるタイトル	入力または選択する値
［**成端場所を設定する**］ページ	
成端場所に自動的に名前をつけますか?	チェックボックスをオフにします。
成端場所名	階の成端場所
成端場所の場所	ケーブル配線された建物/1階/階のワイヤリングクローゼット
成端場所設定	標準の成端場所
［**オプションを指定する**］ページ	
列	1
行	6
デバイスの自動生成	このオプションをオンにします。
新規デバイス用のラベル付け規則を選択する	実用例 - サブ成端場所の資産
新規の成端場所が通じる場所	ケーブル配線された建物/1階/事務所1
［**プロジェクトと作業指示を選択する**］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	このオプションをオンにします。
プロジェクト	成端場所の作成
作業指示	表示される作業指示から選択します。
デバイスに関するコメント	デバイスを成端場所にインストールする

4 デバイス**ProCurve Switch 4000 M - 10スロット**のスロットに、モジュールを追加します。

> **警告:**
>
> **これは後で、本マニュアルの「実用例用にケーブルデバイスを手動作成する*[献 123]*」の節の手順に従って実行します。**

5 他のタブも選択して、ウィザード実行の結果を確認します。

［成端場所の拡張］ウィザード

ウィザードが果たす機能

［成端場所の拡張］ウィザードでは、成端場所設定を基に既存の成端場所に列や行を追加できます。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 成端場所の接続先であるワークステーション設置場所
- 拡張する成端場所

既存の成端場所には、成端場所設定よりも少ない行または列が含まれていなければなりません。

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、**［成端場所］**（SQL名：amTermField）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1. 成端場所のリストを表示します（**［ケーブル／成端場所］**）。
2. リストの中から、拡張する成端場所を選択します。
3. アクションの一覧を表示します（**［ツール／アクション］**）。
4. **［成端場所の拡張］**ウィザードを選択します。

> **注意:**
>
> **このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。**

ウィザードの実行時に有用な情報

表 4.4. ［成端場所の拡張］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［オプションを指定する］ページ	
列	追加する成端場所の列の数を指定します。 この数と既存の列数の合計は、成端場所設定の**［列数］**（SQL名：sHoriz）フィールドの値以下でなければなりません。 デフォルトでは、追加可能な列数が表示されています。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
行	追加する成端場所の行の数を指定します。 この数と既存の行数の合計は、成端場所設定の［**行数**］（SQL名：sVert）フィールドの値以下でなければなりません。 デフォルトでは、追加可能な行数が表示されています。
デバイスの自動生成	このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、成端場所のスロット用に成端場所デバイスを作成します。 ウィザードは、［成端場所設定の役割とデバイス］で定義した［**モデル**］（SQL名：Model）リンクを使ってデバイスを作成します。
新規デバイス用のラベル付け規則を選択する	ウィザードが作成する成端場所デバイスに関連付けられるラベル付け規則を選択します。 このラベル付け規則は、デバイスの［**ラベル付け規則**］（SQL名：LabelRule）リンクに値を入力します。 ウィザードはまた、このラベル付け規則に基づいて［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールドにも値を入力します。 ウィザードでのデフォルトのラベル付け規則は、成端場所設定の［**ラベル付け規則**］（SQL名：LabelRule）リンクにより選択される規則です。
［**プロジェクトと作業指示を選択する**］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	以下の場合はこのオプションをオンにします。 ■ データベースで実行されたプロジェクトに関する操作の履歴を保存する場合 ■ 現場で実行する必要があるタスクを作業指示用に記述する場合
プロジェクト	ウィザードがデータベース内で実行する操作の内容を、どのプロジェクトに保存するかを指定します。
作業指示	作業指示用に現場で実行するタスクを、どの作業指示内に記録するかを指定します。
デバイスに関するコメント	［**プロジェクトに含まれる資産**］（SQL名：amAstProjDesc）テーブルの、［**説明**］（SQL名：Description）フィールド内に作成する値をここに入力します。これは、成端場所の拡張時に作成されるデバイスに適用されます。

ウィザードが作成または変更するデータ

ウィザードは以下のデータを作成します。

- 成端場所デバイス（**amTermFldDevice**）
- 成端場所デバイスに対応する資産（**amAsset**）
- デバイス用のポート（**amPort**）
- デバイス用のスロット（**amSlot**）
- デバイス用のピン/ターミナル（**amDevicePin**）

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 4.5.［成端場所の拡張］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
［成端場所］（*SQL名：amTermField*）テーブル		
成端場所デバイス	TermFieldDevices	ウィザードの［**デバイスの自動作成**］チェックボックスをオンにした場合、ウィザードは、作成される成端場所のスロットごとにデバイスを作成します。
［成端場所デバイス］（*SQL名：amTermFldDevice*）テーブル		
番号	sSequenceNumber	成端場所設定のパラメータに基づいて定義されます。
水平位置	sHoriz	成端場所設定のパラメータに基づいて定義されます。
垂直位置	sVert	成端場所設定のパラメータに基づいて定義されます。
役割	CableRole	成端場所内のデバイスの位置に対応する、成端場所設定の役割の［**役割**］（SQL名：CableRole）フィールド
デバイス	Device	成端場所内のデバイスの位置に対応する、成端場所設定の役割の［**モデル**］（SQL名：Model）リンクを基に、ウィザードが作成するデバイス
［資産］（*SQL名：amAsset*）テーブル		
モデル	Model	成端場所内のデバイスの位置に対応する、成端場所設定の役割の［**モデル**］（SQL名：Model）
ラベル付け規則	LabelRule	ウィザードで選択したラベル付け規則
ラベル	Label	デバイスのラベル付け規則に基づいて、ウィザードが算出するラベル
スロット	AssetSlots	デバイスのモデルのスロット
デバイスのピン/ターミナル	Pins	Asset Managerは、モデルの［**ピン/ターミナルの数**］（SQL名：lPins）フィールドで定義された数と同数のピンを作成します。
ポート	Ports	デバイスのモデルのポート
［ポート］（*SQL名：amPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	モデルでの値と同様
番号	sSequenceNumber	モデルでの値と同様
接続タイプ	CabCnxType	モデルでの値と同様
ステータス	seCnxStatus	ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
用途	Duty	ポートを含むデバイスのスロット用に定義される成端場所設定の用途の、［**用途**］（SQL名：Duty）リンク
［スロット］（*SQL名：amSlot*）テーブル		
名前	Name	モデルでの値と同様
番号	sSequenceNumber	モデルでの値と同様
スロットタイプ	SlotType	モデルでの値と同様
［ピン］（*SQL名：amDevicePin*）テーブル		
名前	Name	自動連続番号

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
番号	sSequenceNumber	自動連続番号
ステータス	seCnxStatus	ウィザードは［**使用可能**］に指定します。

結果を表示する

作成された成端場所を表示するには、以下のいずれかの方法を選択します。

- オプション1
  1. 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
  2. ウィザードが作成した成端場所を選択します。
- オプション2
  1. 場所のリストを表示します（［**ポートフォリオ／場所**］）。
  2. ウィザードが作成した成端場所の設置場所を選択します。
  3. ［**成端場所**］タブを選択します。
  4. ウィザードが作成した成端場所を選択します。

ウィザードの実行後

ウィザードは以下のフィールドには値を入力しません。

- 成端場所の［**ユーザの場所**］（SQL名：UserLocs）。これは、成端場所が通じている接続先の場所を指します。
- 成端場所のデバイスのスロットの［**デバイス**］（**Asset**）

以下の手順に従います。

1. 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
2. ウィザードが作成した成端場所を選択します。
3. ［**接続先場所**］タブを選択します。
4. 成端場所が通じている接続先の場所を1つずつ追加します。
5. ［**デバイス**］タブを選択します。
6. スロット付のデバイスを1つずつ選択し、各デバイスごとに以下の操作を行います。
   1. ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
   2. ［**デバイス**］（SQL名：Device）リンクの右側にある［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
   3. ［**スロット**］タブを選択します。
   4. 値を入力する必要があるスロットを1つずつ選択し、各スロットごとに以下の操作を行います。
      1. ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
      2. 詳細画面のフィールドとリンクに値を入力します。
   5. ［**変更**］をクリックします。
   6. ［**変更**］をクリックします。

7 ［**閉じる**］をクリックします。

7 ［**変更**］をクリックします。

実用例で［成端場所の拡張］ウィザードを使用する

成端場所設定「**標準の成端場所**」に基づいて以前に作成された成端場所に、1列を追加します。

1 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。

2 成端場所「**階の成端場所**」を選択します。

3 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。

4 ［**成端場所の拡張**］ウィザードを選択します。

> **注意:**
>
> **このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。**

5 以下の情報を入力します。

ウィザードに表示されるタイトル	入力または選択する値
［**オプションを指定する**］ページ	
行	0
列	1
デバイスの自動生成	このオプションをオンにします。
新規デバイス用のラベル付け規則を選択する	実用例 - サブ成端場所の資産
［**プロジェクトと作業指示を選択する**］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	このオプションをオンにします。
プロジェクト	成端場所の拡張
作業指示	表示される作業指示から選択します。
デバイスに関するコメント	デバイスを成端場所にインストールする

6 実際には、**ProCurve Switch 4000 M - 10スロット**のスロット内に挿入するモジュールを作成することになりますが、この実用例では必要ありません。

7 結果を確認します。

- 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
- 成端場所「**階の成端場所**」を選択します。
- 全タブの情報を確認します。

［ワイヤリングクローゼットの複製］ウィザード

ウィザードが果たす機能

［ワイヤリングクローゼットの複製］ウィザードを使用すると、ソース場所とその従属場所の成端場所を、ターゲット場所に複製できます。

注意:

ターゲット場所に既に成端場所があっても構いません。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 新規ワイヤリングクローゼットの親場所
- 複製するワイヤリングクローゼット（場所 + 成端場所）
- 成端場所の場所と、成端場所の接続先ワークステーション

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、**［場所］**（SQL名：amLocation）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1 場所のリストを表示します（**［ポートフォリオ／場所］**）。
2 リストから場所を選択するか、または詳細画面で**［場所］**テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3 アクションの一覧を表示します（**［ツール／アクション］**）。
4 **［ワイヤリングクローゼットの複製］**ウィザードを選択します。

注意:

このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。

ウィザードの実行時に有用な情報

表 4.6. ［ワイヤリングクローゼットの複製］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［ソース場所とターゲット場所を選択する］ページ	
ターゲット場所	ソース場所をどの場所で複製するかを指定します。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
ワイヤリングクローゼットの新規名	■ このフィールドを空白にしておくと、ウィザードはソース場所の成端場所をターゲット場所内に複製するだけで、他の操作は実行しません。 ■ このフィールドに値を入力すると、ウィザードはターゲット場所に従属場所を作成します。 ソース成端場所は、この従属場所内に複製されます。
従属場所を複製しますか?	このチェックボックスをオンにすると、ソース場所の従属場所も複製されます。
新規の成端場所の名前を自動的に変更しますか?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは特殊フィールド［**TermFieldName**］を使用して、成端場所の［**名前**］（SQL名：Name）フィールドに値を入力します。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードはソース成端場所の名前を複製します。
成端場所デバイス用の新規ラベルを更新しますか?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、デバイスの［**ラベル付け規則**］（SQL名：LabelRule）リンクに選択されたラベル付け規則に基づいて、デバイスの［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールドの値を再計算します。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは、ソース成端場所のデバイスのラベルを複製します。
［複製する成端場所を選択する］ページ	
複製する成端場所を選択する	選択したソース場所の成端場所が表示されます。
［プロジェクトと作業指示を選択する］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	以下の場合はこのオプションをオンにします。 ■ データベースで実行されたプロジェクトに関する操作の履歴を保存する場合 ■ 現場で実行する必要があるタスクを作業指示用に記述する場合
プロジェクト	ウィザードがデータベース内で実行する操作の内容を、どのプロジェクトに保存するかを指定します。
作業指示	作業指示用に現場で実行するタスクを、どの作業指示内に記録するかを指定します。
デバイスに関するコメント	［**プロジェクトに含まれる資産**］（SQL名：amAstProjDesc）テーブルの、［**説明**］（SQL名：Description）フィールド内に作成する値をここに入力します。 これは、ウィザードに作成される全デバイスに適用されます。

ウィザードが作成または変更するデータ

ウィザードは以下のデータを作成します。

- 場所（**amLocation**）
- 成端場所（**amTermField**）
- 成端場所デバイス（**amTermFldDevice**）
- 成端場所デバイスに対応する資産（**amAsset**）

- デバイス用のポート（**amPort**）
- デバイス用のスロット（**amSlot**）
- デバイス用のピン/ターミナル（**amDevicePin**）

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 4.7.［ワイヤリングクローゼットの複製］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
［場所］（*SQL名：amLocation*）テーブル		
名前	Name	■ ウィザードの［**ワイヤリングクローゼットの新規名**］フィールドで名前を指定した場合は、このフィールドの値が入力されます。 ■ その他の場合は、ウィザードで選択したターゲット場所の名前が入力されます。
［成端場所］（*SQL名：amTermField*）テーブル		
成端場所デバイス	TermFieldDevices	ウィザードで選択されたソース成端場所の各デバイスごとに、レコードが作成されます。
ユーザの場所	UserLocs	ウィザードで選択した場所。
［成端場所デバイス］（*SQL名：amTermFldDevice*）テーブル		
番号	sSequenceNumber	ソースデバイスでの値と同様
水平位置	sHoriz	ソースデバイスでの値と同様
垂直位置	sVert	ソースデバイスでの値と同様
役割	CableRole	ソースデバイスでの値と同様
デバイス	Device	ソースデバイスの［**モデル**］（SQL名：Model）リンクに基づいて、ウィザードが作成するデバイス
［資産］（*SQL名：amAsset*）テーブル		
モデル	Model	ソースデバイスでの値と同様
ラベル付け規則	LabelRule	ソースデバイスでの値と同様
ラベル	Label	■ ウィザードの［**成端場所デバイス用の新規ラベルを更新しますか?**］チェックボックスをオンにした場合、デバイスのラベル付け規則に基づいて、ウィザードが算出するラベルがここに入力されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ソースデバイスと同じ値が入力されます。
スロット	AssetSlots	ソースデバイスでの値と同様
デバイスのピン/ターミナル	Pins	ソースデバイスでの値と同様
ポート	Ports	ソースデバイスでの値と同様
［ポート］（*SQL名：amPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	ソースデバイスのポートでの値と同様
番号	sSequenceNumber	ソースデバイスのポートでの値と同様
接続タイプ	CabCnxType	ソースデバイスのポートでの値と同様

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
ステータス	seCnxStatus	ソースデバイスのポートでの値と同様
用途	Duty	ソースデバイスのポートでの値と同様
［スロット］（*SQL名：amSlot*）テーブル		
名前	Name	ソースデバイスのスロットでの値と同様
番号	sSequenceNumber	ソースデバイスのスロットでの値と同様
スロットタイプ	SlotType	ソースデバイスのスロットでの値と同様
［ピン］（*SQL名：amDevicePin*）テーブル		
名前	Name	自動連続番号
番号	sSequenceNumber	自動連続番号
ステータス	seCnxStatus	ウィザードは［**使用可能**］に指定します。

結果を表示する

作成された成端場所を表示するには、以下のいずれかの方法を選択します。

- オプション1
  1. 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
  2. ウィザードが作成した成端場所を選択します。
- オプション2
  1. 場所のリストを表示します（［**ポートフォリオ／場所**］）。
  2. ウィザードが作成した成端場所の設置場所を選択します。
  3. ［**成端場所**］タブを選択します。
  4. ウィザードが作成した成端場所を選択します。

ウィザードの実行後

ウィザードは成端場所デバイススロットの［**デバイス**］リンク（［**資産**］）には入力しません。

以下の手順に従います。

1. 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
2. ウィザードが作成した成端場所を選択します。
3. ［**デバイス**］タブを選択します。
4. スロット付のデバイスを1つずつ選択し、各デバイスごとに以下の操作を行います。
   1. ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
   2. ［**デバイス**］（SQL名：Device）リンクの右側にある［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
   3. ［**スロット**］タブを選択します。
   4. 値を入力する必要があるスロットを1つずつ選択し、各スロットごとに以下の操作を行います。
      1. ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
      2. 詳細画面のフィールドとリンクに値を入力します。

5 ［変更］をクリックします。
6 ［変更］をクリックします。
7 ［閉じる］をクリックします。

5 ［変更］をクリックします。

実用例用に［ワイヤリングクローゼットの複製］ウィザードを使用する

前段階で作成された階のワイヤリングクローゼットの成端場所を、主ワイヤリングクローゼット内に複製します。

1 場所のリストを表示します（［ポートフォリオ／場所］）。
2 場所「ケーブル配線された建物/*1*階/階のワイヤリングクローゼット」を選択します。
3 アクションの一覧を表示します（［ツール／アクション］）。
4 ［ワイヤリングクローゼットの複製］ウィザードを選択します。

> **注意:**
>
> **このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。**

5 以下の情報を入力します。

ウィザードに表示されるタイトル	入力または選択する値
［ソース場所とターゲット場所を選択する］ページ	
ターゲット場所	ケーブル配線された建物/2階/主ワイヤリングクローゼット
ワイヤリングクローゼットの新規名	このフィールドは空白にしておきます。
従属場所を複製しますか?	チェックボックスをオフにします。
新規の成端場所の名前を自動的に変更しますか?	このオプションをオンにします。
成端場所デバイス用の新規ラベルを更新しますか?	このオプションをオンにします。
［複製する成端場所を選択する］ページ	
複製する成端場所を選択する	階の成端場所
新規の成端場所が通じる場所	ケーブル配線された建物/1階/階のワイヤリングクローゼット
［プロジェクトと作業指示を選択する］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	このオプションをオンにします。
プロジェクト	ワイヤリングクローゼットを複製する
作業指示	表示される作業指示から選択します。
デバイスに関するコメント	デバイスを成端場所にインストールする

6 上記で作成した成端場所を選択します。

1 場所のリストを表示します（［**ポートフォリオ／場所**］）。
2 場所「**/ケーブル配線された建物/2階/主ワイヤリングクローゼット**」を選択します。
3 ［**成端場所**］タブを選択します。
4 新規の成端場所を選択します。
5 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。

7 成端場所の名前を「**主成端場所**」に変更します。
8 デバイス**ProCurve Switch 4000 M - 10スロット**のスロットに、モジュールを追加します。

警告:

これは後で、本マニュアルの「ケーブルデバイス - 手動作成 [献 114]」の節の手順に従って実行します。

9 他のタブも選択して、ウィザード実行の結果を確認します。

5 ケーブルデバイス、ケーブルと接続 - 手動作成

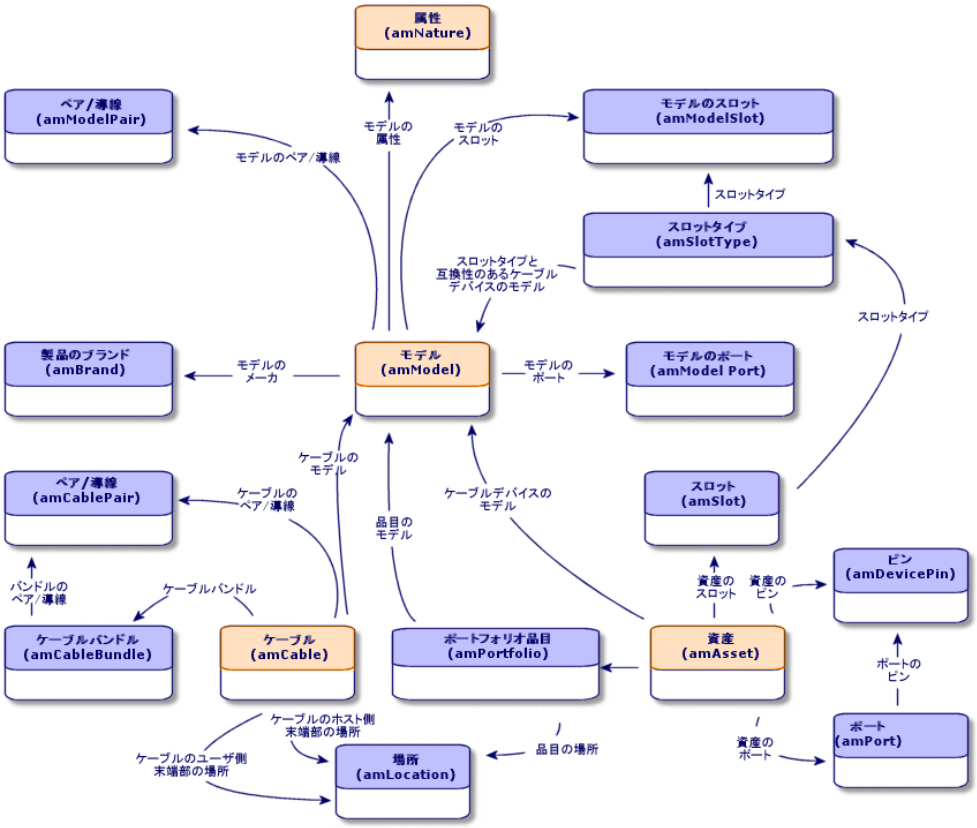
ケーブルデバイス、ケーブルとリンクは、手動またはウィザードで作成可能です。

- 手動で作成する方が時間がかかりますが、作成プロセスを詳細に渡って管理できます。
- ウィザードでは素早く作成できますが、ユーザが管理できる部分は少なくなります。

注意:

ケーブルデバイスは［資産］（SQL名：amAsset）テーブルに保存されますが、ケーブルは、［ケーブル］（SQL名：amCable）テーブルに保存されます。これに対して、資産のモデルとケーブルのモデルは、同一の［モデル］（SQL名：amModel）テーブルにあります。

図 5.1. ケーブルとケーブルデバイス - データモデル



ケーブルデバイス - 手動作成

定義

- ケーブルデバイス [献 183]
- ポート [献 189]
- ピン/ターミナル [献 179]
- スロット [献 183]

テーブル名

- ［資産］（SQL名：amAsset）
- ［ポート］（SQL名：amPort）
- ［ピン］（SQL名：amDevicePin）
- ［スロット］（SQL名：amSlot）

アクセス用メニュー

［ケーブル／ケーブルデバイス］

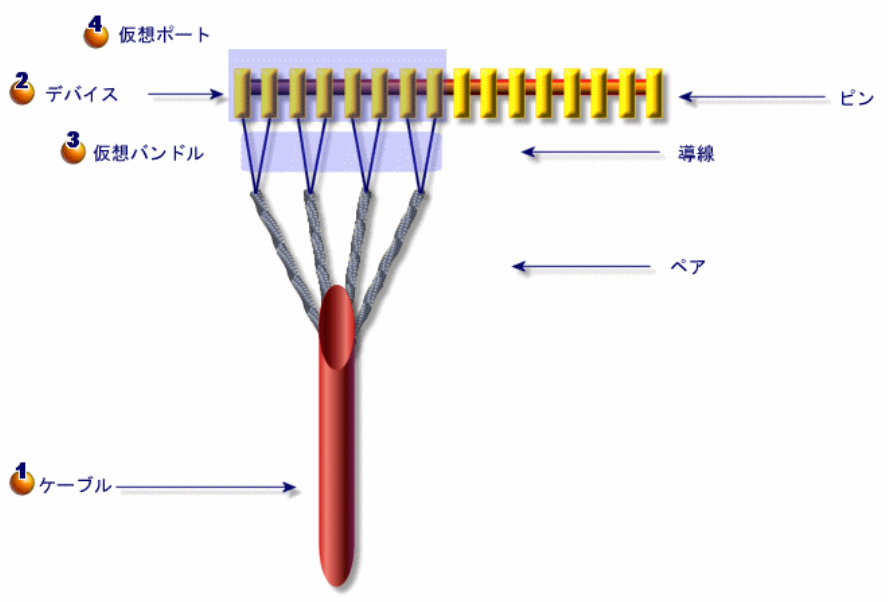
ピン型の接続の場合、**Asset Manager**に仮想バンドルを作成させる

一部のケーブルやケーブルデバイスは、多数のバンドルやポートから構成されています。このため、手動で各バンドルやポートを作成するのは大変な作業になります。リンクを作成するためにバンドルやポートが必要な場合、ウィザードは仮想バンドルと仮想ポートを作成できます。仮想バンドルと仮想ポートを使用するケーブルリンクが削除されると、これらの仮想バンドル/ポートも削除されます。

注意:

ウィザードは、トポロジに基づいてケーブル/デバイスのモデルや、ペア/ピンを識別します。

図 5.2. 仮想ポートと仮想バンドル - 図解



1 ケーブルとペアを手動で作成します。またはウィザードで作成します。

2 ケーブルデバイスとピンを手動で作成します。またはウィザードで作成します。

3 ウィザードは、最初の使用可能なペアを使って、1つの仮想バンドルを作成します。

4 ウィザードは、最初の使用可能なピンを使って、1つの仮想ポートを作成します。

片面または両面のデバイス

ケーブルデバイスには、片面だけのものと両面から成るものがあります。ポートやピンが1つの面にまとめられている場合、このデバイスは片面のデバイスになります。ポートやピンが両面にある場合、このデバイスは両面のデバイスになります。

例

パッチパネルは両面のデバイスです。裏面は、主にライザや水平ケーブルを接続するために使用されます。表側は、主に他のパッチパネルへ接続するために使用されます。

デバイスが両面の場合、ケーブルウィザードは、デバイスの1つのポートに複数のリンクを作成できます。

ケーブルデバイスが片面または両面であるかどうかは、モデルの［**面数**］（SQL名：seDevSdType）フィールドで定義します。

以下の図は、ピン型またはポート型の接続に応じて、両面のデバイス数種を解説しています。

それぞれの場合に、以下の操作を実行する必要があるかどうかが説明されています。

- デバイスのモデルで、ポートを作成する。
- ［**ピン/ターミナルの数**］（SQL名：lPins）フィールドに値を入力する。

重要項目:

ウィザードが適切に仮想ポートを作成するように設定するには、これらの図の指示に忠実に従う必要があります。

図 5.3. ポート/ポート型の両面デバイス - 図解

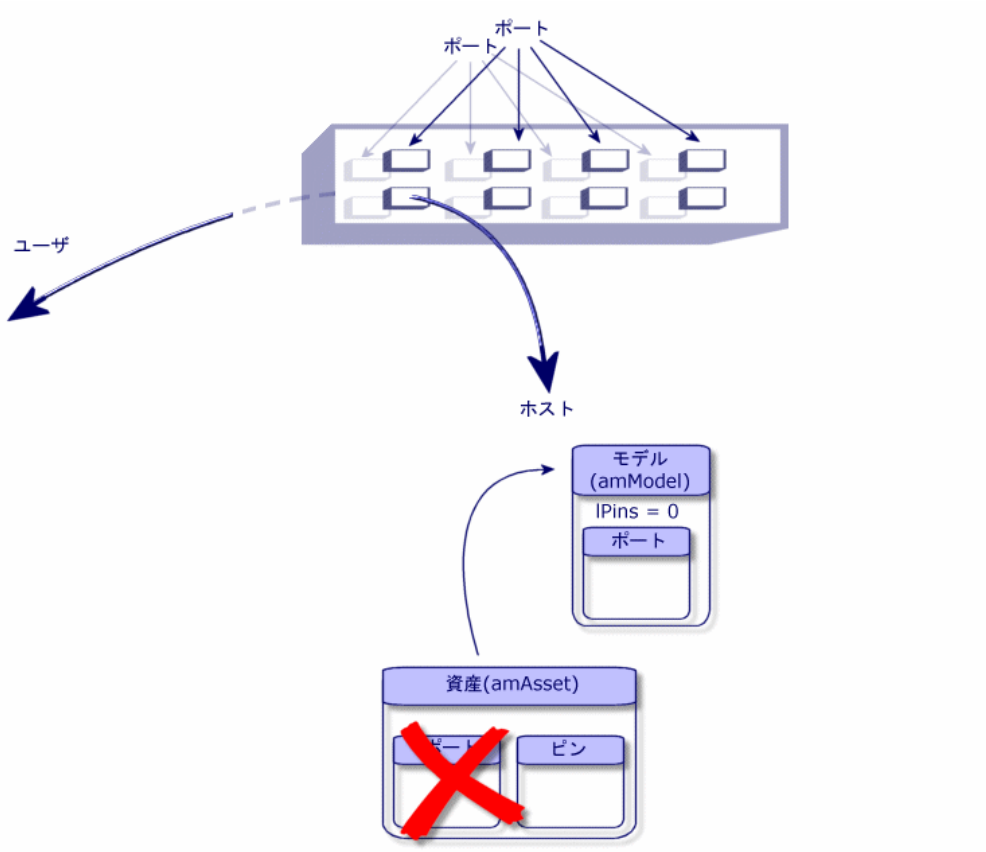


図 5.4. ポート/ピン型の両面デバイス - 図解

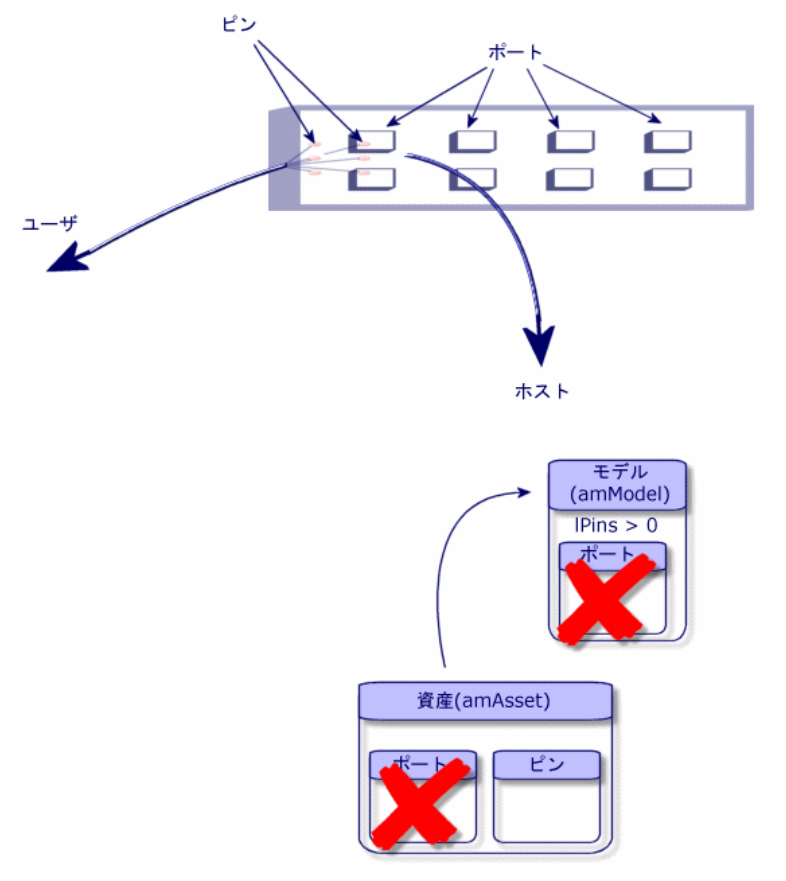
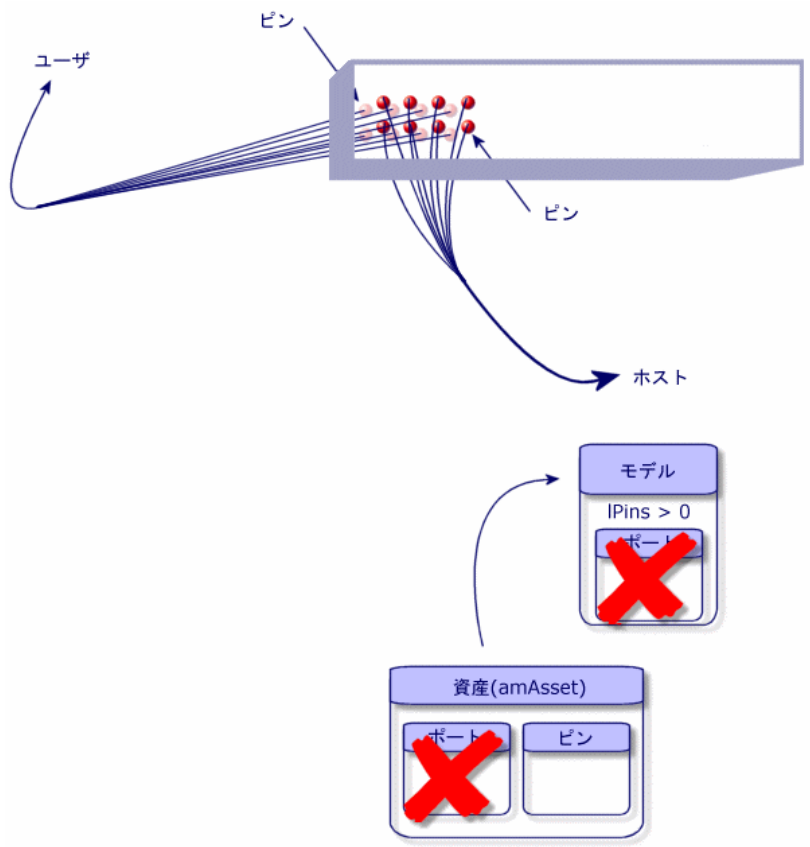


図 5.5. ピン/ピン型の両面デバイス - 図解



ケーブルデバイスを手動で作成する

適切なデバイスのモデルを作成した場合、以下の手順に従えば作業が完了します。

1 資産のリストを表示します（［**ケーブル／ケーブルデバイス**］）。
2 ［**新規作成**］をクリックします。
3 以下のフィールドとリンクに値を入力します。
   - ［**モデル**］（**Model**）
   - ［**最大接続数**］（**sMaxCnxCount**）
4 ［**作成**］をクリックします。

その他のフィールドやリンクの値は、モデルから自動的に継承されます。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- ケーブルデバイスのモデル（**amModel**）
- ケーブルデバイス、ポート、スロット、ピン/ターミナルのラベル付け規則（**amLabelRule**）
- デバイスのタイプ（**amItemizedList**）
- デバイスのポートの接続タイプ（**amCabCnxType**）
- デバイスのポートの用途（**amCableDuty**）
- デバイスのスロットタイプ（**amSlotType**）
- デバイスを含む成端場所（**amTermField**）
- デバイスの場所（**amLocation**）
- スロット内に挿入するモジュール（**amAsset**）

入力必須のフィールドとリンク

表 5.1. ケーブルデバイス - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［資産］（*SQL名：amAsset*）テーブル		
モデル	Model	モデルには、ケーブルデバイスの属性1つが指定されていなければなりません。
ポートフォリオ品目	Assignment	
ステータス	seCnxStatus	
最大接続数	sMaxCnxCount	このフィールドで指定した数を超えるポートを手動作成すると、警告が表示されます。
デバイスのピン/ターミナル	Pins	ケーブルデバイスがピン経由でネットワークに接続する場合。
ポート	Ports	ケーブルデバイスがポート経由でネットワークに接続する場合。
スロット	AssetSlots	デバイスが、スロット内で接続モジュールを受け取らなければならない場合。
ラベル付け規則	LabelRule	
ラベル	Label	
［ポート］（*SQL名：amPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	非仮想ポートを作成する場合。
番号	sSequenceNumber	非仮想ポートを作成する場合。
接続タイプ	CabCnxType	非仮想ポートを作成する場合。
用途	Duty	非仮想ポートを作成する場合。
ラベル付け規則	LabelRule	
ラベル	Label	
ステータス	seCnxStatus	

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
ポートのピン/ターミナル	DevPin	
［スロット］（*SQL名：amSlot*）テーブル		
名前	Name	スロットを作成する場合。
番号	sSequenceNumber	スロットを作成する場合。
スロットタイプ	SlotType	スロットを作成する場合。
関連デバイス	AssignedAsset	スロットを作成する場合で、スロットが使用されている場合。
［ピン］（*SQL名：amDevicePin*）テーブル		
名前	Name	ピンを作成する場合。
番号	sSequenceNumber	ピンを作成する場合。
ポート	Port	ピンを作成する場合。
ステータス	seCnxStatus	ピンを作成する場合。
ラベル付け規則	LabelRule	ピンを作成する場合。
ラベル	Label	ピンを作成する場合。

ポートまたはピン経由の接続

▶ ポートまたはピン経由の接続 [献 64]

両面のデバイス

デバイスの両面にポートやピンがある場合（例えばパッチパネルなど）、以下の方法の内1つを使って作業を行います。

- 両面がポートで構成されている場合、
  1. デバイスの1面にあるポートと同数のポートを作成します（この数は、各面で同数であると仮定されています）。
  2. この要領で作成されたポートは2つのリンクで使用されます。1つはホスト側のリンク（2つの面のうち片面のポートに対応します）で、もう1つはユーザ側のリンク（反対側の面のポートに対応します）です。
- 両面がピンで構成されている場合、
  1. リンクの作成用にウィザードを使用しない場合のみ、手動でポートを作成してください。
  2. リンクを作成するケーブルウィザードは、必要に応じて仮想ポートを作成します。この要領で作成された仮想ポートは2つのリンクで使用されます。1つはホスト側のリンク（2つの面のうち片面のポートに対応します）で、もう1つはユーザ側のリンク（反対側の面のポートに対応します）です。
- 片面がポートで構成され、もう片面がピンで構成されている場合、
  1. リンクの作成用にウィザードを使用しない場合のみ、手動でポートを作成してください。
  2. ポート側のリンクを作成する前に、ピン側のリンクを作成します。ピンへのリンクを作成するケーブルウィザードは、必要に応じて仮想ポートを作成します。各仮想ポートは1番目のリンク内に現れます。

3 ポート側のリンクを作成します。ポートへのリンクを作成するケーブルウィザードは、既存の仮想ポートを使用します。この要領で関連付けられた仮想ポートは、2番目のリンク内に現れます。

スロット

デバイスが、接続モジュールを受け取るためのスロットから構成されている場合、

1 ［**資産**］（SQL名：amAsset）テーブル内に、接続モジュールを作成します。
2 ［**スロット**］（SQL名：AssetSlots）リンクを作成し、スロットを接続モジュールへ関連付けます。

実用例用にケーブルデバイスを手動作成する

以下の操作を実行します。

1 2つのモジュールを作成します。
2 1番目のモジュールを、階の成端場所のスイッチのスロットの1つに挿入します。
3 2番目のモジュールを、主成端場所のスイッチのスロットの1つに挿入します。

このためには、

1 2つのモジュールを作成します。各モジュールごとに以下の操作を実行します。
   1 資産のリストを表示します（［**ケーブル／ケーブルデバイス**］）。
   2 ［**新規作成**］をクリックします。
   3 以下のフィールドとリンクに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値
モデル（**Model**）	Procurve 10/100 Base T - 8 ポート	Procurve 10/100 Base T - 8 ポート
最大接続数（**sMaxCnxCount**）	8	8
資産タグ（**AssetTag**）	EXEMPLE005	EXEMPLE006

   4 ［**作成**］をクリックします。
   5 一部のフィールドとリンクの値は、自動的にモデルから継承されます。作成されたモジュールの各タブで、継承された情報を確認します。
2 モジュールの内1つを、階の成端場所のスイッチのスロットの1つに挿入します。
   1 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
   2 成端場所「**階の成端場所**」を選択します。

3 ［**デバイス**］タブを選択します。
4 ［**モデル**］（SQL名：Model）フィールドが「**Hewlett Packerd ProCurve Switch 4000 M - 10スロット**」になっているデバイスを1つ選択します。
5 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
6 ［**デバイス**］（SQL名：Device）リンクの右側にある［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
7 ［**スロット**］タブを選択します。
8 スロットを1つ選択します。
9 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
10 ［**関連デバイス**］（SQL名：AssignedAsset）フィールドを選択します。
11 作成した「**Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8ポート**」デバイスの内1つを選択します。
12 ［**変更**］をクリックします。
13 ［**変更**］をクリックします。
14 ［**閉じる**］をクリックします。

3 もう1つのモジュールを、主成端場所のスイッチのスロットの1つに挿入します。
1 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
2 成端場所「**主成端場所**」を選択します。
3 ［**デバイス**］タブを選択します。
4 ［**モデル**］（SQL名：Model）フィールドが「**ProCurve Switch 4000 M - 10スロット**」になっているデバイスを1つ選択します。
5 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
6 ［**デバイス**］（SQL名：Device）リンクの右側にある［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
7 ［**スロット**］タブを選択します。
8 スロットを1つ選択します。
9 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
10 ［**関連デバイス**］（SQL名：AssignedAsset）フィールドを選択します。
11 作成した「**Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8ポート**」デバイスの内1つを選択します。
12 ［**変更**］をクリックします。
13 ［**変更**］をクリックします。
14 ［**閉じる**］をクリックします。

ケーブル - 手動作成

定義

▶ ケーブル [献 179]
▶ ペア/導線 [献 189]
▶ バンドル [献 186]

テーブル名

- ［ケーブル］（SQL名：amCable）
- ［ケーブルのペア/導線］（SQL名：amCablePair）
- ［ケーブルバンドル］（SQL名：amCableBundle）

アクセス用メニュー

［ケーブル／ケーブル］

ケーブルを手動で作成する

適切なケーブルのモデルを作成した場合、以下の手順に従えば作業が完了します。

1 ケーブルのリストを表示します（［ケーブル／ケーブル］）。
2 ［新規作成］をクリックします。
3 ［モデル］リンク（SQL名：Model）に値を入力します。
4 ［作成］をクリックします。

その他のフィールドやリンクの値は、モデルから自動的に継承されます。

ヒント:

手動でバンドルを作成する必要はありません。ウィザードが仮想バンドルを作成します。

▶ ケーブルデバイス - 手動作成 [献 114]

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- ケーブルのモデル（**amModel**）
- ケーブル、ペア/導線、バンドルのラベル付け規則（**amLabelRule**）
- ケーブルのタイプ（**amItemizedList**）
- ペア/導線のタイプ（**CabPairType**）

- ケーブルバンドルの用途（**amCableDuty**）
- ケーブルの、ホストの場所とユーザの場所（**amLocation**）

入力必須のフィールドとリンク

表 5.2. ケーブル - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［ケーブル］（*SQL名：amCable*）テーブル		
モデル	Model	モデルには、ケーブルの属性1つが指定されていなければなりません。
ラベル付け規則	LabelRule	
ラベル	Label	
ユーザの場所	UserLoc	
ホストの場所	HostLoc	
役割	CableRole	
ステータス	seCnxStatus	
ペア/導線	Pairs	
［ケーブル用モデルのペア/導線］（*SQL名：amModelPair*）テーブル		
名前	Name	
番号	sSequenceNumber	
ペア/導線のタイプ	CabPairType	
カラーコードエントリ	ColorCodeDet	ケーブルのモデルでカラーコードを選択した場合。

実用例用にケーブルを手動作成する

ケーブル「FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア」をバンドルと共に作成します。

1. ケーブルのリストを表示します（［**ケーブル／ケーブル**］）。
2. ［**新規作成**］をクリックします。
3. 以下のフィールドとリンクに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
モデル（**Model**）	FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア
コード（**Code**）	Exemple001

4. ［**作成**］をクリックします。
5. 一部のフィールドとリンクの値は、自動的にモデルから継承されます。作成されたケーブルの各タブで、継承された情報を確認します。
6. ［**バンドル**］タブを選択します。

7 ［**+**］をクリックします。
8 以下のフィールドとリンクに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
番号（**sSequenceNumber**）	1
名前（**Name**）	1
用途（**Duty**）	データ
ステータス（**seCnxStatus**）	使用可能

9 ［**追加**］をクリックします。
10 リストの中からバンドルを選択します。
11 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
12 ［**ペア/導線**］タブを選択します。
13 このケーブルの4つのペアをバンドルに追加します。
14 ［**変更**］をクリックします。

接続 - 手動作成

定義

- リンク [献 188]
- トレースの説明 [献 182]
- トレース [献 180]
- クロスコネクション [献 188]
- ホスト [献 188]
- ユーザ [献 194]

テーブル名

- ［**リンク**］（SQL名：amCableLink）
- ［**トレースの説明**］（**amTraceOutput**）
- ［**トレース履歴**］（SQL名：amTraceHistory）
- ［**トレースの処理**］（SQL名：amTraceOp）

アクセス用メニュー

［**ケーブル／リンク**］
［**管理／画面一覧**］

データモデルの概略図

リンク、デバイスのポートと、ケーブルバンドル間の関係

原則

接続は、ケーブルバンドルとケーブルデバイスのポートの間に作成されます。この接続は「リンク（amCableLink）」を使って表記されます。1つのケーブルリンクは、1つのポートまたは1つのバンドルに対応しますが、これら2つに同時には対応しません。ポートまたはバンドルが別のポートまたはバンドルに接続されていることを表記するには、2つのケーブルリンクを階層型のリンクで記述します。つまり、ポートとバンドル間の直接リンクは存在しないことになります。また、階層型リンク（どのケーブルリンクが親で、どのケーブルリンクが従属に当たるかを記述するデータベースのリンク）を複数使用することにより、「トレース」を作成できます。親ケーブルリンクは、「ホスト」側に位置します。つまり、最も重要な成端場所側に位置します。

トレースの例

ポート -> バンドル -> ポート

ネットワークとAsset Managerデータベースの対応

次の図は、デバイス（フェイスプレートなど）のポートと、ケーブル（水平ケーブルなど）のバンドル間の接続を表記する方法を、図解しています。

1. 「ユーザ」ポートに接続される「ホスト」バンドル
2. 「ホスト」バンドルに接続される「ユーザ」ポート
3. バンドルを対象とする「ホスト」ケーブルリンク。このケーブルリンクは、「ユーザ」ケーブルリンクの親に当たります。
4. ポートを対象とする「ユーザ」ケーブルリンク。このケーブルは、「ホスト」ケーブルの従属リンクに当たります。

図 5.6. ケーブルリンク - 関連するコンポーネント

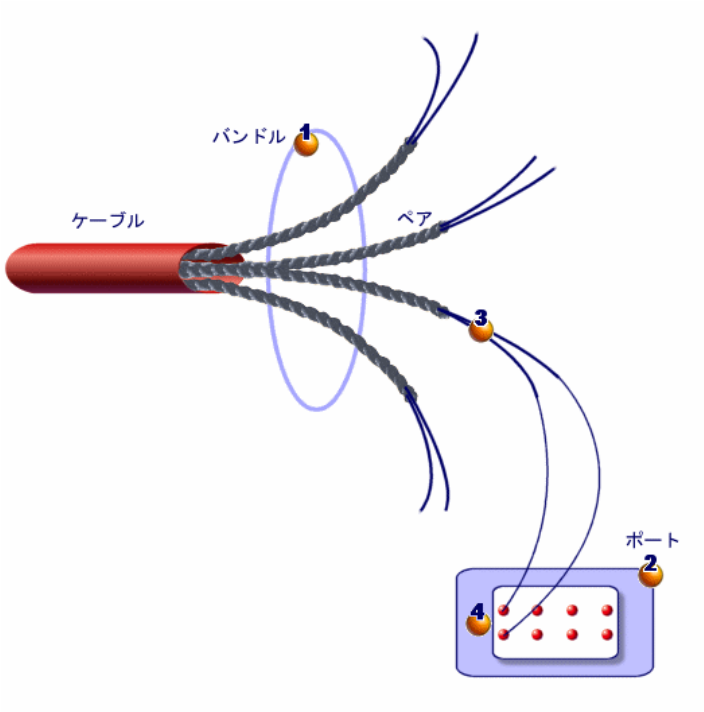


図 5.7. ケーブルリンク - データモデル

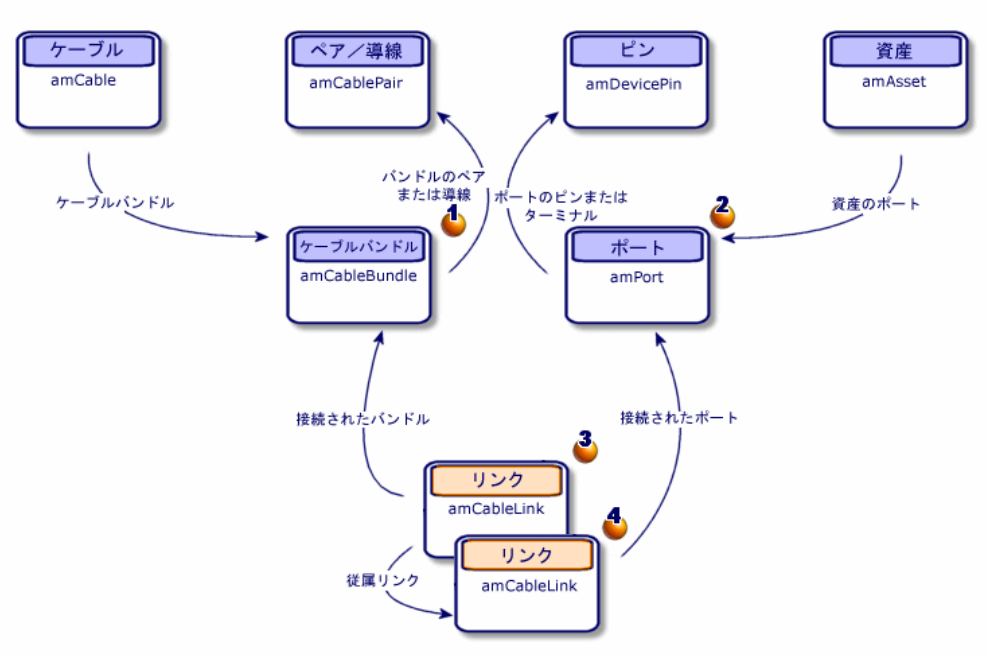


図 5.8. ケーブルリンク - 表記されるコンポーネントとデータベース間の対応

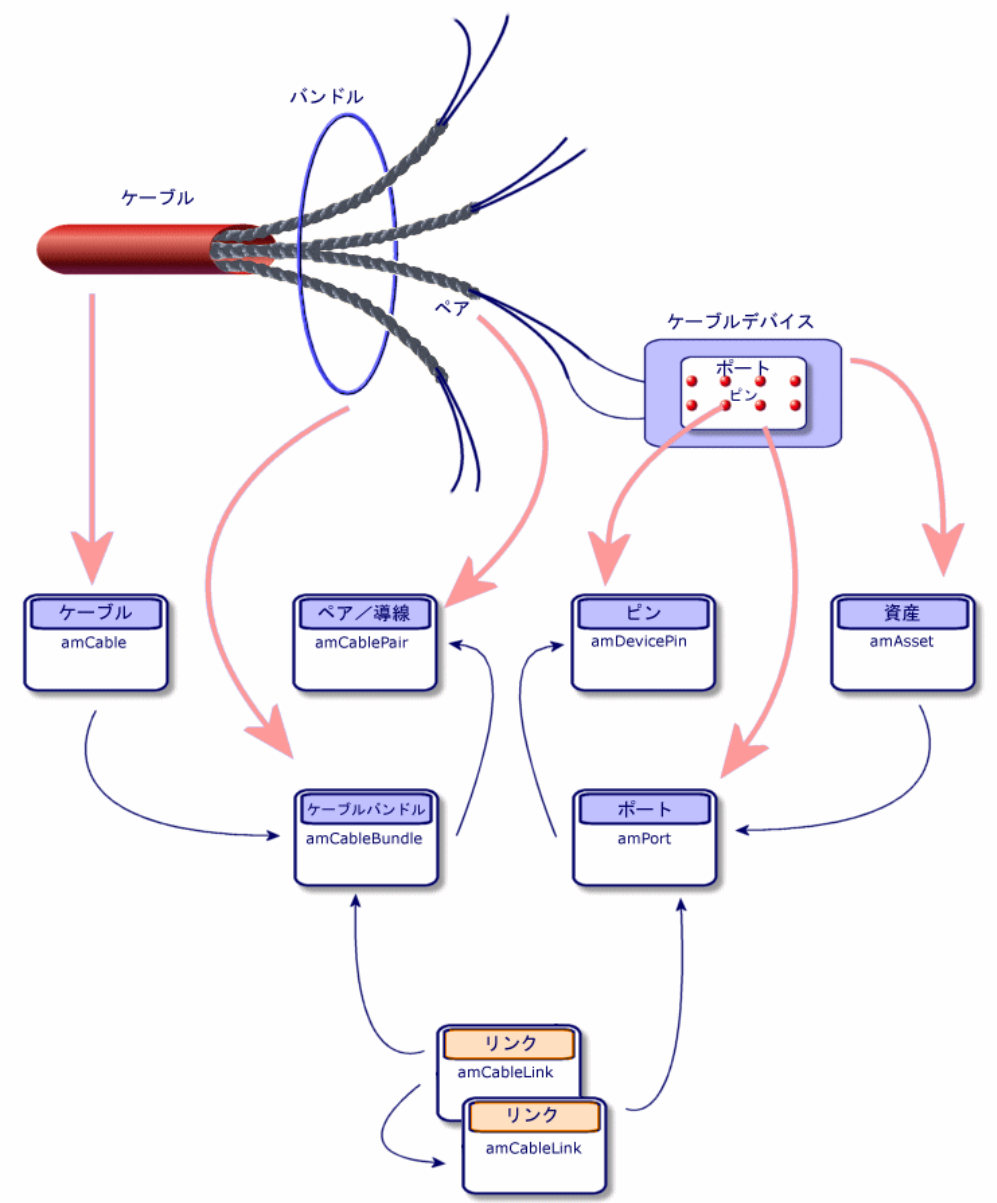
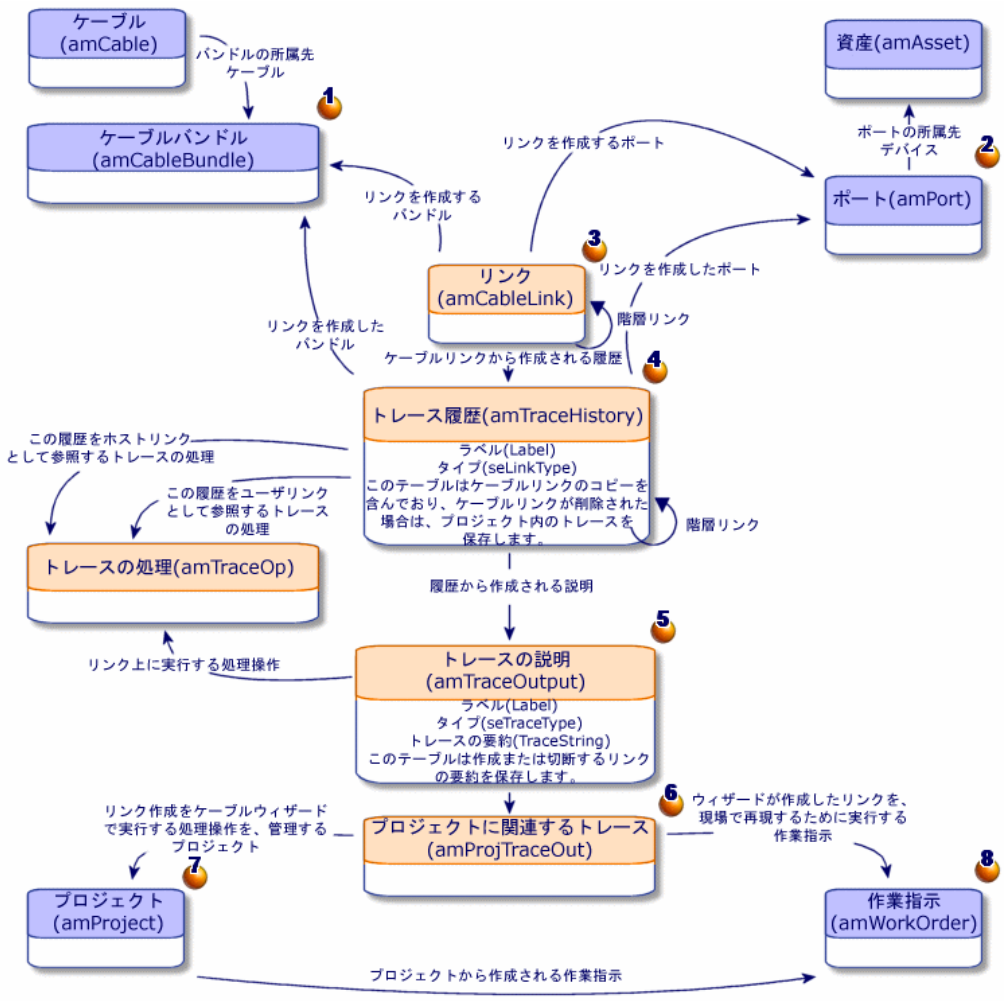


図 5.9. ケーブルリンク - 詳細データモデル



図に関する説明

この図は、接続の表記に使用される多数のテーブルが、どのように連結しているかを図解しています。

1. 接続されるバンドル
2. 接続されるポート

3 バンドルまたはポートを対象とするケーブルリンク

4 ケーブルリンクのコピー

5 接続の説明

6 プロジェクト/作業指示とトレースの間の中間テーブル

7 接続の詳細の検索を可能にするプロジェクト

8 物理接続の実装を管理するための作業指示

接続を手動で作成する

以下のテーブルは手動入力用には設計されていません。

- **amCableLink**
- **amTraceOutput**
- **amTraceHistory**
- **amTraceOp**

このため本節の情報は、上記のテーブルの機能を理解するためにのみ参考にしてください。

手動で接続を作成する前に、

1 表記するトレースを定義します。

   例：フェイスプレート（コンセント）->水平ケーブル->成端場所

   一般的にトレースは、ケーブルでつなげられた2つのケーブルデバイスから構成されています。

2 どの方向を使用するかを決めます。例：ホスト->ユーザ、またはユーザ->ホスト

3 最終点から開始します。

   例

   1 「ユーザ->ホスト」方向でリンクを作成する場合は、成端場所デバイスから開始します。

   2 「ホスト->ユーザ」方向でリンクを作成する場合は、フェイスプレートから開始します。

4 接続点ごとにリンクを作成します。

   一般的に、2つのデバイスリンク、1つのケーブルリンク。

   トレースの構成部分を関連付けるためには、［**親リンク**］（SQL名：Parent）リンクを使用します。

作成するトレースごとに以下の操作を行います。

1 リンクのリストを表示します（［**ケーブル／リンク**］）。

2 ［**新規作成**］をクリックします。

3 （ケーブル）リンクの詳細画面のフィールドとリンクに値を入力します。
4 画面の一覧を表示します（［**管理／画面一覧**］）。
5 ［**トレースの説明**］テーブル（**SQL名：amTraceOutput**）を選択します。
6 ［**新規作成**］をクリックします。
7 詳細画面のタブ以外のフィールドとリンクに値を入力します。
8 以下のタブで［**+**］ボタンをクリックします。
   1 ［**トレース履歴**］タブ：これは［**トレース履歴**］（SQL名：amTraceHistory）テーブルにレコードを作成します。ここには単純に、［リンク］（SQL名：amCableLink）の詳細画面の情報をコピーします。
   2 ［**処理**］タブ：［**トレースの処理**］（SQL名：amTraceOp）テーブルにレコードを作成します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 接続するケーブルデバイス（**SQL名：amAsset**）と、デバイスのポート（**SQL名：amPort**）
- 接続するケーブル（**SQL名：amCable**）と、ケーブルのバンドル（**SQL名：amCableBundle**）
- リンク用のラベル付け規則（**SQL名：amLabelRule**）
- リンクの用途（**SQL名：amCableDuty**）

入力必須のフィールドとリンク

表 5.3. 接続 - 入力必須のフィールドとリンク

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
［**リンク**］（*SQL名：amCableLink*）テーブル		
名前	Name	
リンクタイプ	seLinkType	
親リンク	Parent	
ラベル付け規則	LabelRule	
ラベル	Label	
用途	Duty	
ケーブル	Cable	ケーブル用のリンクの場合
バンドル	Bundle	ケーブル用のリンクの場合
デバイス	Device	ケーブルデバイス用のリンクの場合
ポート	Port	ケーブルデバイス用のリンクの場合
［**トレースの説明**］ テーブル（**SQL名：amTraceOutput**）		

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	注意事項
タイプ	seTraceType	
用途	Duty	
ラベル	ModifiedLinkLabel	
トレースの要約	TraceString	
トレース履歴	TraceHist	
トレースの処理	TraceOps	
［トレース履歴］（*SQL名：amTraceHistory*）テーブル		
名前	Name	
タイプ	seLinkType	
親リンク	Parent	
ラベル	Label	
ケーブル	Cable	
バンドル	Bundle	
デバイス	Device	
ポート	Port	
リンク	Link	
［トレースの処理］（*SQL名：amTraceOp*）テーブル		
タイトル	Label	
ホストトレースの履歴	HostTraceHist	
ユーザトレースの履歴	UserTraceHist	

実用例用に接続を手動作成する

以下のリンクから構成されるトレースを作成します。

副成端場所 -> ライザ 4ペア -> 主成端場所

この種のトレースの方向は「ユーザからホスト」です。このため、最終点であるホスト側のリンクから作成します。

リンクを作成する

1 リンクのリストを表示します（［**ケーブル／リンク**］）。
2 ケーブルリンクごとに新規レコードを作成し、以下のフィールドとリンクに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値	レコード3の値
名称（**Name**）	Exemple002	Exemple003	Exemple004
リンクタイプ（**seLinkType**）	デバイス	ケーブル	デバイス
親リンク（**Parent**）	入力しない	デバイス（Exemple002）	ケーブル（Exemple003）

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値	レコード3の値
ラベル（**Label**）	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク	実用例 - リンク - ペアの連続番号ごと	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク
ラベル付け規則（**LabelRule**）	何も入力せずに、デフォルト値を確定します。	何も入力せずに、デフォルト値を確定します。	何も入力せずに、デフォルト値を確定します。
用途（**Duty**）	データ	データ	データ
ケーブル(**Cable**)	フィールドは表示されない	Corel FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア（EXEMPLE001）	フィールドは表示されない
バンドル（**Bundle**）	フィールドは表示されない	1（EXEMPLE001）	フィールドは表示されない
デバイス（**Device**）	Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8 ポート（EXEMPLE006）	フィールドは表示されない	Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8 ポート（EXEMPLE005）
ポート（**Port**）	1（EXEMPLE006）	フィールドは表示されない	1（EXEMPLE005）

トレースの説明を作成する

1 画面の一覧を表示します（［**管理／画面一覧**］）。
2 ［**トレースの説明**］テーブル（**amTraceOutput**）を選択します。
3 レコードを作成し、以下のフィールドに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	値
タイプ（**seTraceType**）	接続
用途（**Duty**）	データ
ラベル（**ModifiedLinkLabel**）	場所「ケーブル配線された建物/2階/主ワイヤリングクローゼット」から場所「ケーブル配線された建物/1階/階のワイヤリングクローゼット」への「データ」のライザケーブル部分。
トレースの要約（**TraceString**）	Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8ポート（EXEMPLE005）- (1) <接続> Corel FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア（EXEMPLE001）- (1) <接続> Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8ポート（EXEMPLE006）- (2)

トレースの説明用にトレースの履歴を作成する

1 画面の一覧を表示します（［**管理／画面一覧**］）。
2 ［**トレース履歴**］（SQL名：amTraceHistory）テーブルを選択します。
3 ［**トレース履歴**］（SQL名：amTraceHistory）テーブルでレコードを作成し、以下のフィールドとリンクに値を入力します。

注意:

大部分の情報は、履歴に対応するケーブルリンクからコピーされます。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード2の値	レコード3の値
名称（**Name**）	Exemple002	Exemple003	Exemple004
タイプ（**seLinkType**）	デバイス	ケーブル	デバイス
親履歴（**Parent**）	入力しない	デバイス（Exemple002）	ケーブル（Exemple003）
ラベル（**Label**）	ケーブルリンクと同様	ケーブルリンクと同様	ケーブルリンクと同様
ケーブル(**Cable**)	フィールドは表示されない	Corel FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア（EXEMPLE001）	フィールドは表示されない
バンドル（Bundle）	フィールドは表示されない	1（EXEMPLE001）	フィールドは表示されない
デバイス（**Device**）	Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8 ポート（EXEMPLE006）	フィールドは表示されない	Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8 ポート（EXEMPLE005）
ポート（**Port**）	1（EXEMPLE006）	フィールドは表示されない	1（EXEMPLE005）
リンク（**Link**）	デバイス（Exemple002）	ケーブル（Exemple003）	デバイス（Exemple004）

トレースの説明用にトレースの処理を作成する

2つの操作を実行します。

- 主成端場所をケーブルに接続する。
- ケーブルを副成端場所へ接続する。

1. 画面の一覧を表示します（［**管理／画面一覧**］）。
2. ［**トレースの処理**］（**amTraceOp**）テーブルを選択します。
3. ［**トレースの処理**］（SQL名：amTraceOp）テーブルで、処理ごとにレコードを作成し、以下のフィールドとリンクに値を入力します。

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード3の値
ラベル（**Label**）	接続	接続
ホストトレースの履歴（**HostTraceHist**）	Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8 ポート（EXEMPLE006）	Corel FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア（EXEMPLE001）

入力するフィールドまたはリンク	レコード1の値	レコード3の値
ユーザトレースの履歴（**UserTraceHist**）	Corel FTP - カテゴリ5 - 4ツイストペア（EXEMPLE001）	Hewlett Packard Procurve 10/100 Base T - 8 ポート（EXEMPLE005）

6 接続 - ウィザードを使って作成する

Asset Managerには、接続の作成を自動化する多数のケーブルウィザードが付属しています。

本章ではこれらのウィザードの機能を説明します。

注意:

ウィザードの最終段階で、ユーザがプロジェクトと作業指示を選択する場合のみに、ウィザードは以下のテーブルに値を入力します。

- ［トレースの説明］（SQL名：amTraceOutput）
- ［トレース履歴］（SQL名：amTraceHistory）
- ［トレースの処理］（SQL名：amTraceOp）

［ライザの設置］ウィザード

ウィザードが果たす機能

このウィザードは、ライザケーブル経由で2つの成端場所を接続します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- ホスト成端場所
- ライザの接続先となるホスト成端場所のデバイス

警告:

デバイスへの接続がポート経由またはピン経由であるかに応じて、適切な条件に従う必要があります。

▸ ポートまたはピン経由の接続 [献 64]

- ユーザ成端場所
- ライザの接続先となるユーザ成端場所のデバイス

警告:

デバイスへの接続がポート経由またはピン経由であるかに応じて、適切な条件に従う必要があります。

▸ ポートまたはピン経由の接続 [献 64]

- ケーブルをホストデバイスまたはユーザデバイスへ接続するために使用する接続タイプ
- ケーブル、ホストリンク、ユーザリンクにラベルを付けるために使用するラベル付け規則
- 作成するライザケーブルのモデル
- 削除された接続の履歴を保存しておく場合は、プロジェクトと作業指示

［ライザの設置］ウィザードを使用する

ウィザードの使用

ウィザードを実行するために必要なコンテキストは特にありません。

1 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。
2 ［**ライザの設置**］ウィザードを選択します。

注意:

このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。

ウィザードの実行時に有用な情報

警告:

以下の表にある項目の一部は、適切なオプションを選択した場合にのみ、ウィザードにより表示されます。

表 6.1.［ライザの設置］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［ホスト成端場所を選択する］ページ	
場所	ライザに接続するホスト成端場所が位置する場所を選択します。
ホスト成端場所	ライザに接続するホスト成端場所を選択します。
開始位置を選択しますか?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは成端場所の位置を表示します。ウィザードは、成端場所の役割と成端場所デバイスも共に表示します。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは、以下のポートを有する1番目の成端場所デバイスを自動的に検出します。 ■ 使用可能なポート ■ 後のページで選択する接続タイプに関連付けられたポート
成端場所デバイス	ライザの接続元となる成端場所デバイスを選択します。
［ホスト成端場所のコネクタとラベル付け規則を選択する］ページ	
ケーブルの接続タイプ	ライザを成端場所へ接続する接続タイプを選択します。 選択される接続タイプは、リンクを作成する際のポートの選択条件の1つになります。 接続タイプが［ピン型］である場合に、ウィザードがリンク作成用の仮想ポートを作成すると、選択される接続タイプは、この仮想ポートに関連付けられます。
リンクのラベル付け規則を選択する	ホスト成端場所デバイスで作成されるリンクの、［ラベル］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。
このピン型コネクタタイプのポートを検索しますか（作成しない）?	このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは以下のポートのみを検索します。 ■ 既存するポート（ウィザードは仮想ポートを作成しません） ■ ウィザードで選択した接続タイプに関連付けられているポート
ピンデバイス用に、連続番号のピンを仮想ポートへマップしますか（デフォルトでは使用可能な最初のピンが選択されます）?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、仮想ポートを作成する際に連続番号付きのピンのみを使用します。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは、連続番号付きかどうかに関わらず、使用可能な最初のピンを選択します。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
残りのピン用のケーブルの接続タイプ	ウィザードのこの部分に関連するピンは、仮想ポートへピンを関連付けた後に残ったピンを指しています。これらのピンは、接続を作成するには数が不十分なものです。 しかし、これらのピンを別の目的に使用することも可能です。このフィールドでは、残りのピンをどのタイプの接続に使用するかを指定します。
残りのピンのコネクタ用の用途タイプ	残りのピンに割り当てる用途を選択します。
開始ポートを選択しますか?	ウィザードがポートとライザのバンドル間のリンクを作成する際に、どの番号のポートから使用できるかを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。 これは、ウィザードの前のページで選択した成端場所デバイスの、1ポートに当たります。
開始ポート	ウィザードがポートとライザのバンドル間のリンクを作成する際に、どの番号のポートから使用できるかを指定するポート。 これは、ウィザードの前のページで選択した成端場所デバイスの、1ポートに当たります。
開始ピンを選択しますか?	ウィザードが仮想ポートを作成する際に、どの番号のピンから使用できるかを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このポートは、リンクを作成するためにライザのバンドルに関連付けられます。
開始ピン	ウィザードが仮想ポートを作成する際に、どの番号のピンから使用できるかを指定するピン。 このポートは、リンクを作成するためにライザのバンドルに関連付けられます。
［ユーザ成端場所を選択する］ページ	
場所	ライザに接続するユーザ成端場所が位置する場所を選択します。 ホスト成端場所が通じている接続先の場所のみが表示されます。
ユーザ成端場所	ライザに接続するユーザ成端場所を選択します。
開始位置を選択しますか?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは成端場所の位置を表示します。ウィザードは、成端場所の役割と成端場所デバイスも共に表示します。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは、以下のポートを有する1番目の成端場所デバイスを自動的に検出します。 　■ 使用可能なポート 　■ 後のページで選択する接続タイプに関連付けられたポート

ウィザードに表示されるタイトル	説明
成端場所デバイス	ライザの接続先となる成端場所デバイスを選択します。
［ユーザ成端場所のコネクタとラベル付け規則を選択する］ページ	
ケーブルの接続タイプ	ライザを成端場所へ接続する接続タイプを選択します。 選択される接続タイプは、リンクを作成する際のポートの選択条件の1つになります。 接続タイプが［**ピン型**］である場合に、ウィザードがリンク作成用の仮想ポートを作成すると、選択される接続タイプは、この仮想ポートに関連付けられます。
リンクのラベル付け規則を選択する	ユーザ成端場所デバイスで作成されるリンクの、［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。
このピン型コネクタタイプのポートを検索しますか（作成しない）？	このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは以下のポートのみを検索します。 ■ 既存するポート（ウィザードは仮想ポートを作成しません） ■ ウィザードで選択した接続タイプに関連付けられているポート
ピンデバイス用に、連続番号のピンを仮想ポートへマップしますか（デフォルトでは使用可能な最初のピンが選択されます）？	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、仮想ポートを作成する際に連続番号付きのピンのみを使用します。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは、連続番号付きかどうかに関わらず、使用可能な最初のピンを選択します。
残りのピン用のケーブルの接続タイプ	ウィザードのこの部分に関連するピンは、仮想ポートへピンを関連付けた後に残ったピンを指しています。これらのピンは、接続を作成するには数が不十分なものです。 しかし、これらのピンを別の目的に使用することも可能です。このフィールドでは、残りのピンをどのタイプの接続に使用するかを指定します。
残りのピンのコネクタ用の用途タイプ	残りのピンに割り当てる用途を選択します。
開始ポートを選択しますか?	ウィザードがポートとライザのバンドル間のリンクを作成する際に、どの番号のポートから使用できるかを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。 これは、ウィザードの前のページで選択した成端場所デバイスの、1ポートに当たります。
開始ポート	ウィザードがポートとライザのバンドル間のリンクを作成する際に、どの番号のポートから使用できるかを指定するポート。 これは、ウィザードの前のページで選択した成端場所デバイスの、1ポートに当たります。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
開始ピンを選択しますか?	ウィザードが仮想ポートを作成する際に、どの番号のピンから使用できるかを指定する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このポートは、リンクを作成するためにライザのバンドルに関連付けられます。
開始ピン	ウィザードが仮想ポートを作成する際に、どの番号のピンから使用できるかを指定するピン。 このポートは、リンクを作成するためにライザのバンドルに関連付けられます。
［ライザを選択する］ページ	
ケーブルの役割	選択される役割は以下の場合に使用されます。 ■ ウィザードが作成するケーブルの［**役割**］（SQL名：CableRole）フィールドに値を入力する場合。 ■ 接続するデバイスを選択する場合。 ■ ウィザードが提案する既存のケーブルへフィルタを適用する場合。
既存のケーブルを選択しますか?	■ このチェックボックスをオンにすると、既存のケーブルから選択できるようになります。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ライザケーブルのモデルから選択できるようになります。ウィザードは選択されたライザを作成します。
接続するペアの数	ウィザードが、成端場所にいくつのケーブルペアを接続するかを指定します。
開始ペアを選択しますか?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードが使用可能なペアとライザのバンドル間のリンクを作成する際に、どの番号のペアから使用できるかを指定できるようになります。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは使用可能な最初のペアを選択します。
ケーブルのモデル用の開始ペア	開始ペアを選択します。
ケーブルで使用できる開始ペア	開始ペアを選択します。
［ライザのラベル付け規則を選択する］ページ	
ケーブルのラベル用にラベル付け規則を使用しますか?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、ケーブルの［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールドに値を入力する際に、ラベル付け規則を使用します。 ■ このチェックボックスをオフにする場合は、ウィザードで直接ラベルを入力します。
ケーブルのラベル付け規則を選択する	ケーブルの［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
新規ケーブルの用途	選択される用途は、 ■ 接続するポートの選択条件の1つになります。 ■ リンク作成用のウィザードが作成する仮想バンドルと仮想ポートに、関連付けられます。
バンドル内のペア数	ウィザードが作成する仮想バンドルごとに、関連付けるペアの数を指定します。 この数は、前ページで指定した接続するペアの総数の約数（ペアの総数を割り算で割ることのできる数）でなければなりません。 デフォルト値は以下の方法で計算されます。 1 ウィザードは、ウィザードで選択されたホストとユーザ接続タイプの中から、最少数のピンを含む接続タイプを選択します。 2 続いてウィザードは、引き算された接続タイプのピン数を、ウィザードで選択されたケーブルのペア/導線タイプの、ペア/導線の数で割り算します。
リンクのラベル付け規則を選択する	ケーブルで作成されるリンクの、［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。
［**プロジェクトと作業指示を選択する**］ページ	
ケーブルに関するコメント	［**プロジェクトに関連するケーブル**］（SQL名：amProjCable）テーブルの、［**説明**］（SQL名：Description）フィールド用の値
接続に関するコメント	［**プロジェクトに関連するトレース**］（SQL名：amProjTraceOut）テーブルの、［**説明**］（SQL名：Description）フィールド用の値
作業指示用の接続の成端場所	［**トレースの処理**］（SQL名：amTraceOp）テーブルの、［**ラベル**］（SQL名：Label）フィールド用の値

ウィザードが作成または変更するデータ

適切であれば、ウィザードは以下の要素を作成します。

- ケーブル（**amCable**）
- ケーブルのペア/導線（**amCablePair**）
- ケーブルバンドル（**amCableBundle**）
- ポート（**amPort**）
- リンク（**amCableLink**）
- トレース履歴（**amTraceHistory**）
- トレースの説明（**amTraceOutput**）
- トレースの処理（**amTraceOp**）

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 6.2. ［ライザの設置］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
［資産］（*SQL名：amAsset*）テーブル		
ポート	Ports	必要であれば、ウィザードは、ライザケーブルのバンドルに接続される仮想ポートを作成します。
［ポート］（*SQL名：amPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するポートの最後の番号に続く番号に当たります。
番号	sSequenceNumber	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するポートの最後の番号に続く番号に当たります。
接続タイプ	CabCnxType	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 ホスト成端場所またはユーザ成端場所用に、ウィザードで選択した接続タイプ
用途	Duty	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 ケーブル用にウィザードで定義される用途
ステータス	seCnxStatus	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
仮想ポート	bVirtual	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この場合、値は［**はい**］に設定されます。
ポートのピン/ターミナル	DevPin	リンクを作成するためにウィザードが選択したピン
［ケーブル］（*SQL名：amCable*）テーブル		
モデル	Model	ウィザードで選択したケーブルのモデル
ラベル付け規則	LabelRule	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 ケーブルのウィザードで選択したラベル付け規則
ラベル	Label	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 ラベル付け規則に基づいて算出されるラベル

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
ユーザの場所	UserLoc	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 ウィザードで選択したユーザ成端場所の設置場所
ホストの場所	HostLoc	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 ウィザードで選択したホスト成端場所の設置場所
役割	CableRole	ウィザードで選択した役割
ステータス	seCnxStatus	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
ペア/導線	Pairs	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ入力されます。 モデルのペア/導線
バンドル	Bundles	必要に応じてウィザードが作成する仮想バンドル
［**ペア/導線**］（*SQL名：amCablePair*）**テーブル**		
バンドル	Bundle	リンクを作成するためにペア/導線に関連付けられているバンドル
［**ピン**］（*SQL名：amDevicePin*）**テーブル**		
ポート	Port	リンクを作成するためにピン/ターミナルに関連付けられているポート
［**ケーブルバンドル**］（*SQL名：amCableBundle*）**テーブル**		
番号	sSequenceNumber	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するバンドルの最後の番号に続く番号に当たります。
名前	Name	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するバンドルの最後の番号に続く番号に当たります。
用途	Duty	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 ケーブル用にウィザードで定義される用途
ステータス	seCnxStatus	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
仮想バンドル	bVirtual	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 この場合、値は［**はい**］に設定されます。
ペア/導線	Pair	リンクを作成するためにウィザードが選択したペア/導線
［**リンク**］（*SQL名：amCableLink*）**テーブル**		
名前	Name	フィールドのデフォルト値

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
リンクタイプ	seLinkType	リンクがケーブルとケーブルデバイスのどちらを対象とするかに応じて、ウィザードが入力します。
親リンク	Parent	
ラベル付け規則	LabelRule	ウィザードで選択したラベル付け規則
ラベル	Label	ラベル付け規則に基づいて算出されるラベル
用途	Duty	ウィザードで選択した用途
デバイス	Device	ウィザードにより自動的に選択されたデバイス、またはウィザードでユーザが選択したデバイス
ポート	Port	ウィザードが作成または選択したポート
ケーブル	Cable	ウィザードにより作成されたケーブル、またはウィザードでユーザが選択したケーブル
バンドル	Bundle	ウィザードが作成または選択したバンドル
［トレース履歴］（*SQL名：amTraceHistory*）テーブル		
名前	Name	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
タイプ	seLinkType	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
親リンク	Parent	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ラベル	Label	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
デバイス	Device	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ポート	Port	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ケーブル	Cable	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
バンドル	Bundle	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
リンク	Link	ウィザードが作成するリンク
［トレースの説明］（*SQL名：amTraceOutput*）テーブル		
タイプ	seTraceType	ウィザードは値を［接続］に指定します。
用途	Duty	ウィザードで選択した用途
ラベル	ModifiedLinkLabel	ラベル付け規則を参照せずに、ウィザードが算出するラベル
トレースの要約	TraceString	ウィザードが算出します。
トレース履歴	TraceHist	ウィザードが作成する履歴
トレースの処理	TraceOps	ウィザードが作成する処理操作
［トレースの処理］（*SQL名：amTraceOp*）テーブル		
タイトル	Label	ウィザードで入力したコメントに応じてウィザードが定義する値
ホストトレースの履歴	HostTraceHist	ウィザードが定義します。
ユーザトレースの履歴	UserTraceHist	ウィザードが定義します。

結果を表示する

ウィザードの結果を表示する最も簡単な方法は、ウィザードの最終ページで選択したプロジェクトの詳細画面を表示する方法です。

1 プロジェクトのリストを表示します（［**ポートフォリオ／プロジェクト**］）。
2 ウィザードが作成したプロジェクトを選択します。
3 ［**ケーブル**］タブを選択します。

   ［**ケーブル**］タブでは、2つの成端場所を接続するケーブルを検索することができます。

   1 確認を要するケーブルを選択します。
   2 拡大鏡アイコンをクリックして、中間ウィンドウを表示します。
   3 中間ウィンドウで、［**ケーブル**］フィールドの右側にある拡大鏡アイコンをクリックし、ケーブルの詳細を表示します。
   4 ［**ケーブル**］（SQL名：amCable）テーブルの1フィールド（リンクは不可）内で右クリックし、ポップアップメニューを表示します。
   5 ［**アクション／ケーブルのクロスコネクション**］または［**アクション／ケーブルのトレースを表示**］を選択し、トレースを表示します。

      この操作により、ウィザードがケーブルに接続した成端場所デバイスへ、アクセスできるようになります。

4 ［**トレース**］タブを選択します。

   ［**トレース**］タブは、ウィザードで作成したトレースの説明の一覧を表示します。

ウィザードの実行後

プロジェクトと作業指示内にある情報に従って、ネットワークで実際にライザを設置し、プロジェクトと作業指示のトラッキング情報を更新します。

問題が起こった場合の解決方法

［**ホスト成端場所を選択する**］または［**ユーザ成端場所を選択する**］ページで、成端場所が表示されない場合

1 ［**キャンセル**］をクリックし、ウィザードの実行を中断します。
2 成端場所のリストを表示します（［**ケーブル／成端場所**］）。
3 ホスト成端場所（ウィザードのリスト内に表示されなかった成端場所）を選択します。
4 ［**接続先場所**］タブを選択します。
5 リストに、ユーザ成端場所の場所を追加します。
6 ［**変更**］をクリックします。
7 ［**閉じる**］をクリックします。
8 ［**ライザの設置**］ウィザードをもう一度実行します。

実用例用に［ライザの設置］ウィザードを使用する

電話のライザケーブルを、階の成端場所と主成端場所の間に設置します。

1 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。

2 ［**ライザの設置**］ウィザードを選択します。

> **注意:**
>
> **このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。**

3 以下の情報を入力します。

ウィザードに表示されるタイトル	入力または選択する値
［**ホスト成端場所を選択する**］ページ	
場所	/ケーブル配線された建物/2階/主ワイヤリングクローゼット/
ホスト成端場所	主ワイヤリングクローゼット
開始位置を選択しますか?	チェックボックスをオフにします。
［**ホスト成端場所のコネクタとラベル付け規則を選択する**］ページ	
ケーブルの接続タイプ	RJ45 - 568B - ピン
リンクのラベル付け規則を選択する	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク
このピン型コネクタタイプのポートを検索しますか（作成しない）?	チェックボックスをオフにします。
ピンデバイス用に、連続番号のピンを仮想ポートへマップしますか（デフォルトでは使用可能な最初のピンが選択されます）?	このオプションをオンにします。
残りのピン用のケーブルの接続タイプ	ウィザードに表示される情報をそのままにしておきます。これらの情報は使用されません。
残りのピンのコネクタ用の用途タイプ	ウィザードに表示される情報をそのままにしておきます。これらの情報は使用されません。
［**ユーザ成端場所を選択する**］ページ	
場所	ケーブル配線された建物/1階/階のワイヤリングクローゼット
ユーザ成端場所	階のワイヤリングクローゼット
開始位置を選択しますか?	チェックボックスをオフにします。
［**ユーザ成端場所のコネクタとラベル付け規則を選択する**］ページ	
ケーブルの接続タイプ	RJ45 - 568B - ピン
リンクのラベル付け規則を選択する	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク
このピン型コネクタタイプのポートを検索しますか（作成しない）?	チェックボックスをオフにします。
ピンデバイス用に、連続番号のピンを仮想ポートへマップしますか（デフォルトでは使用可能な最初のピンが選択されます）?	このオプションをオンにします。

ウィザードに表示されるタイトル	入力または選択する値
残りのピン用のケーブルの接続タイプ	ウィザードに表示される情報をそのままにしておきます。これらの情報は使用されません。
残りのピンのコネクタ用の用途タイプ	ウィザードに表示される情報をそのままにしておきます。これらの情報は使用されません。
［ライザを選択する］ページ	
ケーブルの役割	ライザ
既存のケーブルを選択しますか?	チェックボックスをオフにします。
作成するケーブル用のモデル	L 120 - カテゴリ5 - 32ツイストペア
接続するペアの数	32
開始ペアを選択しますか?	チェックボックスをオフにします。
［ライザのラベル付け規則を選択する］ページ	
ケーブルのラベル用にラベル付け規則を使用しますか?	このオプションをオンにします。
ケーブルのラベル付け規則を選択する	実用例 - ケーブル
新規ケーブルの用途	音声
バンドル内のペア数	1
リンクのラベル付け規則を選択する	実用例 - リンク - ペアの連続番号ごと
［プロジェクトと作業指示を選択する］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	このオプションをオンにします。
プロジェクト	ライザを設置する
作業指示	表示される作業指示から選択します。
デバイスに関するコメント	新規ケーブルを設置する
接続に関するコメント	デバイスへのライザケーブル接続
作業指示用の接続の成端場所	接続する

結果を確認します。

1 プロジェクトのリストを表示します（［**ポートフォリオ／プロジェクト**］）。
2 **「ライザを設置する」**プロジェクトを選択します。
3 ［**ケーブル**］タブを選択します。
4 上記で作成したケーブルを選択します。
5 拡大鏡アイコンをクリックして、中間ウィンドウを表示します。
6 中間ウィンドウで、［**ケーブル**］フィールドの右側にある拡大鏡アイコンをクリックし、ケーブルの詳細を表示します。
7 全タブの情報を確認します。
8 ［**ケーブル**］（SQL名：amCable）テーブルのフィールドを1つ（リンクは不可）選択します。
9 マウスを右クリックします。
10 ［**アクション／ケーブルのクロスコネクション**］または［**アクション／ケーブルのトレースを表示**］ポップアップメニューを選択し、トレースを表示します。

   この操作により、ウィザードがケーブルに接続した成端場所デバイスへ、アクセスできるようになります。

［水平ケーブルの設置］ウィザード

ウィザードが果たす機能

このウィザードを使うと、水平ケーブル経由でフェイスプレート（コンセント部）を成端場所へ接続できます。ウィザードは、トポロジグループをテンプレートモデルとして使用します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- フェイスプレートの場所
- テンプレートとして使用するトポロジグループ
- トポロジグループを構成するトポロジ
- フェイスプレートの場所に通じる成端場所
- 水平ケーブルの接続先となる成端場所デバイス

警告:

デバイスへの接続が、ポート経由またはピン経由であるかに応じて変化する条件に、従う必要があります。

▸ ポートまたはピン経由の接続 [献 64]

- 削除された接続の履歴を保存しておく場合は、プロジェクトと作業指示

［水平ケーブルの設置］ウィザードを使用する

ウィザードの使用

ウィザードを実行するために必要なコンテキストは特にありません。

1 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。
2 ［**水平ケーブルの設置**］ウィザードを選択します。

注意:

このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。

ヒント:

場所のリストを表示し（［ポートフォリオ／場所］）、ウィザードを実行する前にフェイスプレートの複数の場所を同時選択すると、ウィザードでフェイスプレートを選択する必要はなくなります。

ウィザードの実行時に有用な情報

注意:

以下の表にある項目の一部は、適切なオプションを選択した場合にのみ、ウィザードにより表示されます。

表 6.3. ［水平ケーブルの設置］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［ユーザの場所を選択する］ページ	
場所	接続するフェイスプレートごとに場所を選択します。
［トポロジグループを選択する］ページ	
トポロジグループ	フェイスプレートから成端場所への接続のテンプレートとなるトポロジグループを選択します。
トポロジ内でピン型コネクタ付きのポートを検索しますか（作成しない）?	トポロジのホスト側またはユーザ側で既に作成された仮想ポートをウィザードで検索する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、他の2つのオプションを使用できるようになります。
トポロジのホスト側でポートを検索しますか?	このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、水平ケーブルとの接続を作成するために、成端場所に既存する仮想ポートを検索します。 この後のリストで選択されるトポロジで検索されます。
トポロジのユーザ側でポートを検索しますか?	このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、水平ケーブルとの接続を作成するために、フェイスプレートに既存する仮想ポートを検索します。 この後のリストで選択されるトポロジで検索されます。
グループ内のトポロジ	上記でオンにしたオプションの適用先となるトポロジを選択します。
ピンデバイス用に、連続番号のピンを仮想ポートへマップしますか（デフォルトでは使用可能な最初のピンが選択されます）?	■ このチェックボックスをオンにすると、ウィザードは、仮想ポートを作成する際に連続番号付きのピンのみを使用します。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは、連続番号付きかどうかに関わらず、使用可能な最初のピンを選択します。
［プロジェクトと作業指示を選択する］ページ	
デバイスに関するコメント	［プロジェクトに含まれる資産］（SQL名：amAstProjDesc）テーブルの、［説明］（SQL名：Description）フィールド用の値
ケーブルに関するコメント	［プロジェクトに関連するケーブル］（SQL名：amProjCable）テーブルの、［説明］（SQL名：Description）フィールド用の値

ウィザードに表示されるタイトル	説明
接続に関するコメント	［プロジェクトに関連するトレース］（SQL名：amProjTraceOut）テーブルの、［説明］（SQL名：Description）フィールド用の値
作業指示用の接続の成端場所	［トレースの処理］（SQL名：amTraceOp）テーブルの、［ラベル］（SQL名：Label）フィールド用の値

ウィザードが作成または変更するデータ

適切であれば、ウィザードは以下の要素を作成します。

- ケーブル（**amCable**）
- ケーブルのペア/導線（**amCablePair**）
- ケーブルバンドル（**amCableBundle**）
- ケーブルデバイス（**amAsset**）
- ピン（**amDevicePin**）
- ポート（**amPort**）
- リンク（**amCableLink**）
- トレース履歴（**amTraceHistory**）
- トレースの説明（**amTraceOutput**）
- トレースの処理（**amTraceOp**）

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 6.4. ［水平ケーブルの設置］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
［資産］（*SQL名：amAsset*）テーブル		
ポート	Ports	必要であれば、ウィザードは、水平ケーブルのバンドルに接続される仮想ポートを作成します。
場所	Location	ウィザードがフェイスプレートを作成する場合、ウィザードは、選択した場所にフェイスプレートを関連付けます。
［ポート］（*SQL名：amPort*）テーブル		
ポート番号	PortNo	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するポートの最後の番号に続く番号に当たります。
番号	sSequenceNumber	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するポートの最後の番号に続く番号に当たります。

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
接続タイプ	CabCnxType	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この値は、トポロジステップで、ポートの所属先デバイス用に定義される接続タイプに対応します。
用途	Duty	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この値は、ポートの所属先デバイス用に、トポロジで定義される用途に対応します。
ステータス	seCnxStatus	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
仮想ポート	bVirtual	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想ポートでのみ入力されます。 この場合、値は［**はい**］に設定されます。
ポートのピン/ターミナル	DevPin	ピン型の接続の場合、リンクを作成するためにウィザードが選択したピン
［**ケーブル**］（*SQL名：amCable*）**テーブル**		
モデル	Model	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 トポロジステップで定義されるケーブルのモデル
ラベル付け規則	LabelRule	フィールドのデフォルト値
ラベル	Label	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 ラベル付け規則に基づいて算出されるラベル
ユーザの場所	UserLoc	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 フェイスプレートの場所
ホストの場所	HostLoc	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 接続を作成するためにウィザードが検出した成端場所の設置場所
役割	CableRole	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 トポロジステップで定義される役割
ステータス	seCnxStatus	このフィールドは、ウィザードが作成するケーブルでのみ変更されます。 ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
ペア/導線	Pairs	このリンクは、ウィザードが作成するケーブルでのみ入力されます。 モデルのペア/導線
バンドル	Bundles	必要に応じてウィザードが作成する仮想バンドル

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
［ケーブルのペア/導線］（*SQL名：amCablePair*）テーブル		
バンドル	Bundle	リンクを作成するためにペア/導線に関連付けられているバンドル
［ピン］（*SQL名：amDevicePin*）テーブル		
ポート	Port	リンクを作成するためにピン/ターミナルに関連付けられているポート
［ケーブルバンドル］（*SQL名：amCableBundle*）テーブル		
番号	sSequenceNumber	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するバンドルの最後の番号に続く番号に当たります。
名前	Name	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 この値は、デバイスに既存するバンドルの最後の番号に続く番号に当たります。
用途	Duty	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 トポロジで定義される用途
ステータス	seCnxStatus	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 ウィザードは［**使用可能**］に指定します。
仮想バンドル	bVirtual	このフィールドは、ウィザードが作成する仮想バンドルでのみ入力されます。 この場合、値は［**はい**］に設定されます。
ペア/導線	Pair	リンクを作成するためにウィザードが選択したペア/導線
［リンク］（*SQL名：amCableLink*）テーブル		
名前	Name	フィールドのデフォルト値
リンクタイプ	seLinkType	リンクがケーブルとケーブルデバイスのどちらを対象とするかに応じて、ウィザードが入力します。
親リンク	Parent	
ラベル付け規則	LabelRule	トポロジステップで選択されるラベル付け規則
ラベル	Label	ラベル付け規則に基づいて算出されるラベル
用途	Duty	トポロジで定義される用途
デバイス	Device	ウィザードが作成または選択したデバイス
ポート	Port	ウィザードが作成または選択したポート
ケーブル	Cable	ウィザードが作成または選択したケーブル
バンドル	Bundle	ウィザードが作成または選択したバンドル
［トレース履歴］（*SQL名：amTraceHistory*）テーブル		
名前	Name	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
タイプ	seLinkType	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
親リンク	Parent	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
ラベル	Label	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
デバイス	Device	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ポート	Port	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ケーブル	Cable	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
バンドル	Bundle	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
リンク	Link	ウィザードが作成するリンク
［トレースの説明］（*SQL名：amTraceOutput*）テーブル		
タイプ	seTraceType	ウィザードで定義される値
用途	Duty	トポロジで定義される用途
ラベル	ModifiedLinkLabel	ラベル付け規則を参照せずに、ウィザードが算出するラベル
トレースの要約	TraceString	ウィザードが算出します。
トレース履歴	TraceHist	ウィザードが作成する履歴
トレースの処理	TraceOps	ウィザードが作成する処理
［トレースの処理］（*SQL名：amTraceOp*）テーブル		
ラベル	Label	ウィザードで入力したコメントに応じてウィザードが定義する値
ホストトレースの履歴	HostTraceHist	ウィザードが定義します。
ユーザトレースの履歴	UserTraceHist	ウィザードが定義します。

結果を表示する

ウィザードの結果を表示する最も簡単な方法は、ウィザードの最終ページで選択したプロジェクトの詳細画面を表示する方法です。

1 プロジェクトのリストを表示します（［**ポートフォリオ／プロジェクト**］）。
2 ウィザードが作成したプロジェクトを選択します。
3 ［**ケーブル**］タブを選択します。

   ［**ケーブル**］タブでは、2つの成端場所を接続するケーブルを検索することができます。

   1 確認を要するケーブルを選択します。
   2 拡大鏡アイコンをクリックして、中間ウィンドウを表示します。
   3 中間ウィンドウで、［**ケーブル**］フィールドの右側にある拡大鏡アイコンをクリックし、ケーブルの詳細を表示します。
   4 ［**ケーブル**］（SQL名：amCable）テーブルの1フィールド（リンクは不可）内で右クリックし、ポップアップメニューを表示します。
   5 ［**アクション／ケーブルのクロスコネクション**］または［**アクション／ケーブルのトレースを表示**］を選択し、トレースを表示します。

この操作により、ウィザードがケーブルに接続した成端場所デバイスへ、アクセスできるようになります。

4 ［**資産**］タブを選択します。

［**資産**］タブでは、ウィザードが作成したデバイス（既存のデバイス以外）を確認できます。

1 確認を要するデバイスを選択します。
2 拡大鏡アイコンをクリックして、中間ウィンドウを表示します。
3 中間ウィンドウで、［**資産**］フィールドの右側にある拡大鏡アイコンをクリックし、デバイスの詳細を表示します。
4 ［**資産**］（SQL名：amAsset）テーブルの1フィールド（リンクは不可）内で右クリックし、ポップアップメニューを表示します。
5 ［**アクション／ケーブルのクロスコネクション**］または［**アクション／ケーブルのトレースを表示**］を選択し、トレースを表示します。

この操作により、ウィザードがケーブルに接続した成端場所デバイスへ、アクセスできるようになります。

5 ［**トレース**］タブを選択します。

［**トレース**］タブは、ウィザードで作成したトレースの説明の一覧を表示します。

ウィザードの実行後

プロジェクトと作業指示内にある情報に従って、水平ケーブルと、必要に応じてケーブルデバイスを実際に設置します。プロジェクトと作業指示のトラッキング情報を更新します。

実用例用に［水平ケーブルの設置］ウィザードを使用する

水平ケーブルを、事務所1のフェイスプレートと階の成端場所の間に設置します。

1 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。
2 ［**水平ケーブルの設置**］ウィザードを選択します。

> **注意:**
>
> **このウィザードがリスト内に表示されないときは、リストの最後にあるその他...を選択してください。**

3 以下の情報を入力します。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［**ユーザの場所を選択する**］ページ	
場所	/ケーブル配線された建物/1階/事務所1/

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［トポロジグループを選択する］ページ	
トポロジグループ	標準ワークステーション
トポロジ内でピン型コネクタ付きのポートを検索しますか（作成しない）？	チェックボックスをオフにします。
ピンデバイス用に、連続番号のピンを仮想ポートへマップしますか（デフォルトでは使用可能な最初のピンが選択されます）？	チェックボックスをオフにします。
［プロジェクトと作業指示を選択する］ページ	
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	このオプションをオンにします。
プロジェクト	水平ケーブルを設置する
作業指示	表示される作業指示から選択します。
デバイスに関するコメント	デバイスをインストールする
ケーブルに関するコメント	新規ケーブルをインストールする
接続に関するコメント	デバイスへの水平ケーブル接続
作業指示用の接続の成端場所	接続する

結果を確認します。

1 プロジェクトのリストを表示します（**［ポートフォリオ／プロジェクト］**）。
2 **「水平ケーブルを設置する」**プロジェクトを選択します。
3 **［ケーブル］**タブを選択します。
4 上記で作成したケーブルを1つ選択します。
5 拡大鏡アイコンをクリックして、中間ウィンドウを表示します。
6 中間ウィンドウで、**［ケーブル］**フィールドの右側にある拡大鏡アイコンをクリックし、ケーブルの詳細を表示します。
7 全タブの情報を確認します。
8 **［ケーブル］**（SQL名：amCable）テーブルのフィールドを1つ（リンクは不可）選択します。
9 マウスを右クリックします。
10 **［アクション／ケーブルのクロスコネクション］**または**［アクション／ケーブルのトレースを表示］**ポップアップメニューを選択し、トレースを表示します。

   この操作により、ウィザードがケーブルに接続した成端場所デバイスへ、アクセスできるようになります。

［バンドルのクロスコネクト］ウィザード

ウィザードが果たす機能

このウィザードは、同一ケーブルの複数のバンドルを、以下のコンポーネント集合のいずれかへ接続します。

- 1つまたは複数ケーブルの複数のバンドル
- 1つまたは複数ケーブルデバイスの複数のポート
- 成端場所デバイスの複数のポート

選択されるバンドルやポートが既に接続されている場合、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。

必要条件

まず以下の項目を作成しておく必要があります。

- 接続するソースケーブルと、そのバンドル、ユーザの場所、ホストの場所。
- ケーブルの接続先ケーブルデバイス、およびケーブルデバイスのポート、場所。またはケーブルの接続先ケーブル、および接続先ケーブルのバンドル、ユーザの場所、ホストの場所。
- 接続するケーブルのユーザの場所またはホストの場所に通じる成端場所。
- 削除された接続の履歴を保存しておく場合は、プロジェクトと作業指示。

警告:

ウィザードは仮想ポートを作成しません。

［バンドルのクロスコネクト］ウィザードを使用する

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、［**ケーブルバンドル**］（SQL名：amCableBundle）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

ウィザードにアクセスするために、適切なコンテキストを選択するには、

1. ケーブルのリストを表示します（［**ケーブル／ケーブル**］）。
2. 接続するケーブルを選択します。
3. ［**バンドル**］タブを選択します。
4. クロスコネクトするバンドルを選択します。
5. アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。
6. 「**バンドルのクロスコネクト**」アクションを選択します。

ウィザードの実行時に有用な情報

注意:

以下の表にある項目の一部は、適切なオプションを選択した場合にのみ、ウィザードにより表示されます。

表 6.5. ［バンドルのクロスコネクト］ウィザード - 入力するフィールドの説明

ウィザードに表示されるタイトル	説明
［バンドルのクロスコネクト］ページ	
使用可能なホストバンドルを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクによってホスト側が使用されていないケーブルのバンドルのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは全ケーブルバンドルを表示します。 リンクによってホスト側が使用されているバンドルを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。
使用可能なユーザバンドルを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクによってユーザ側が使用されていないケーブルのバンドルのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは全ケーブルバンドルを表示します。 リンクによってユーザ側が使用されているバンドルを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。
接続するバンドルを選択する	接続するケーブルバンドルを選択します。
選択したバンドル用のリンクのラベル付け規則を選択する	ケーブルバンドルで作成されるリンクの、［ラベル］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。
接続サイドを選択する	ケーブルのどちら側を接続するかを指定します。
接続先	選択したバンドルをどのコンポーネントに接続するかを指定します。 ■ ポート：1つまたは複数ケーブルデバイスのポート ■ バンドル：1つまたは複数ケーブルのバンドル ■ 成端場所：ケーブルの場所に通じる成端場所デバイスのポート
［デバイスとポートを選択する］ページ	
デバイスを選択する	ソースケーブルバンドルの接続先となるケーブルデバイスを選択します。
使用可能なホストポートを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクが「ホスト」として使用していないデバイスのポートのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードはデバイスの全ポートを表示します。 「ホスト」として使用されているポートを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
使用可能なユーザポートを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクが「ユーザ」として使用していないデバイスのポートのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードはデバイスの全ポートを表示します。 「ユーザ」として使用されているポートを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。
ターゲットポートを選択する	前ページでケーブル用に選択したバンドルと、同数のポートを選択します。
選択したポート用のリンクのラベル付け規則を選択する	デバイスのポートで作成されるリンクの、［ラベル］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。
［ケーブルとバンドルを選択する］ページ	
ケーブル	ソースケーブルバンドルの接続先ケーブルを選択します。
使用可能なホストバンドルを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクによってホスト側が使用されていないケーブルのバンドルのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは全ケーブルバンドルを表示します。 リンクによってホスト側が使用されているバンドルを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。
使用可能なユーザバンドルを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクによってユーザ側が使用されていないケーブルのバンドルのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは全ケーブルバンドルを表示します。 リンクによってユーザ側が使用されているバンドルを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。
選択したバンドル用のリンクのラベル付け規則を選択する	ターゲットケーブルバンドルで作成されるリンクの、［ラベル］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。
［成端場所とポートを選択する］ページ	
成端場所	ソースケーブルバンドルの接続先となる成端場所を選択します。

ウィザードに表示されるタイトル	説明
使用可能なホストポートを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクが「ホスト」として使用していない成端場所デバイスのポートのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードは全ポートを表示します。 「ホスト」として使用されているポートを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。
使用可能なユーザポートを表示する	■ このチェックボックスをオンにすると、リンクが「ユーザ」として使用していない成端場所デバイスのポートのみが表示されます。 ■ このチェックボックスをオフにすると、ウィザードはデバイスの全ポートを表示します。 「ユーザ」として使用されているポートを選択すると、ウィザードは、既存リンクを切断してから新規リンクを作成します。
ターゲットポートを選択する	前ページでケーブル用に選択したバンドルと、同数のポートを選択します。
選択したポート用のリンクのラベル付け規則を選択する	成端場所デバイスのポートで作成されるリンクの、［ラベル］（SQL名：Label）フィールドに値を入力するために使用されるラベル付け規則。
［プロジェクトと作業指示を選択する］ページ	
接続に関するコメント	ウィザードが接続を作成する際の、［プロジェクトに関連するトレース］（SQL名：amProjTraceOut）テーブルの、［説明］（SQL名：Description）フィールド用の値
切断に関するコメント	ウィザードが接続を削除する際の、［プロジェクトに関連するトレース］（SQL名：amProjTraceOut）テーブルの、［説明］（SQL名：Description）フィールド用の値
作業指示中に接続された成端場所に関するコメント	ウィザードが接続を作成する際の、［トレースの処理］（SQL名：amTraceOp）テーブルの、［ラベル］（SQL名：amTraceOp）フィールド用の値
作業指示中に切断された成端場所に関するコメント	ウィザードが接続を削除する際の、［トレースの処理］（SQL名：amTraceOp）テーブルの、［ラベル］（SQL名：amTraceOp）フィールド用の値

ウィザードが作成または変更するデータ

接続を作成するために、ウィザードは以下の要素を作成します。

- リンク（**amCableLink**）
- トレースの履歴（**amTraceHistory**）
- トレースの説明（**amTraceOutput**）
- トレースの処理（**amTraceOp**）

接続を削除するために、ウィザードは以下のタスクを実行します。

- リンク（**amCableLink**）を削除する
- トレースの説明（**amTraceOutput**）を作成する
- トレースの処理（**amTraceOp**）を作成する

ウィザードは以下のフィールドに値を入力します。

表 6.6.［バンドルのクロスコネクト］ウィザード - 作成または変更されるデータ

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
［リンク］（*SQL名：amCableLink*）テーブル		
名前	Name	フィールドのデフォルト値
リンクタイプ	seLinkType	リンクがケーブルとケーブルデバイスのどちらを対象とするかに応じて、ウィザードが入力します。
親リンク	Parent	
ラベル付け規則	LabelRule	ウィザードで選択したラベル付け規則 ウィザードでラベル付け規則が選択されていない場合は、フィールドのデフォルト値
ラベル	Label	ラベル付け規則に基づいて算出されるラベル
用途	Duty	ウィザードによって接続されるポートまたはバンドルの用途
デバイス	Device	ウィザードで選択したデバイス
ポート	Port	ウィザードで選択したポート
ケーブル	Cable	ウィザードで選択したケーブル
バンドル	Bundle	ウィザードで選択したバンドル
［トレース履歴］（*SQL名：amTraceHistory*）テーブル		
名前	Name	フィールドのデフォルト値
タイプ	seLinkType	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
親リンク	Parent	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ラベル	Label	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
デバイス	Device	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ポート	Port	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
ケーブル	Cable	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー

フィールドのタイトル	フィールドのSQL名	説明
バンドル	Bundle	リンクの同じフィールドで定義される値のコピー
リンク	Link	■ ウィザードが接続を作成する場合：ウィザードが作成したリンク ■ ウィザードが接続を削除する場合：空白
［トレースの説明］（*SQL名：amTraceOutput*）テーブル		
タイプ	seTraceType	■ 接続の場合は**「接続」** ■ 切断の場合は**「切断」**
用途	Duty	ウィザードによって接続されるポートまたはバンドルの用途
ラベル	ModifiedLinkLabel	ラベル付け規則を参照せずに、ウィザードが算出するラベル
トレースの要約	TraceString	ウィザードが算出します。
トレース履歴	TraceHist	■ ウィザードが接続を作成する場合：ウィザードが作成した履歴 ■ ウィザードが接続を削除する場合：削除された接続についての履歴
トレースの処理	TraceOps	ウィザードが作成する処理
［トレースの処理］（*SQL名：amTraceOp*）テーブル		
ラベル	Label	ウィザードで入力したコメントに応じてウィザードが定義する値
ホストトレースの履歴	HostTraceHist	ウィザードが定義します。
ユーザトレースの履歴	UserTraceHist	ウィザードが定義します。

結果を表示する

ウィザードの結果を表示する最も簡単な方法は、ウィザードの最終ページで選択したプロジェクトの詳細画面を表示する方法です。

1 プロジェクトのリストを表示します（［**ポートフォリオ／プロジェクト**］）。
2 ウィザードが作成したプロジェクトを選択します。
3 ［**トレース**］タブを選択します。

   ［**トレース**］タブは、ウィザードで作成したトレースの説明の一覧を表示します。

   1 確認が必要なトレースの説明を選択します。
   2 拡大鏡アイコンをクリックして、中間ウィンドウを表示します。
   3 中間ウィンドウで、［**トレース**］フィールドの右側にある拡大鏡アイコンをクリックします。
   4 トレースの説明に関する情報を確認します。

クロスコネクトの画面や、ケーブルのトレースの画面を表示することもできます。

1 ケーブルのリストを表示します（［**ケーブル／ケーブル**］）。
2 接続したケーブルを、ケーブルの一覧から選択します。

3 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。
4 ［**ケーブルのクロスコネクション**］、または［**ケーブルのトレースを表示**］アクションを選択します。

ウィザードの実行後

プロジェクトと作業指示内にある情報に従って、実際にクロスコネクションを実行し、プロジェクトと作業指示のトラッキング情報を更新します。

実用例用に［バンドルのクロスコネクト］ウィザードを使用する

事務所1の電話用コンセントを階の成端場所へつないでいる水平ケーブルを変更します。ケーブルを、成端場所の別のポートに接続することにします。

以下の手順に従います。

1 場所のリストを表示します（［**ポートフォリオ／場所**］）。
2 場所「**/ケーブル配線された建物/1階/事務所1**」を選択します。
3 ［**ユーザケーブル**］タブを選択します。
4 電話を成端場所へ接続するケーブルを選択します（バンドルの用途は「**音声**」です）。
5 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
6 ［**バンドル**］タブを選択します。
7 リストの中からバンドルを選択します。
8 アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。
9 「**バンドルのクロスコネクト**」アクションを選択します。
10 以下の情報を入力します。

ウィザードに表示されるタイトル	値
［**バンドルのクロスコネクト**］ページ	
接続サイドを選択する	ホスト側
使用可能なホストバンドルを表示する	このオプションをオフにします。
接続するバンドルを選択する	バンドルを選択します。
選択したバンドル用のリンクのラベル付け規則を選択する	実用例 - リンク - ペアの連続番号ごと
接続先	成端場所
［**成端場所とポートを選択する**］ページ	
成端場所	階の成端場所
使用可能なホストポートを表示する	このオプションをオンにします。
ターゲットポートを選択する	用途が「音声」であるポートを選択します。
選択したポート用のリンクのラベル付け規則を選択する	実用例 - 成端場所のパッチパネルのポートのリンク
［**プロジェクトと作業指示を選択する**］ページ	

ウィザードに表示されるタイトル	値
全変更事項をプロジェクト/作業指示に適用しますか?	このオプションをオンにします。
プロジェクト	バンドルをクロスコネクトする
作業指示	表示される作業指示から選択します。
接続に関するコメント	ケーブルを接続する
切断に関するコメント	ケーブルの接続を切断する
作業指示中に接続された成端場所に関するコメント	接続する
作業指示中に切断された成端場所に関するコメント	切断する

結果を確認します。

1 プロジェクトのリストを表示します（［**ポートフォリオ／プロジェクト**］）。
2 ［**バンドルをクロスコネクトする**］プロジェクトを選択します。
3 ［**トレース**］タブを選択します。
4 トレースを選択します。
5 ［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
6 ［**トレース**］フィールドの右側にある［**拡大鏡**］アイコンをクリックします。
7 トレースの説明の詳細内容を確認します。

7 トレースを表示する

トレースを表示するためには、以下の方法を用います。

- 以下のテーブルの［**トレース**］タブを使って、接続点ごとにトレースを表示する方法
  - ［**ケーブル**］（SQL名：amCable）テーブル
  - ［**資産**］（SQL名：amAsset）テーブル
  - ［**ポート**］（SQL名：amPort）テーブル
  - ［**ケーブルバンドル**］（SQL名：amCableBundle）テーブル
- 以下のポップアップメニューで表示されるウィンドウを使って、全体像を表示する方法
  - アクション／ケーブルのクロスコネクション
  - アクション／デバイスのクロスコネクション
  - アクション／デバイスのトレースを表示
  - アクション／ケーブルのトレースを表示

本章では、トレースの全体像を表示する方法を説明します。

［ケーブルのクロスコネクション］ウィザード

定義

▶ Asset Manager専門用語（ケーブル） [献 179]/ クロスコネクション [献 188]

ウィザードが果たす機能

［**ケーブルのクロスコネクション**］ウィザードは、以下のタスクを実行するためのウィンドウを表示します。

- ケーブルの、ホストとユーザのリンクを表示する
- ケーブルリンクを含むトレースに沿って検索する（ホスト方向またはユーザ方向で）

これにより、例えば以下のような情報を見つけることができます。

- どれがケーブルリンクであるか。
- リンクはどのバンドルを使用しているか。
- ケーブルのどのバンドルが、フェイスプレートのどのポートに接続されているか。
- ケーブルのどのバンドルが、成端場所のどのポートに接続されているか。

必要条件

必要条件はありません。

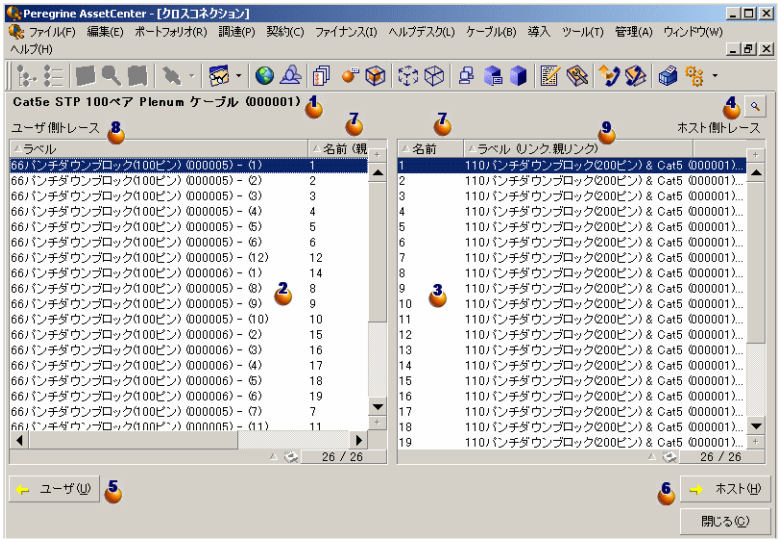
［ケーブルのクロスコネクション］ウィザードを使用する

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、［**ケーブル**］（SQL名：amCable）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1. ケーブルのリストを表示します（［**ケーブル／ケーブル**］）。
2. リストからケーブルを選択するか、または詳細画面で［**ケーブル**］テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3. アクションの一覧を表示します（［**ツール／アクション**］）。
4. ［**ケーブルのクロスコネクション**］ウィザードを選択します。

図 7.1. ［ケーブルのクロスコネクション］ウィザード - 検索用ウィンドウ



1：ケーブルまたはデバイス。表 2 と 3 はリンクを表示します。

2：ケーブルまたはデバイス 1 に接続するユーザケーブルとデバイスのリンク

3：ケーブルまたはデバイス 1 に接続するホストケーブルとデバイスのリンク

4：この拡大鏡アイコンをクリックして、ケーブルまたはデバイス 1 の詳細を表示します。

5：この矢印をクリックして、選択された 2 リンクに対応するユーザデバイスまたはユーザケーブルを検索するためのウィンドウを表示します。

6：この矢印をクリックして、選択された 3 リンクに対応するホストデバイスまたはユーザケーブルを検索するためのウィンドウを表示します。

7：ケーブル 1 のバンドルの番号（1 がケーブルである場合）。またはデバイス 1 のポートの番号（1 がデバイスである場合）。

8：バンドルまたはポート 7 に接続するユーザリンクのラベル

9：バンドルまたはポート 7 に接続するホストリンクのラベル

ウィザードが作成または変更するデータ

このウィザードはデータの作成、削除、変更を一切行いません。

［デバイスのクロスコネクション］ウィザード

定義

▶ クロスコネクション [献 188]

ウィザードが果たす機能

［デバイスのクロスコネクション］ウィザードは、以下のタスクを実行するためのウィンドウを表示します。

- デバイスリンクが属する（ホストまたはユーザ方向の）デバイスのホストとユーザのリンクを表示する

これにより、例えば以下のような情報を見つけることができます。

- どれがデバイスリンクであるか。
- リンクはどのポートを使用しているか。
- デバイスのどのポートが、ケーブルのどのバンドルに接続されているか。

必要条件

必要条件はありません。

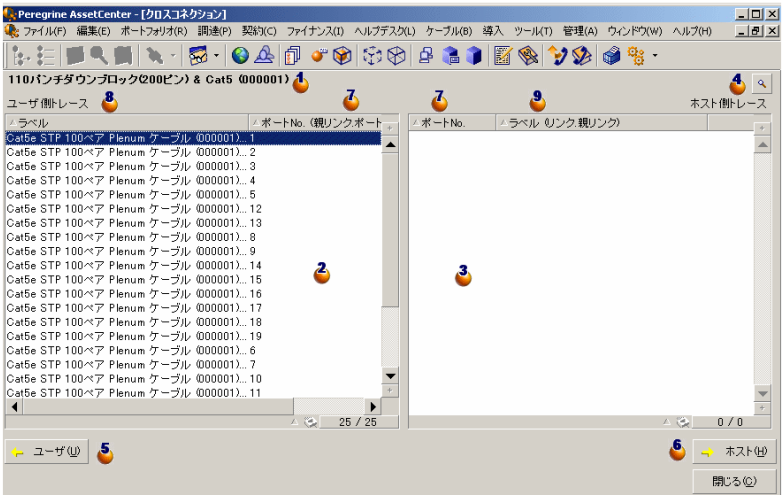
［デバイスのクロスコネクション］ウィザードを使用する

ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、**［資産］**（SQL名：amAsset）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1. ケーブルデバイスのリストを表示します（**［ケーブル／ケーブルデバイス］**）。
2. リストからケーブルデバイスを選択するか、または詳細画面で**［資産］**テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3. アクションの一覧を表示します（**［ツール／アクション］**）。
4. **［デバイスのクロスコネクション］**ウィザードを選択します。

図 7.2. ［デバイスのクロスコネクション］ウィザード - 検索用ウィンドウ



1：ケーブルまたはデバイス。表 2 と 3 はリンクを表示します。

2：ケーブルまたはデバイス 1 に接続するユーザケーブルとデバイスのリンク

3：ケーブルまたはデバイス 1 に接続するホストケーブルとデバイスのリンク

4：この拡大鏡アイコンをクリックして、ケーブルまたはデバイス 1 の詳細を表示します。

5：この矢印をクリックして、選択された 2 リンクに対応するユーザデバイスまたはユーザケーブルを検索するためのウィンドウを表示します。

6：この矢印をクリックして、選択された 3 リンクに対応するホストデバイスまたはユーザケーブルを検索するためのウィンドウを表示します。

7：ケーブル 1 のバンドルの番号（1 がケーブルである場合）。またはデバイス 1 のポートの番号（1 がデバイスである場合）。

8：バンドルまたはポート 7 に接続するユーザリンクのラベル

9：バンドルまたはポート 7 に接続するホストリンクのラベル

ウィザードが作成または変更するデータ

このウィザードはデータの作成、削除、変更を一切行いません。

［デバイスのトレースを表示］ウィザード

定義

▶ トレース [献 180]

ウィザードが果たす機能

［デバイスのトレースを表示］ウィザードは、以下のタスクを実行するためのウィンドウを表示します。

- デバイスの、ホストとユーザの全トレースを表示する
- トレースの一覧を印刷する

必要条件

必要条件はありません。

［デバイスのトレースを表示］ウィザードを使用する

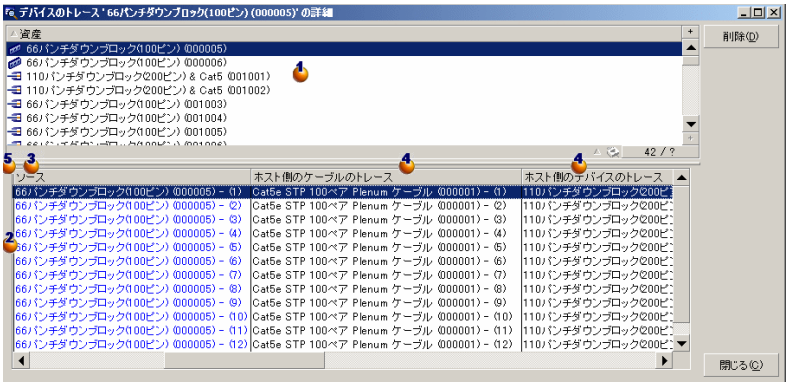
ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、**［資産］**（SQL名：amAsset）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1. ケーブルデバイスのリストを表示します（**［ケーブル／ケーブルデバイス］**）。
2. リストからケーブルデバイスを選択するか、または詳細画面で**［資産］**テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3. アクションの一覧を表示します（**［ツール／アクション］**）。
4. **［デバイスのトレースを表示］**ウィザードを選択します。

ウィザードの実行時に有用な情報

図 7.3. ［デバイスのトレースを表示］ウィザード - 検索用ウィンドウ



1：内容の確認が必要なデバイスを選択します。

2：ここには、デバイス 1 に直接関連するトレースと、使用可能なポート（リンクに使用されていないポート）ごとに、1行が表示されます。

3：［ソース］列には、 デバイス 1 に直接関連しているリンクのラベルと、使用可能なポートのラベルが表示されます。

- 青のラベルは、ポートが最低1リンクにより使用されていることを意味します。
- 赤のラベルは、ポートがリンクに使用されていないことを意味します。

4：［ソース］列の右に表示される［**ホスト側のxxxのトレース**］列では、ホスト方向のトレースのラベルが表示されます。

5：［ソース］列の左に表示される［**ユーザ側のxxxのトレース**］列では、ユーザ方向のトレースのラベルが表示されます。

ウィザードが作成または変更するデータ

このウィザードはデータの作成、削除、変更を一切行いません。

［ケーブルのトレースを表示］ウィザード

定義

▶ トレース [献 180]

ウィザードが果たす機能

［ケーブルのトレースを表示］ウィザードは、以下のタスクを実行するためのウィンドウを表示します。

- ケーブルの、ホストとユーザの全トレースを表示する
- トレースの一覧を印刷する

必要条件

必要条件はありません。

［ケーブルのトレースを表示］ウィザードを使用する

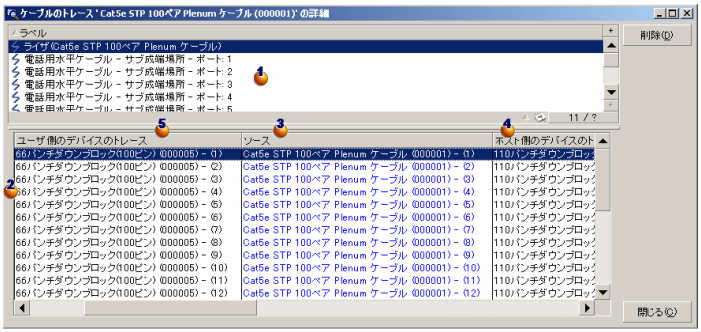
ウィザードの使用

ウィザードにアクセスするには、**［ケーブル］**（SQL名：amCable）テーブルのレコードまたはフィールド（リンクは不可）を選択する必要があります。

1. ケーブルのリストを表示します（**［ケーブル／ケーブル］**）。
2. リストからケーブルを選択するか、または詳細画面で**［ケーブル］**テーブルのフィールド（リンクは不可）を選択します。
3. アクションの一覧を表示します（**［ツール／アクション］**）。
4. **［ケーブルのトレースを表示］**ウィザードを選択します。

ウィザードの実行時に有用な情報

図 7.4. ［ケーブルのトレースを表示］ウィザード - 検索用ウィンドウ



1：内容の確認が必要なケーブルを選択します。

2：ここには、ケーブル 1 に直接関連するトレースと、使用可能なバンドル（リンクに使用されていないバンドル）ごとに、1行が表示されます。

3：［**ソース**］列には、 ケーブル 1 に直接関連しているリンクのラベルと、使用可能なバンドルのラベルが表示されます。

- 青のラベルは、バンドルが最低1リンクにより使用されていることを意味します。
- 赤のラベルは、バンドルがリンクに使用されていないことを意味します。

4：［**ソース**］列の右に表示される［**ホスト側のxxxのトレース**］列では、ホスト方向のトレースのラベルが表示されます。

5：［**ソース**］列の左に表示される［**ユーザ側のxxxのトレース**］列では、ユーザ方向のトレースのラベルが表示されます。

ウィザードが作成または変更するデータ

このウィザードはデータの作成、削除、変更を一切行いません。

8 用語解説（ケーブル）

Asset Manager専門用語（ケーブル）

ピン/ターミナル

ケーブルデバイスのポートの構成部分に当たり、コネクタのピン/ターミナルやケーブルのワイヤと、電気接続（ピン）や光接続（ターミナル）を確立するために使用されます。

ケーブルデバイスのピン/ターミナルはポートに関連付けられます。ポートは次に、ケーブルのペア/導線のバンドルへ関連付けられて、ケーブルリンクを作成します。

接続タイプで（［ケーブル／ケーブルの接続タイプ］）、ピン/ターミナルはカラーコードエントリに関連付けられます。

反意語

ピン型は2つの接続モードの1つで、この反対はポート [献 189]型です。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

［**ピン**］（SQL名：amDevicePin）

ケーブル

ケーブルは、以下のコンポーネントの集まりのいずれかから構成されています。

- ケーブルの伝導方法が電気である場合は、ワイヤのペアの集まり。
- ケーブルの伝導方法が光である場合は、導線の集まり。

ペアや導線はバンドル内にまとめられており、これによりケーブルデバイスとの接続が可能になります。

ケーブルはケーブルデバイス間の接続に使用されます。

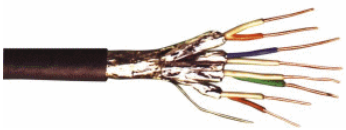
反意語

▶ ケーブルデバイス [献 183]

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

［**ケーブル**］（SQL名：amCable）

図 8.1. ケーブル、ペア、ペアのワイヤ - 写真



トレース

ケーブルとケーブルデバイス間のリンクの論理的なつながり

反意語

これは、ケーブルの配線位置 [献 197]の反対の型で、ケーブル接続を物理的に記述します。

カラーコード

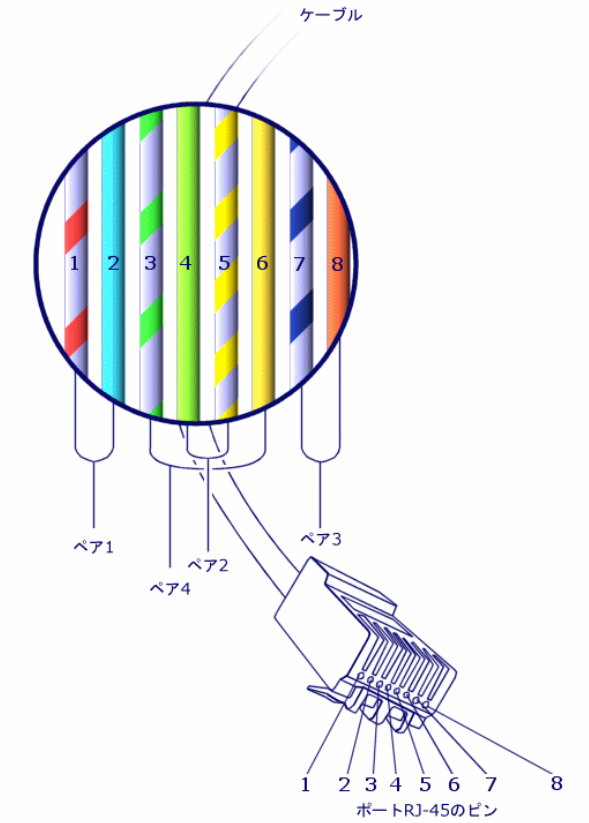
以下のコンポーネントを見分けるためにカラーコードを使用します。

- ワイヤのペア1組
- コネクタのピン1個

各ワイヤと各ピンは、ワイヤを識別する1つのカラーコードエントリに関連付けられます。

［**ペアの作成**］ウィザードでペアを作成する場合、ウィザードは、ペアの［**連続番号**］フィールドに基づいて作成される各ペアに、1つのカラーコードエントリを自動的に割り当てます。

図 8.2. カラーコード - ワイヤ、ピン、色の対応



コネクタ「*RJ-45*」では、各ピンはある色のワイヤに関連付けられており、それぞれ一定の用途のために使用されます。

表 8.1. カラーコード - コネクタ*RJ-45*

ピン番号	関連付けられたペアの色	チップワイヤの色	リングワイヤの色	用途
1	オレンジ	白/青	オレンジ	データ送信 +
2	オレンジ	白/オレンジ	オレンジ	データ送信 -
3	緑	白/緑	緑	データ受信 +
4	青	白/青	青	音声送信 +
5	青	白/青	青	音声送信 -
6	緑	白/緑	緑	データ受信 -
7	茶	白/茶	茶	音声受信 +

ピン番号	関連付けられたペアの色	チップワイヤの色	リングワイヤの色	用途
8	茶	白/茶	茶	音声受信 -

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［カラーコード］（SQL名：amColorCode）

列

成端場所の縦向きの軸

反意語

▶ 行 [献 188]

トレースの説明

トレースの詳細な記述

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［トレースの説明］（SQL名：amTraceOutput）

成端場所設定

成端場所の典型的な構成を定義します。特に以下の内容を指定します。

- 成端場所の各行や各列に割り当てられる用途
- 成端場所の各行や各列に割り当てられる役割（結果的に、各行や各列のケーブルデバイスの役割も定義されます。）

成端場所設定は、ウィザードが成端場所を（デバイスと共に）自動作成する際に使用されます。

例

2つの列と6つの行からなる成端場所フィールドは、合計12の用途（ボイスやデータなど）と6つの役割（ライザケーブルや水平ケーブルなど）を持ちます。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［成端場所設定］（SQL名：amTermFldConfig）

ケーブルデバイス

ケーブルデバイスは、ネットワークの構成部分の内ケーブル以外のものを指します。

ケーブルデバイスは、以下の部品を経由してケーブルやケーブルデバイスに接続します。

- ピン（伝導方法が電気である場合）
- ターミナル（伝導方法が光である場合）

ピンやコネクタはポート内にまとめられており、これにより、ケーブルバンドルや別のケーブルデバイスのポートとの接続が可能になります。

例

- コントローラカード
- フェイスプレート
- パッチパネル
- スイッチ
- ハブ

同意語

ケーブル機器

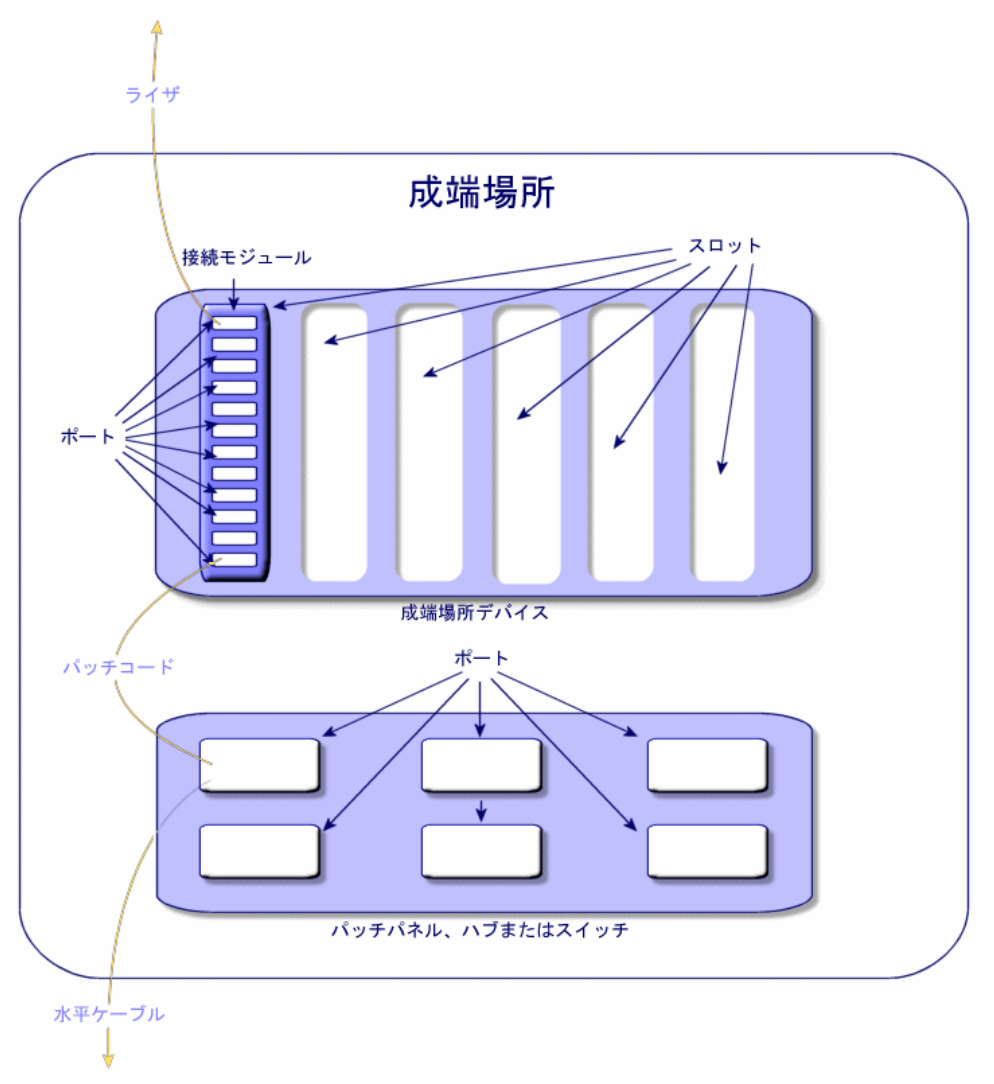
このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

［資産］（SQL名：amAsset）

スロット

ケーブルデバイスのスロットには、拡張カードや拡張モジュールを挿入できます。拡張カードや拡張モジュールはケーブルデバイスであり、別のケーブルやケーブルデバイスとリンクを作成する際に使用されます。

図 8.3. ケーブルデバイスのスロット - 図解



例

「*ProCurve Switch 4000 M - 10*スロット」スイッチに挿入される「*HP ProCurve 10/100 Base T - 8*ポート」モジュール

同意語

拡張コネクタ

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

- ［スロット］（SQL名：amSlot）
- ［モデルのスロット］（SQL名：amModelSlot）

カラーコードエントリ

カラーコードの内の1つの色

各カラーコードエントリは以下の部品と関連付けられます。

- ケーブルのペア/導線
- ケーブルデバイスのポートのピン

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［カラーコードエントリ］（SQL名：amColorDet）

トポロジステップ

トポロジを導入するために作成するリンクの1つ。トポロジの各ステップは順番通りに並べられています。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［トポロジステップ］（SQL名：amTopologyDet）

ラベル

ケーブルネットワーク内の以下のコンポーネントの識別子

- ケーブルデバイス
- バンドル
- ケーブル
- ピン/ターミナル
- ペア/導線
- ポート
- リンク

ラベルは、データベース内に作成されてから上記コンポーネントに添付され、後で識別するために使用されます。

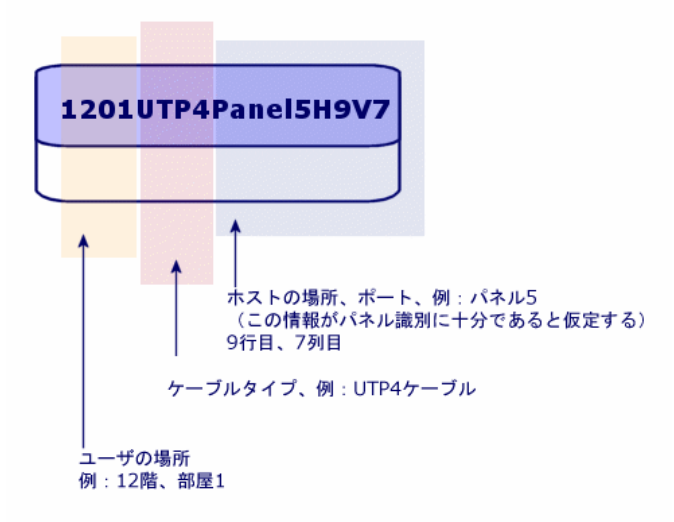
ラベルはラベル付け規則を使って入力されます。

ラベルの内容は、識別する要素（ケーブルなど）に関する情報を、できる限り正確に示さなければなりません。例えば以下のような情報に基づいて、ラベル付け規則はラベルを作成します。

- ユーザとホストの場所
- ホストポートとユーザポート（資産とポートの識別子）
- ケーブルのタイプやケーブルデバイスのタイプ（4ペア、パッチパネル、など）

これに対応するラベルは以下の形式で表示されます。

図 8.4. ケーブルのラベル - 例



バンドル

ケーブル内のペアの集まり。バンドルには特定の用途を割り当てることができます。バンドルは、ケーブルとケーブルデバイス間のリンクの作成時に使用されます。この際、ケーブルのバンドルをデバイスのポートへ接続します。リンクの作成時に、バンドルの用途がポートの用途と同じであるかどうかを確認する必要があります。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

［ケーブルバンドル］（SQL名：amCableBundle）

用途

以下の要素に送受信または処理されるデータの種類

- ケーブルのバンドル
- ケーブルデバイスのポート
- リンク

用途は、リンクを作成するケーブルウィザードによって使用されます。用途を使用することにより、ウィザードは同じ用途のポートとバンドルを接続できるようになります。

用途は以下の要素にも割り当てられます。

- 成端場所設定のスロット。これは、スロットに作成されるデバイスのポートに、同じ用途が伝達されるようにするためです。
- トポロジ。これは、トポロジを導入するために使用するバンドルやポートで、同じ用途が入力されるようにするためです。
- トレース。これは、トレースを構成するリンク、ポートやバンドルの用途を反映するためです。

例

- データ
- 音声
- ビデオ

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［**ケーブルの用途**］（SQL名：amCableDuty）

トポロジグループ

トポロジグループは複数のトポロジをまとめたものです。トポロジグループは、ケーブルウィザードがケーブル、ケーブルデバイスとリンクを自動作成する際に使用されます。

トポロジグループは、例えば以下の各要素を作成するために1つのトポロジをまとめることもできます。

- ファックスのリンク
- 電話用リンク
- LAN用リンク

トポロジグループは、ケーブルネットワークの標準構成を記述するものです。場所に応じて、別々のトポロジグループを定義することも可能です。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［**トポロジグループ**］（SQL名：amTopologyGroup）

ホスト

この概念は、トレースの方向を定義する際に使用されます。これは、ウィザードがケーブルやケーブルデバイス間のリンクを作成する際に、どのリンクが他のリンクのホスト（親）になるかを指定するために使用されます。

一般的に、ホストの方向は成端場所へ向かう方向を指します。

反意語

▶ ユーザ [献 194]

クロスコネクション

ネットワークの要素（ケーブルデバイスとケーブル）をつなげるためのアクション

リンク

Asset Managerでのリンクは、ケーブルデバイス（ポート）やケーブル（バンドル）での接続点を表します。リンクのつながりがトレースを構成します。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

［**リンク**］（SQL名：amCableLink）

行

成端場所の横向きの軸

反意語

▶ 列 [献 182]

リング

ジャックコンセントは、**リング**と**チップ**の2つの部分から構成されています。ジャックコネクタは2ペアのケーブルを使用します。このペアの1本のワイヤはリング用で、もう1本はチップ用です。このように**リング**と**チップ**は、ペアの2本のワイヤを区別するために使用されます。これはケーブル内に複数のペアがある場合も同じです。

反意語

▶ チップ [献 189]

ペア/導線

データ送信の媒体。光ファイバまたは電気ワイヤのペアのどちらか。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［**ケーブルのペア／導線**］（SQL名：amCablePair）

チップ

ジャックコンセントは、**リング**と**チップ**の2つの部分から構成されています。ジャックコネクタは2ペアのケーブルを使用します。このペアの1本のワイヤはリング用で、もう1本はチップ用です。このように**リング**と**チップ**は、ペアの2本のワイヤを区別するために使用されます。これはケーブル内に複数のペアがある場合も同じです。

反意語

▶ リング [献 188]

ポート

ケーブルデバイスでのデータの入/出力のために使用されるスロット。

ケーブルモジュールで、ポートはリンクの作成時に、他のポートまたはケーブルバンドルとの接続点になります。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

- ［**ポート**］（SQL名：amPort）
- ［**モデルのポート**］（SQL名：amModelPort）

反意語

2つの接続モード**「ポート」**型と**「ピン」**型があり（［ケーブル／ケーブル接続タイプ］）、ピン型はポート型と反対の接続モードです。

ラベル付け規則

以下の要素用のラベルを作成するための計算式

- ケーブルデバイス
- バンドル
- ケーブル
- ピン/ターミナル
- ペア/導線

- ポート
- リンク

リンクのラベル以外のラベルは、現場での配線作業で各構成部分を識別するために役立ちます。

リンクのラベルは、リンクが何を表しているかをすばやく視覚表示するために使用されます。

計算式はBasicスクリプトの形式で作成されます。

フィールドのデフォルト値と違って、ラベル付け規則が自動的に適用されることはありません。自動適用には、ウィザードを使用する必要があります。

同意語

なし

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［ラベル付け規則］（SQL名：amLabelRule）

成端場所

ケーブル配線用の機器全体。ユーザから来るケーブルを、ホストへ向かうケーブルへ連結します。

成端場所は以下のような機器から構成されます。

- パッチパネル
- ハブ
- パンチダウンブロック
- スイッチ
- その他

同意語

パッチパネル

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［成端場所］（SQL名：amTermField）

役割

役割は、ケーブルの接続先となるネットワークの部分を指します。

役割は以下の要素に関連付けられます。

- ケーブル
- 成端場所デバイスのモデル

- 成端場所デバイス
- トポロジステップ内のケーブル

一部のウィザードは、役割を使ってケーブルデバイスとケーブル間の適切な接続を作成します。

この場合ウィザードは、以下の要素の役割を比較して関連付けます。

- トポロジステップ
- ケーブル
- 成端場所設定
- 成端場所デバイス

使用例

例えばケーブル設置用のウィザードで、役割が**「ライザ」**であるケーブルを作成するとします。この場合Asset Managerは、役割が**「ライザ」**である成端場所の1列に挿入されているデバイスへ、これらのケーブルを自動的に接続します。

役割の例

- 水平（成端場所からユーザの機器へ）
- ライザ（成端場所から別の成端場所へ）

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

［**リストデータ**］（SQL名：amItemizedList）

連続（番号）

Asset Managerソフトウェアの多数のテーブルの要素を識別するために順序付けられた番号

ターミナル

「ピン/ターミナル」参照

トポロジ

トポロジは、トレースの作成を自動化するために必要な以下のデータをまとめています。

- 作成するリンク
- 検索または作成するケーブルとケーブルデバイス

例

ユーザを電話ネットワークへ接続するトレースを記述するトポロジ（フェイスプレート -> ケーブル -> パッチパネル）

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［トポロジ］（SQL名：amTopology）

ケーブルのタイプ

「ケーブルのタイプ」は、モデルとトポロジステップを分類します。これによりウィザードは、トポロジステップから適切なタイプのケーブルを検索または作成できるようになります。

例

ツイストペア

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［リストデータ］（SQL名：amItemizedList）

接続タイプ

接続タイプは、ケーブルネットワークのコンポーネント間の接続方法を表しています。

例：RJ-45、RJ-11、4ペアのブロック

これは、ポートのピンまたはコネクタのターミナルの物理的な記述です。

例

- ワークステーション、PABX、またはサーバのポート
- 電話用壁面コンセント（RJ-45、RJ-9）
- 成端場所のパンチダウンブロックのターミナル（CAD、RAC IBM）

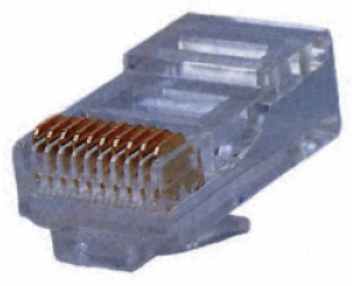
接続タイプにより、ケーブルウィザードは以下の操作を実行できるようになります。

- トポロジステップで定義される接続タイプに対応するケーブルデバイスのポートを見つける。
- 必要に応じて、あるタイプの仮想ポートを作成する。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［ケーブル接続タイプ］（SQL名：amCabCnxType）

図 8.5. RJ-45コネクタ - 写真



ケーブルデバイスのタイプ

ケーブルデバイスのタイプは、モデルとトポロジステップを分類します。これによりウィザードは、トポロジステップから適切なタイプのケーブルデバイスを検索または作成できるようになります。

例

- スイッチモジュール
- パッチパネル
- フェイスプレート
- スイッチ

使用例

あるケーブルと、接続タイプが「*XXX*」（接続モード = **ピン型**、ピン/ターミナルの数 = *8*）であるケーブルデバイス間で、接続を作成するとします。ケーブルデバイスの8ピンが1本のワイヤに関連付けられると、Asset Managerは自動的に仮想ポートを作成します。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

［**リストデータ**］（SQL名：amItemizedList）

ペア/導線のタイプ

ペア/導線のタイプは、名前と、構成部品である導線の数で定義されます。

ペア/導線のタイプにより、ウィザードは、トポロジステップで定義されているペア/導線のタイプに対応するケーブルのペア/導線を、検索できるようになります。このようにして選択されたペア/導線は、仮想バンドルの形でまとめられ、この仮想バンドルがポートへ関連付けられます（リンクの中で）。

例

銅、導線（2）

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［**ペア/導線のタイプ**］（SQL名：amCabPairType）

スロットタイプ

スロットタイプは、ケーブルデバイスのスロットに、どの拡張モデルやモジュールを挿入できるかを定義するために使用されます。

このデータベースリンクは、ケーブルデバイスのスロット用の資産を選択する際に使用されます。資産のうち、モデルがスロットタイプと互換性のある資産のみが提示されます。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

［**スロットタイプ**］（SQL名：amSlotType）

ユーザ

この概念は、トレースの方向を定義する際に使用されます。これは、ウィザードがケーブルやケーブルデバイス間のリンクを作成する際に、どのリンクが他のリンクのユーザ（従属リンク）になるかを指定するために使用されます。

一般的に、ユーザの方向はユーザのフェイスプレート（コンセント）へ向かう方向を指します。

反意語

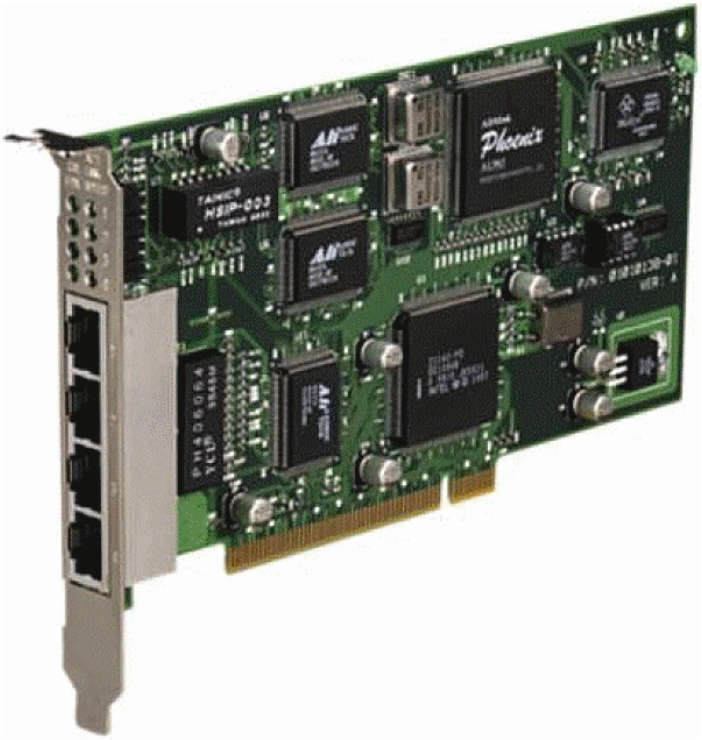
▶ ホスト [献 188]

専門用語（ケーブル）

アダプタ

周辺機器（モデム、CD-ROMプレーヤ）用に必要なサーキットや接続がケーブルデバイスにない場合に、ケーブルデバイスが周辺機器を使用できるようにするオス/メスのコネクター式。アダプタは、拡張コネクタ（スロット）内に位置します。

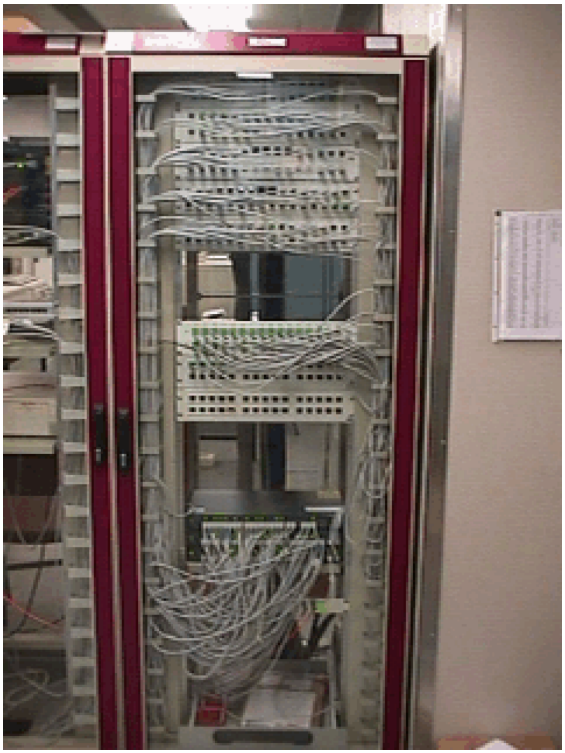
図 8.6. アダプタ - 写真



ラック

ケーブル配線用のデバイスを保管するための棚

図 8.7. ラック - 写真



パンチダウンブロック

ケーブルワイヤをポートへ接続できるようにするケース。ケーブルとの接続を簡易化するために使用されます。場合によっては、このコネクタにケーブルを差し込むと、ケーブルの絶縁被覆が自動的に取り除かれます。

図 8.8. パンチダウンブロック - 写真

シャーシ

ケーブルデバイスを保管するための金属の枠

ケーブルの配線位置

ケーブルの論理的な位置を定義するトレースとは反対の、ケーブルの物理的な位置

反意語

- トレース [献 180] （論理）

コンバータ

コンバータは以下の操作を行うデバイスです。

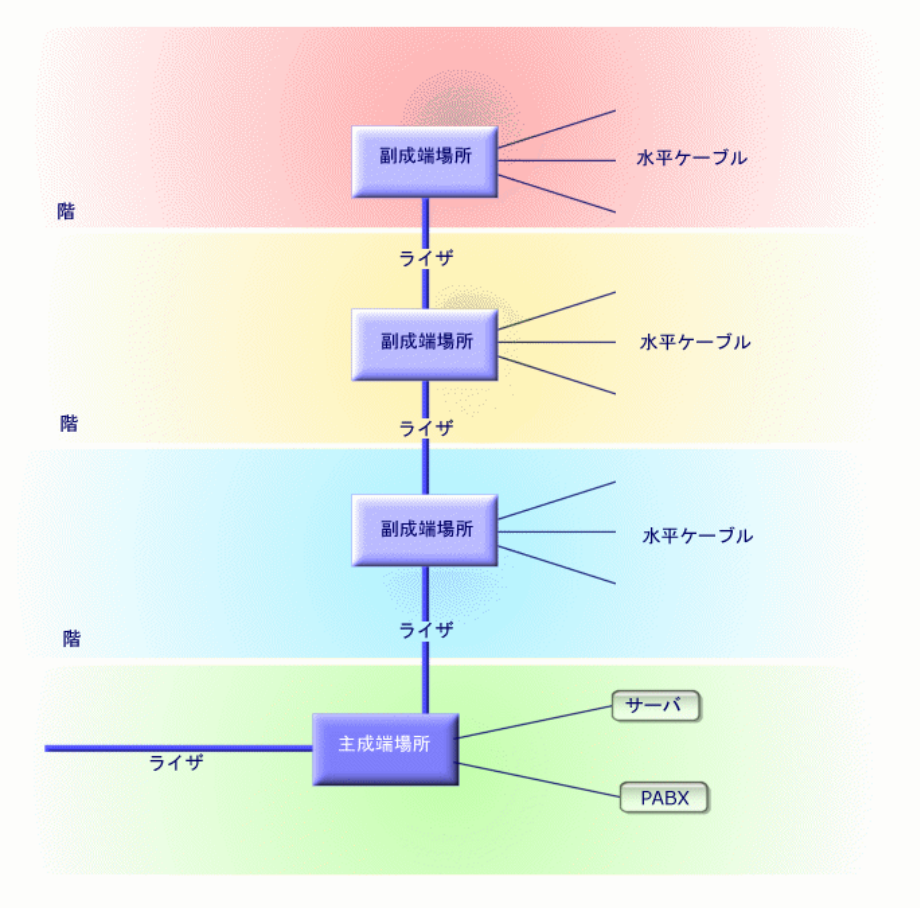
- 電気信号やITデータを別の形式に変換する。

  例：*A*/*D*コンバータは、アナログ信号をデジタル信号へ変換します。
- 互換性のないインタフェースを備えた機器を接続する。
- あるケーブルタイプから来る信号を、中断せずに別のケーブルタイプへ送信するように変換する。

垂直配線

複数の成端場所間でケーブルを配置すること。これらの成端場所を接続するケーブルは、一般的に多数のペアから構成されており、ライザと呼ばれます。

図 8.9. ケーブルネットワークの垂直配線 - 図解



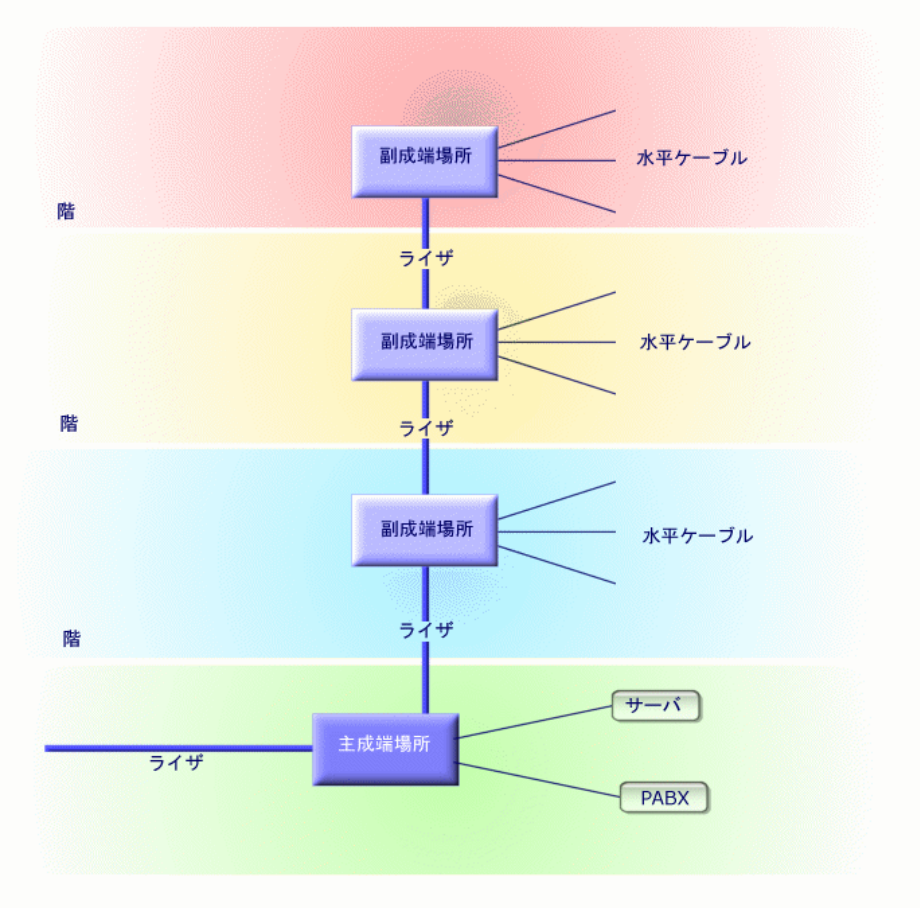
反意語

▶ 水平配線 [献 199]

水平配線

ユーザと成端場所間のケーブル配線

図 8.10. ケーブルネットワークの水平配線 - 図解



同意語

横配線

反意語

▶ 垂直配線 [献 198]

ハブ

コンピュータ、サーバ、ネットワークプリンタとその他の周辺機器から来るケーブルが到達する箱を指します。ハブが、ネットワークの複数ユーザ間の通信を可能にします。

通過する信号を変更しないため**マルチコンセント**でしかない受動的なハブも存在します。

遠距離や電気干渉により起こるエラーを削除しつつ、信号を再生する能動的なハブも存在します。

複数のハブを接続し、既存のネットワークを拡張することもできます。

ハブは、メッセージの伝達には介入しません。コンピュータが情報を送信すると、ハブはその他の全コンピュータに情報を伝達します。この情報を処理するのは情報の宛先であるコンピュータのみです。メッセージの受信者が返信すると、ハブは返信メッセージをまた全員に伝達しますが、メッセージを読むのは、送信先である受取人のみです。ネットワーク上で可能な速度は、同時に「通信」しているコンピュータや周辺機器の数で分割されます。

図 8.11. ハブ - 写真

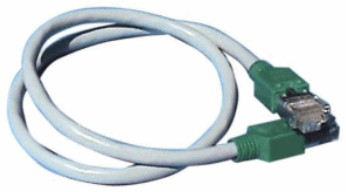
同意語

- 集線装置
- マルチプレクサ

ジャンパ/パッチコード

成端場所のデバイス間に、変更可能な常設の接続を実現する短いコードです。

図 8.12. パッチコード - 写真



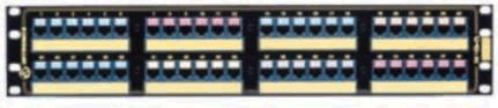
長さ

ケーブルの寸法

パッチパネル

ハブやスイッチなどの近隣に位置する成端場所のデバイス。ハブやスイッチなどと、部屋に設置されているケーブルの間に位置します。ケーブルは、パッチパネルの裏側で接続されます。各ケーブルはパネル上の1コネクタに対応します。ケーブルの反対側の端末は、部屋のフェイスプレート（コンセント）に差し込まれます。パネル正面のコネクタを成端場所の能動的な要素のポートへ接続するためには、ジャンパを使用します。

図 8.13. パッチパネル - 写真



同意語

配線盤

フェイスプレート

コンピュータ、周辺機器または電話のケーブルの「オス」コネクタが、ネットワークに接続できるようにするコンセント

主成端場所

Asset Managerでは成端場所として処理されます。

リピータ

信号が元の強度と形を保ったまま遠距離伝達されるように、信号を増幅または再生して、信号のひずみを軽減するデバイス。ネットワーク上でリピータは、2つのネットワークまたはネットワークの2区域を、OSI規格の物理層のレベルで接続し、信号を再生します。

図 8.14. リピータ - 写真

同意語

再生中継器

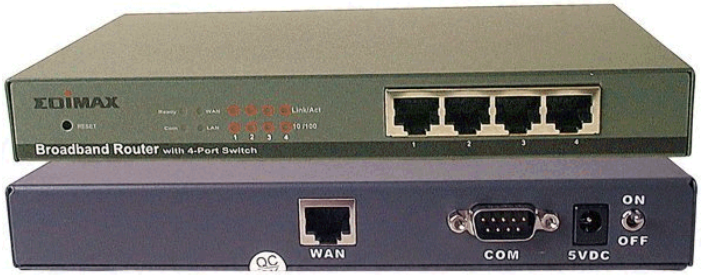
ライザ

垂直配線用（建物またはフロア間）のケーブル

ルータ

スイッチよりも**高性能**なルータは、複数のネットワークを連結するために使用されます。例えば、社内ネットワークとインターネットをつなぐ場合などです。ルータは、ユーザが指定する基準に従って情報にフィルタを適用する真のコンピュータです。ルータは使用可能なパスの内、最適な経路を選択して情報を1送信先に伝達できます。また、異種の通信プロトコルを使用する複数のネットワークが共存できるようにします。

図 8.15. ルータ - 写真



サブ成端場所

Asset Managerでは成端場所として処理されます。

スイッチ

ハブと同様に、スイッチはネットワークのコンピュータと周辺機器から来るケーブルを一点に集めます。ハブと違うのは、スイッチに接続されている機器のアドレスを格納するメモリがあることです。あるコンピュータが別のコンピュータにメッセージを送信すると、スイッチは誰が「通信」しており、誰が情報の宛先であるかを把握します。スイッチはこの際、ネットワークの他部分に影響を与えずに宛先にデータを送信します。受信者は、発信者と同じ速度でデータを受信します。

図 8.16. スイッチ - 写真

同意語

PABX

（ケーブルの）設置

ケーブルを敷設するためのアクション

同意語

敷設

設置

ケーブルのセクション

インデックス

アダプタ，194
ウィザード
　必要条件，139，84，52，40
カラーコード，34
　カラーコードエントリ，185
　色，32
　定義，180
カラーコードエントリ，185
クロスコネクション，188
ケーブル
　(参考 ケーブルの用途)
　(参考 ブランド)
　(参考 モデル)
　(参考 属性)
　クロスコネクション，169
　ケーブルのタイプ，192，30
　ケーブルの設置，205
　ライザ，203
　ライザケーブル，139
　作成方法，113
　手動作成，125
　接続モード，19
　定義，179
　役割，31
ケーブルデバイス
　(参考 ブランド)
　(参考 属性)
　ケーブルデバイスのタイプ，193
　スロットなしケーブルデバイスのモデル，69
　スロットなしデバイス - モデル，63
　タイプ，29
　トレース，172
　作成方法，113
　手動作成，114
　接続モード，19
　定義，183
　片面または両面のデバイス，116
ケーブルデバイスのタイプ，193
ケーブルデバイスのモデル
　(参考 ブランド)
　ウィザードを使用してスロットを作成する，71
　ウィザードを使用してポートを作成する，70
　スロットなしデバイス - モデル，63
　スロット付きデバイス，69
　ポートの作成（ウィザード），65
ケーブルのクロスコネクション（ウィザード），169

ケーブルのタイプ，192 , 30
ケーブルのトレースを表示（ウィザード），176
ケーブルのモデル
(参考 ブランド)
ケーブル，59
ペアの作成（ウィザード），60
ケーブルの設置，205
ケーブルの配線位置，197
ケーブルの役割，31
定義，190
ケーブルの用途，187 , 48
ケーブルバンドル，128
仮想バンドル，115
定義，186
ケーブルモジュール
実装，27-93
準備段階，27
必要な知識，11
ケーブル配線
ケーブルの配線位置，197
コンバータ，198
サブ成端場所，204
シャーシ，197
ジャンパ，201
スイッチ，204 , 204
スロット
(参考 スロットタイプ)
(参考 モデル)
ウィザードを使用してスロットを作成する，71
定義，183
スロットタイプ，194 , 67
スロットの作成（ウィザード），71
ターミナル，179
チップ，189
デバイスのクロスコネクション（ウィザード），172
デバイスのトレースを表示（ウィザード），174
データベース
準備，27
専門分野データ - インポート
既存のデータベース，28
新規データベース，28
データベース記述ファイルを開く - 新規データベースの作成（オプション），28 , 28
トポロジ，73
(参考 トポロジグループ)
トポロジステップ，185
定義，191
例，75
トポロジグループ，187 , 79
トポロジステップ，185
トレース
印刷
ケーブル，176
デバイス，174
定義，180
表示，169
ケーブル，176 , 169
デバイス，174 , 172
トレースの説明，182 , 182
パッチコード，201 , 19
パッチパネル，202 , 190
パンチダウンブロック，197 , 197
ハブ，201
バンドルのクロスコネクト（ウィザード），159
ピン
接続モード，19
定義，179
フェイスプレート，202
フロースペック，89
ブランド，58
プロジェクト，52
ペア，189
(参考 ペア/導線のタイプ)
ペア/導線のタイプ，193 , 44
ペアの作成（ウィザード），60
ホスト，188
ポート，128
接続モード，19
定義，189
ポートの作成（ウィザード），70 , 65
マルチプレクサ，201
モジュールの起動（メニュー），28
ユーザ，194
ライザ，203
ライザケーブルの設置，139

ライセンス契約，28
ラック，196
ラベル
(参考 ラベル付け規則)
定義，185
例，40
ラベル付け規則，38
定義，189
リピータ，203
リンク，128
トレース，180
トレースの説明，182
定義，188
リング，188
ルータ，203
ワイヤリング
パッチパネル，202
ワイヤリングクローゼット，196
ワイヤリングクローゼットを複製する（ウィザード），107
横配線，199
仮想ポート
ウィザード - 制限，160
ケーブルデバイス - 手動作成，115
開始位置，88
拡張コネクタ，183
行，188
再生中継器，203
作業指示，52
実用例
カラーコード，36
ケーブル，126
ケーブルデバイス，123
ケーブルデバイスのタイプ，30
ケーブルのタイプ，31
ケーブルのモデル，62
ケーブルの役割，32
ケーブルの用途，50
スロットタイプ，69
スロットなしケーブルデバイスのモデル，66
スロット付ケーブルデバイスのモデル，73
トポロジ，76
トポロジグループ，82
トレースの処理，137
トレースの説明，136
トレース履歴，136
バンドル - クロスコネクション，166
ブランド，58
プレゼンテーション，21
プロジェクト，53
ペア/導線のタイプ，46
ライザケーブル，150
ラベル付け規則，41
リンク，135
ワイヤリングクローゼット - 複製，111
作業指示，53
場所，50
色，33
水平ケーブル，158
成端場所，101
成端場所 - 拡張，106
成端場所設定，90
接続，135
接続タイプ，47
属性，57
注意事項，21
集線装置，201
場所，50
色，32
カラーコード，180 , 34
カラーコードエントリ，185
垂直 - 配線，198
水平ケーブルの設置（ウィザード），152
水平配線，199
成端場所，95
(参考 成端場所設定)
ウィザードを使用した作成，96
サブ成端場所，204
ワイヤリングクローゼット - 複製，107
拡張，102
主成端場所，202
手動作成，96
定義，190
成端場所の拡張（ウィザード），102
成端場所の作成（ウィザード），96
成端場所設定，83
パラメータ，84
フロースペック，89
開始位置，88

定義，182
接続
(参考 接続タイプ)
バンドル - クロスコネクション，159
ライザケーブル，139
作成，139-167
作成方法，113
手動作成，133 , 127
水平ケーブル，152
接続タイプ，192
接続モード，19
接続タイプ，192 , 46
設置，205
専門分野データ，28 , 28
属性，55
定義
アダプタ，194
カラーコード，180
カラーコードエントリ，185
カラーコードエントリ，185
クロスコネクション，188
ケーブル，179
ケーブルのタイプ，192
ケーブルの設置，205
ライザ，203
ケーブルデバイス，183
ケーブルデバイスのタイプ，193
ケーブルデバイスのタイプ，193
ケーブルのタイプ，192
ケーブルの設置，205
ケーブルの配線位置，197
ケーブル - 配線位置，197
コンバータ，198
サブ成端場所，204
シャーシ，197
ジャンパ，201
スイッチ，204 , 204
スロット，183
スロットタイプ，194
スロットタイプ，194
ターミナル，179
チップ，189
トポロジ，191
トポロジグループ，187
トポロジステップ，185
トポロジグループ，187
トポロジステップ，185
トレース，180
トレースの説明，182
トレースの説明，182
パッチコード，201
パッチパネル，202 , 190
ハブ，201
パンチダウンブロック，197 , 197
バンドル，186
ピン，179
フェイスプレート，202
ペア，189
ペア/導線のタイプ，193
ペア/導線のタイプ，193
ホスト，188
ポート，189
マルチプレクサ，201
ユーザ，194
ライザ，203
ラック，196
ラック，196
ラベル，185
ラベル付け規則，189
ラベル付け規則，189
リピータ，203
リンク，188
トレース，180
トレースの説明，182
リング，188
ルータ，203
ワイヤリング
パッチパネル，202
横配線，199
拡張コネクタ，183
行，188
再生中継器，203
集線装置，201
色
カラーコード，180
カラーコードエントリ，185
垂直 - 配線，198
水平配線，199
成端場所，190
サブ成端場所，204

主成端場所，202
成端場所設定，182
成端場所設定，182
接続タイプ，192
接続 - タイプ，192
設置，205
導線，189
ペア/導線のタイプ，193
配線
パッチパネル，202
垂直，198
水平，199 , 199
役割，190
用途，187
列，182
連続（番号），191
導線，189
(参考 ペア/導線のタイプ)
配線
パッチパネル，202
垂直，198
水平，199 , 199
片面，116
用語解説，179-205
Asset Managerの用語，179-194
専門用語，194-205
両面，116
列，182
連続，191

A

amCableRole（リストデータ），32
amCableType（リストデータ），31
amColor (リストデータ)，36
amColor（リストデータ），32
amDeviceType (enumeration)，30
amRingColor（リストデータ），36 , 32
amTipColor（リストデータ），36 , 32
Asset Manager Application Designer
専門分野データ - インポート
既存のデータベース，28
新規データベース，28
Asset Manager - インストール，29